

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	PCグラフィック応用実習						
担当教員	中村 茂						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	パソコングラフィックによるヴィジュアル・コミュニケーション・デザイン						
授業の概要	PCグラフィック基礎実習に続き、イラストレータ、フォトショップの利用法と共に、ヴィジュアル・コミュニケーション・デザインの基礎的な知識と技術を学ぶ。実際の用途、伝達対象、使用環境などを想定した大判ポスター、パンフレットなどのデザインを通じて、人に視覚情報を効果的に伝えるための基本的技能を養成します。見た目に簡潔で意図がわかりやすく、かつバランスのとれたヴィジュアル媒体をデザインできることを目標とします。						
到達目標	タイポグラフィ、レイアウトデザインの要点を理解し、簡単なエディトリアル作品を制作できる。						
授業計画	1 : 09/27 オリエンテーション - システムの使い方、について - 2 : 10/04 Illustrator・Photoshopの操作 3 : 10/11 タイポグラフィ・デザイン - 1 - 版面率、余白の設定 4 : 10/18 タイポグラフィ・デザイン - 2 - 見出し、本文のジャンプ率 5 : 10/25 タイポグラフィ・デザイン - 3 - 段落スタイルによる長文の統一化 6 : 11/01 Photoshopによる写真の補正 7 : 11/08 写真の組み合わせ・配置の方法 8 : 11/15 タイポグラフィ中心のポスター - 1 - オリンピックピクトグラム 9 : 11/22 タイポグラフィ中心のポスター - 2 - アニマルピクトグラム 10 : 11/29 画像・素材を活用したポスター 装飾素材の活用 11 : 12/06 写真を効果的に活用したポスター ファッションショーの告知 12 : 12/13 エディトリアル制作のための情報収集 ファッションブランドの情報収集 13 : 12/20 リーフレット・デザイン - 1 - 画像とテキストの整理 14 : 01/10 リーフレット・デザイン - 2 - シーズントレンド紹介のレイアウト 15 : 01/17 作品講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	日常的に目にするリーフレット、パンフレットなどのエディトリアルデザインに関心を持つ。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点（40％）は各回の課題の理解度、最終課題（リーフレット）の完成度（60％）を併せて評価します。						
教科書	特に教科書は指定しません。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	PCグラフィック基礎実習						
担当教員	中村 茂						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	「パソコン・グラフィック・アートの制作」						
授業の概要	パソコンのグラフィックソフトの入門として、文字や基本図形、画像などのオブジェクト入力、移動・回転・拡大縮小などの操作、図形作成・変換、画像ファイルの概要、写真画像の補正などの基本操作を習得するとともに、素材集やオンラインのクリップアートを活用したデザイン方法を習得する。グラフィックソフト（イラストレータ、フォトショップ）の基本操作を習得した上で、簡単なグラフィックアート作品の制作を目標とする。						
到達目標	グラフィックソフトの基本操作を習得し、簡単なグラフィックアート作品を制作できる。						
授業計画	1 : 04/12 オリエンテーション システムの使い方、についてー 2 : 04/19 Illustratorの基本操作 3 : 04/26 タイポグラフィ・デザイン -1- フォントの種類、サイズ、和文・英文の違い 4 : 05/10 タイポグラフィ・デザイン -2- テキストの字間・行間、禁則処理 5 : 05/17 ピクトグラム・デザイン -1- アルファベットを基にしたもの 6 : 05/24 ピクトグラム・デザイン -2- 具体的形態を基にしたもの 7 : 05/31 ダイアグラム・デザイン 8 : 06/07 Photoshopの基本操作 -1- 写真の基本的な補正 9 : 06/14 タイポグラフィ中心のポスター 10 : 06/21 ピクトグラムを活用したポスター 11 : 06/28 Photoshopの基本操作 -2- 選択方法、切り抜きと合成 12 : 07/05 画像を効果的に構成したポスター 13 : 07/12 リーフレット・デザイン -1- テーマ設定、写真・テキストの収集 14 : 07/19 リーフレット・デザイン -2- 各ページのレイアウト構成 15 : 07/26 作品講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	日常的に関心を持ってグラフィックソフトのアート作品のデザインを見る習慣を心がける。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	提出作品70%、平常点30%で評価します。						
教科書	特に教科書は指定しません。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	アパレル科学I (被服構成)						
担当教員	戸田 賀志子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	・快適な衣生活をめざして、人体の形態、運動機能性と衣服の関わりについて考え、衣服を造形するうえで必要な知識を習得する。						
授業の概要	私たちの最も身近な環境である衣服について、衣服を着る人体と衣服の構造や形との関連性を学ぶ。そして生まれてから高齢となるまでの体型や機能の変化から、ライフスタイルと衣服について検討する。また、豊かな衣生活を送るために必要な既製のサイズシステムや素材の特性について取り上げる。これらの知識を定着させるため、視聴覚教材や学習内容の実践を交えて理解を確実なものとする。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人体と衣服の関係性を科学的視点から捉え、考察することができる。 ・「衣服を着る」ことから生じる、着心地の良さや、美しさを実現するために必要な知識を習得し、理解する。 ・学習内容の実践や討議・発表を介して、思考力、判断力、表現力を養い、グループ・ワークによって主体性、多様性、協働性を身につける。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ペーパードレスの制作 グループワーク 新聞紙を使ったドレスを製作・発表 3. 衣服の形式と形態 衣服と人体について考える。構造上から衣服の形を分類 4. 和服の歴史と構造 和服の歴史的変遷、素材と構成 5. 人体の構造 着衣する人体の構造 6. 人体の形の把握法1 直接計測法と間接計測法 7. 人体の形の把握法2 前回の学習内容に照らし合わせ、直接計測を行い測定の基本を習得 8. 人体形態の年齢的变化1 成長に伴う体型の変化、成人体型の類型化 9. 人体形態の年齢的变化2 加齢に伴う体型の変化 10. 衣服の素材と造形性能、動作適合性 衣服の設計・制作に必要な素材の性能や動作とゆとり 11. 衣服の選択と購入 既成衣服の生産と流通、表示 12. 衣服の設計1 原型の作成 身頃と袖 着用者に適合したパターンの作成 13. 衣服の設計2 原型の作成 スカート 着用者に適合したパターンの作成 14. 衣服の設計3 デザイン展開 作成したパターンのデザイン展開 15. まとめ、評価、試験 (授業内容の見直し) 						
授業外における学習 (準備学習の内容)	衣服と人体、それぞれの「かたち」と「部分」に着目して観察する。						
授業方法	講義とグループ・ワーク。視聴覚教材 (パワーポイントやDVD) を活用する。						
評価基準と評価方法	課題40%、発表20%、レポート20%、授業への参加度 (積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるか) 20%						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	アパレル科学II (材料)						
担当教員	横山 早美						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	衣生活を支える被服材料の性能について理解を深める						
授業の概要	繊維の性質と集合体構造により決定される布の性質が被服材料としての要求性能に大きく影響を与えていることを理解できる知識を学習する。具体的には、現代の衣生活を支える被服材料の歴史、多種多様な材料と性能、被服の目的・用途に応じた最適材料の選択、繊維製品の組織等について学ぶ。そして、日常生活の衣料の選択、使用、管理の場でこうした知識を応用、発展することによって豊かな衣生活を営むことを目指す。						
到達目標	被服材料(素材)の種類について簡単な実験も加えながら学習する。人間の生理機能から求められる被服材料(素材)の性能を理解した衣生活の営みやアパレル業界への就職に役立つ知識を身に付けることができる。						
授業計画	第1回：被服材料とは 第2回：被服材料の性能と特徴(天然繊維；綿繊維について) 第3回：被服材料の性能と特徴(天然繊維；麻繊維について) 第4回：被服材料の性能と特徴(天然繊維；毛繊維について) 第5回：被服材料の性能と特徴(天然繊維；絹繊維について) 第6回：被服材料の性能と特徴(化学繊維について) 第7回：被服材料の性能と特徴(再生繊維；レーヨンについて) 第8回：被服材料の性能と特徴(再生繊維；キュプラ・ポリノジックについて) 第9回：被服材料の性能と特徴(半合成繊維；アセテートについて) 第10回：被服材料の性能と特徴(合成繊維；ナイロンについて) 第11回：被服材料の性能と特徴(合成繊維；ポリエステルについて) 第12回：被服材料の性能と特徴(合成繊維；アクリルについて) 第13回：被服材料に要求される性能(人間の生理機能から考える) 第14回：被服材料の性能改善と新素材 第15回：授業内容のまとめ・期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：配布資料を事前に読み、理解が難しい点について授業内で質問できるようにしておくこと。(目安とする学習時間：30分～1時間) 授業後学習：毎回、授業で学んだ事柄についての確認テストを実施するので復習を行うこと。(目安とする学習時間：30分～1時間)						
授業方法	講義と簡易な実験や各種試料布を使用しながら被服材料の理解を深める。						
評価基準と評価方法	期末試験(60%)、授業中課題・小テスト(40%)						
教科書	毎回の講義中で資料を配布。						
参考書	日下部信幸著；生活のための被服材料学 家政教育社						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	アパレル科学III (管理・衛生)						
担当教員	横山 早美						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	衣生活を支える被服材料の管理と衛生について理解する						
授業の概要	衣服はヒトの身体を気候の変化から保護する基本的な機能を果たす。ヒトの皮膚や体温の生理的機能と温度・湿度、被服材料の性質の関係に基づき快適で衛生的な衣生活のための被服管理と被服衛生について学習する。具体的には、被服の洗浄と洗剤、洗濯機と洗濯の条件、漂白・しみ抜き、洗濯後の仕上げと保存、繊維製品の取り扱い、被服の衛生的条件、被服による気候調節、被服の熱的・水分性能と保温性・快適性等などの基礎を学ぶ。						
到達目標	新品の洋服も着用、洗濯（クリーニング）、収納（管理）を繰り返えし、いずれは廃棄やリサイクル等によって手元からなくなります。本講義では、主に洗濯による被服の消耗について科学的な視点から学び、普段の衣生活の管理と衛生に役立つ知識を身に付けることができる。						
授業計画	第1回 被服管理・衛生について「洗濯は、なぜ必要か」 第2回 被服の汚れ 「汚れの種類・性質・付着機構」 第3回 汚れの除去 「汚れを除去する材料（洗濯用水）について」 第4回 汚れの除去 「汚れを除去する材料（洗剤）について」 第5回 汚れの除去 各種界面活性剤について 第6回 汚れの除去 「汚れを除去する材料（洗濯方式）について」 第7回 洗浄機構 「洗剤による汚れ除去機構（水系①）」 第8回 洗浄機構 「洗剤による汚れ除去機構（水系②）」 第9回 洗浄機構 「洗剤による汚れ除去機構（非水系）」 第10回 洗浄力試験法 「洗浄力試験と評価」 第11回 漂白と増白 「漂白剤の種類とその作用」 第12回 しみ抜き 「しみ抜きの原理と除去方法について」 第13回 被服の保管 「保管中の損傷の種類とその原因」 第14回 被服の保管 「保管中の損傷防止のための手入れ」 第15回 授業内容のまとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：配布資料を事前に読んでおくこと、理解が難しい事柄について授業内で質問できる準備をしておくこと。（目安とする学習時間：30分～1時間） 授業後学習：授業内容を確認するため課題レポートを提出していただく。その際には、授業で学んだ知識や配布資料等を参考にして考察すること。（目安とする学習時間30分～1時間）						
授業方法	講義と簡易な実験から授業内容をより理解する。						
評価基準と評価方法	期末試験（60%）と課題レポート（40%）の総合評価。						
教科書	毎回の講義で資料を配布する。						
参考書	吉永フミ, 多田千代, 西出伸子, 共著：新版 被服整理学 その実践：光生館 中西茂子, 岩崎芳枝, 斉藤昌子, 他2名：被服整理学：朝倉書店						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーI (生活アート実習)						
担当教員	井上 裕之						
学期	前期隔週B	曜日・時限	火曜3~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	イメージに基づいた平面から立体への造形						
授業の概要	<p>本科目では、デザインイメージの発想法とそのイメージを形にする手法をファッション領域の実習形式で学ぶ。イメージを基に衣服をデザインし、目的に応じた手法で制作することを目的とする。</p> <p>ファッションデザインとは、環境や時代性といった様々な事柄からインスピレーションを受け、それらをイメージ化し、衣服という立体造形として表現するものである。ここでは、個々に設定したテーマを基に、調査・分析し、そこで得られた結果に基づきデザインを発想する。最終的にスカート、Tシャツの組み合わせとしてイメージの立体化をおこなう。</p> <p>また一連の工程の中で、デザインテーマ、デザイン画、試作品、実物作品を資料としてファイリングし、成果物としてまとめる。</p>						
到達目標	<p>1. 認知的領域：知識・理解 (1) 個々に設定したテーマについて調査・分析し、デザインを発想することができる。 (2) 衣服制作に必要な基本的な技法、道具の使い方を理解できる。</p> <p>2. 情意的領域：関心・意欲 (1) 自分の好みを知り、そのイメージを衣装で表現することができる。</p>						
授業計画	<p>1. オリエンテーション：授業内容の説明とテーマ探し。</p> <p>2. 調査・分析：個々に設定したテーマについて調査をおこなう。その内容をテイスト分類、色彩、素材、シルエットなどについて分析し、まとめる。</p> <p>3. デザイン：デザイン手法の説明。デザインの考案。</p> <p>4. デザイン、試作①：デザインの決定。トワルによるスカートの試作。</p> <p>5. 試作②：トワルによるスカートの試作</p> <p>6. スカート①：本布裁断。印つけ。</p> <p>7. スカート②：脇線、ウエスト部分の縫製。</p> <p>8. スカート③：裾の縫製、ウエストゴム通し。</p> <p>9. スカート④：装飾。仕上げ。</p> <p>10. Tシャツ①：デザインの決定。</p> <p>11. Tシャツ②：装飾品等の準備。</p> <p>12. Tシャツ③：各自のデザインに応じ制作。</p> <p>13. Tシャツ④：仕上げ。コーディネート計画。</p> <p>14. 写真撮影：着用写真を撮影。プレゼンテーション用のボード作成。</p> <p>15. プレゼンテーション：作品発表・講評会を行う。</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業後学習：授業内で制作課題が終わらない学生は、次回の授業までに終わらせる。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	実物作品(70%)、資料ファイル(30%)で評価する。						
教科書	必要に応じて、プリントを配布する。						

参考書	
-----	--

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーI (生活アート実習)						
担当教員	川嶋 守彦						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	アートから学ぶ、イメージング方法の研究とその実践						
授業の概要	<p>アートやデザインは言葉や言語を介さずに自らのイメージの持つ力で他者とのコミュニケーションの可能性を示すものであり、個人の交わす日々の会話やジェスチャーと同じ表現の一形態ですが、とてもシンプルで強い印象を人に与えるものです。</p> <p>では、そのアートやデザインはどのような思考によって表現されているのか。その表現の核となるイメージを見出し展開する具体的な表現方法を実制作を通して学びます。簡単なデッサンから始め、基礎的な絵画技法を各テーマと共に習得してゆき、最終課題の自由制作へ向けて授業は進んでいきます。</p> <p>当授業は主に絵画やスケッチ制作を基本としていますが、着想の仕方や構想の展開は絵画だけで成されるものではありません。履修者それぞれに合った表現形態の可能性を模索します。各回に設定されたテーマはそのための補助線となります。当授業ではモダンアートの難解さはありません。手を通しての学び、つまり体験する美術に主眼を置いています。</p>						
到達目標	<p>基礎的なデッサンや着彩技法を習得することが出来る。</p> <p>また、実制作を通じた個別の発想力、技術の確立はそれぞれの履修者にとって、今後の多彩な表現におけるヒントとなり、かつクリエイティブな力を育成することが出来る。</p>						
授業計画	<p>基礎技術の習得</p> <p>第1回 ガイダンス (授業内容の説明)</p> <p>第2回 石膏デッサン (簡単な幾何模型を用いたデッサン)</p> <p>第3回 石膏デッサン</p> <p>第4回 石膏をモチーフとした着彩</p> <p>第5回 静物をモチーフとした着彩 (身の回りの物をモチーフとした絵画制作)</p> <p>イメージング技術の研究</p> <p>第6回 タッチと色彩 (色彩とタッチによる絵画制作)</p> <p>第7回 10のイメージカード制作 (10パターンイメージを生かしたカードの制作)</p> <p>第8回 アートを観賞する (美術施設へのアート見学)</p> <p>第9回 ことばから (4つの名詞をイメージの核にしたスケッチ制作)</p> <p>第10回 身体性の表現 (退屈な身体、繰り返すイメージ)</p> <p>第11回 カメラによるイメージハンティング (各自のテーマに沿った被写体の撮影)</p> <p>第12回 空想家具 (3点のデザイン画制作)</p> <p>第13回 自由制作の構想 (各自がテーマを見つけ出し具体化の構想スケッチ制作)</p> <p>第14回 自由制作 (自らが見つけたテーマと素材で制作)</p> <p>第15回 自由制作 (自らが見つけたテーマと素材で制作とその講評)</p>						
授業外における学習 (準備学習の内容)	<p>普段何気なくみている物や現象に注視すること。</p> <p>思わぬところに制作時のアイデアやヒントが隠れています。これらを授業内容とリンクさせることによりクリエイティブな表現が可能となります。</p>						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	出題テーマに対する理解、応用、発想力30%、技術力30%、熱心さ(受講姿勢)40%で評価します。						
教科書							
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーI (生活アート実習)						
担当教員	小池 朱里						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	コンセプトメイキングから始まる空間やモノのデザインを体感し、コミュニケーションを生み出すクリエイティブな感性を育てる						
授業の概要	デザインスキル能力向上の一部として、ごく身近なファッションやインテリア関連小物の制作を行なう。イメージやコンセプトを具体的なものとして実現するプロセスに習熟すると同時に、実際に制作することを通して“もの”あるいは“素材”に対する想いを育むことを目的とする						
到達目標	(1) イメージを形にするプロセスを楽しむ感性を身につけることができる (2) 伝えたいメッセージを明確にし、空間を創り上げる楽しさを体験することができる (3) 想いを込めて製作することで、人が幸せに笑顔になる喜びを体感することができる						
授業計画	<p>第1回 コミュニケーションデザインとは</p> <p>第2回 コンセプトメイキング・プランニングの仕方 ペーパークラフト制作①：フローチ ※パーティー・イベントプロデュース課題</p> <p>第3回 ショーウィンドウプランニング ドキュメンタリー映画『ニューヨーク・バーグドルフ 魔法のデパート』94分 ※レポート課題</p> <p>第4回 空間プロデュース発表 10名 ペーパークラフト制作②：ガーランド</p> <p>第5回 空間プロデュース発表 10名 ペーパークラフト制作③：デコレーションアイテム</p> <p>第6回 実際の空間プランニング ※コンセプト&テーマカラー</p> <p>第7回 発表：コンセプトとテーマカラー 全員</p> <p>第8回 イメージスケッチ</p> <p>第9回 空間デコレーションアイテム制作：①キービジュアル</p> <p>第10回 空間デコレーションアイテム制作：②インビテーション</p> <p>第11回 空間デコレーションアイテム制作：③空間装飾 I</p> <p>第12回 空間デコレーションアイテム制作：④空間装飾 II</p> <p>第13回 空間デコレーションアイテム制作：⑤テーブルトップデコレーション</p> <p>第14回 発表 及び 制作</p> <p>第15回 発表 及び 制作</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：自分自身が興味のあるもの、好きなモノ・コトに常にアンテナを張り、情報収集しておくこと 授業後学習：各課題や実際の空間プロデュース実現に向けてイメージを膨らまし、固めていくこと						
授業方法	講義と制作、空間プロデュースの実際						
評価基準と評価方法	平常点	30%	レポート課題	10%	発表	60%	

教科書	プリント、レジュメを配布
参考書	参考書は必要に応じて授業中に紹介します

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーI (生活アート実習)						
担当教員	中村 茂						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	「パソコン・グラフィック・アートの制作」						
授業の概要	パソコンのグラフィックソフトの入門として、フライヤーやグリーティングカードの制作を課題とする基礎実習を行う。文字や基本図形、画像などのオブジェクト入力、移動・回転・拡大縮小などの基本操作を習得するとともに、素材集やオンラインのクリップアートを活用したデザイン方法を習得する						
到達目標	グラフィックソフトの基本操作を習得し、簡単なグラフィックアート作品を制作できる。						
授業計画	1 : 04/12 オリエンテーション - システムの使い方、について - 2 : 04/19 Illustratorの基本操作 3 : 04/26 タイポグラフィ・デザイン - 1 - フォントの種類、サイズ、和文・英文の違い 4 : 05/10 タイポグラフィ・デザイン - 2 - テキストの字間・行間、禁則処理 5 : 05/17 ピクトグラム・デザイン - 1 - アルファベットを基にしたもの 6 : 05/24 ピクトグラム・デザイン - 2 - 具体的形態を基にしたもの 7 : 05/31 ダイアグラム・デザイン 8 : 06/07 Photoshopの基本操作 - 1 - 写真の基本的な補正 9 : 06/14 タイポグラフィ中心のポスター 10 : 06/21 ピクトグラムを活用したポスター 11 : 06/28 Photoshopの基本操作 - 2 - 選択方法、切り抜きと合成 12 : 07/05 画像を効果的に構成したポスター 13 : 07/12 リーフレット・デザイン - 1 - テーマ設定、写真・テキストの収集 14 : 07/19 リーフレット・デザイン - 2 - 各ページのレイアウト構成 15 : 07/26 作品講評						
授業外における学習(準備学習の内容)	日常的に関心を持ってグラフィックソフトのアート作品のデザインを見る習慣を心がける。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	提出作品70%、平常点30%で評価します。						
教科書	特に教科書は指定しません。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーII (デザインスキル実習)						
担当教員	蔵田 優美						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	材料から立体的な造形(模型)を生み出す 模型制作を通して木造の建物を具体的に学ぶ 建築空間の創造と模型制作						
授業の概要	模型は、インテリアや建築分野において、実際の空間で表現したいものを考察・プレゼンテーションするために、未だ必須の表現媒体です。模型とは、「実物の形に似せて作ったもの(大辞泉)」ですが、模型が芸術的価値を持つこともしばしばあります。そして、模型制作には様々な方法があり、材料や作り方に制約はありません。本実習では、建築模型でよく使われる材料と方法を学びながら、模型というものがどのようなものなのか、何を表現するために必要なのかを体験します。課題制作を通して、建築、家具、人物などの独自の表現方法も考えてみましょう。						
到達目標	模型制作の基礎を習得し、模型を制作することができる 実物と模型の相互関係がわかる 模型で考えを表現することができる						
授業計画	第1回 ガイダンス 模型や模型制作道具について 第2回 実習課題1 「箱」の制作、建築模型制作の基礎 第3回 実習課題2 「茶室の起し絵模型の制作」(1) 課題説明 第4回 実習課題2 「茶室の起し絵模型の制作」(2) 第5回 実習課題3 「木構造軸組模型制作」(1) 課題説明 第6回 実習課題3 「木構造軸組模型制作」(2) 第7回 実習課題3 「木構造軸組模型制作」(3) 中間講評 第8回 実習課題3 「木構造軸組模型制作」(4) 第9回 実習課題3 「木構造軸組模型制作」(5) 第10回 実習課題3 「木構造軸組模型制作」(6) 第11回 実習課題3 「木構造軸組模型制作」(7) 提出、講評 第12回 実習課題4 「パピリオンの模型制作」(1) 課題説明 第13回 実習課題4 「パピリオンの模型制作」(2) 第14回 実習課題4 「パピリオンの模型制作」(3) 第15回 実習課題4 「パピリオンの模型制作」(4) 発表、講評						
授業外における学習(準備学習の内容)	準備学習は特に必要ありません。日常的な宿題は課しませんが、課題の提出前に各自の進捗状況によって、授業外における課題制作をして頂く必要があります。課題の提出前に多くの作業を残さないよう授業内でできるだけ作業を進めましょう。カッターやボンドを使う作業となり、詳細は授業内で説明します。必要時間は、作業の丁寧さ、こだわり、速度によって異なります。実習課題4で、0時間~6時間必要です。特に、自分で案を考える課題4では、いくらでも時間をかけることができるので学修時間を短くするよう心がけて下さい。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点(レポート、質疑応答など) 50% 課題 50%						
教科書	[模型で学ぶ] 建築構法入門 在来木造編 改訂版 井上書院 ISBN978-4-7530-1618-1						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーII (デザインスキル実習)						
担当教員	戸田 賀志子						
学期	後期隔週B	曜日・時限	火曜3~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	ファッションイラストの基礎技術を習得する						
授業の概要	人物デッサン、クロッキーなどの実習を通してファッションドローイングの基本を身につけ、ファッションデザインに必要な技術を習得する。また、さまざまな画材（マーカーや水彩など）の特性を理解し、衣服のフォルム、色彩、素材感、バランスなどの表現方法を学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージするデザインを効果的に表現することができる。 ・画材の特性を理解することができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 物体の観察及びデッサン線の練習 3. 人物デッサン1 顔・手・足 4. 人物デッサン2 ポーズ 5. 人物デッサン3 クロッキー 6. 衣服の表現1 ハンガーイラスト トップス 7. 衣服の表現2 ハンガーイラスト ボトムス 8. 見学実習1 テキスタイルデザインの現場を見学 9. 見学実習2 テキスタイルの現場を見学 10. テキスタイルの風合いや柄の表現1 織物 11. テキスタイルの風合いや柄の表現2 編物 12. 彩色 色鉛筆 13. 彩色 マーカー 14. 作品制作 15. 作品完成及び発表 						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・ファッションに関するメディア（雑誌や映像など）に登場するスタイル分析を行う。 ・身近にある物のドローイングを行う。 						
授業方法	実習。配布するプリントや視聴覚教材（DVD）を活用する。						
評価基準と評価方法	作品35%、発表35%、授業への参加度（積極的課題に取り組んでいるか、自分なりの表現を試みようとしているか）30%						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーII (デザインスキル実習)						
担当教員	中村 茂						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	パソコングラフィックによるヴィジュアル・コミュニケーション・デザイン						
授業の概要	パソコンのグラフィック・ソフトを利用したヴィジュアル・コミュニケーション・デザインの基礎実習を行います。実際の用途、伝達対象、使用環境などを想定したポスター、リーフレットなどのデザインを通じて、人に視覚情報を効果的に伝えるための基本的技能を養成します。見た目に簡潔で意図がわかりやすく、かつバランスのとれたヴィジュアル媒体をデザインできることを目標とします。						
到達目標	タイポグラフィ、レイアウトデザインの要点を理解し、簡単なエディトリアル作品を制作できる。						
授業計画	1 : 09/27 オリエンテーション - システムの使い方、について - 2 : 10/04 Illustrator・Photoshopの操作 3 : 10/11 タイポグラフィ・デザイン - 1 - 版面率、余白の設定 4 : 10/18 タイポグラフィ・デザイン - 2 - 見出し、本文のジャンプ率 5 : 10/25 タイポグラフィ・デザイン - 3 - 段落スタイルによる長文の統一化 6 : 11/01 Photoshopによる写真の補正 7 : 11/08 写真の組み合わせ・配置の方法 8 : 11/15 タイポグラフィ中心のポスター - 1 - オリジナルピクトグラム 9 : 11/22 タイポグラフィ中心のポスター - 2 - アニマルピクトグラム 10 : 11/29 画像・素材を活用したポスター 装飾素材の活用 11 : 12/06 写真を効果的に活用したポスター ファッションショーの告知 12 : 12/13 エディトリアル制作のための情報収集 ファッションブランドの情報収集 13 : 12/20 リーフレット・デザイン - 1 - 画像とテキストの整理 14 : 01/10 リーフレット・デザイン - 2 - シーズントレンド紹介のレイアウト 15 : 01/17 作品講評						
授業外における学習(準備学習の内容)	日常的に目にするリーフレット、パンフレットなどのエディトリアルデザインに関心を持つ。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点(40%)は各回の課題の理解度、最終課題(リーフレット)の完成度(60%)を併せて評価します。						
教科書	特に教科書は指定しません。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーII (デザインスキル実習)						
担当教員	米原 慶子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	インテリアデザインの基礎的な表現図法を学ぶ。						
授業の概要	<p>インテリアスペースや住空間をデザインするためには、製図板やCADでの製図をする前や合間に、頭に描いたイメージをまず、手描きのドローイングでスケール感やプロポーションをできるだけ正しくとらえ、表現してみることが重要である。この授業では、平面図・立面図・断面図といった二次元の図法や、アイソメトリック、アクソメトリック、1点透視図法などの基本を学びながら、デザインに必要な様々なドローイングのスキルを身につけるための課題に取り組む。また課題の題材については、デザイン・リサーチを行って理解を深め、ドローイング課題とともに発表、講評する形式で授業をすすめる。</p> <p>キーワード：インテリアデザイン、表現図法、作品制作</p>						
到達目標	<p>課題の目的に応じたインテリアエレメントを選び、適切なレイアウトをすることができる。 手描きでインテリアの基礎的な図面（平面図、展開図、パース）を描き、プレゼンテーションボードにまとめ、トータルに空間表現ができるようになる。</p>						
授業計画	<p>第1回 ガイダンスおよびインテリアの考え方について。図法を用いた家具のスケッチの練習。</p> <p>第2回 様々な椅子のデザインを表現する。現物や模型を実測しながら、三面図と三次元の図法（アクソメ、アイソメ、キャビネット等）を用いたドローイングを描く。</p> <p>第3回 様々な椅子のドローイングに、着彩（色鉛筆）と文字による補足を加え、トータルにデザインを表現する。「一人暮らしのインテリア」課題説明。収納の考え方、デザインの方法を説明。</p> <p>第4回 システム収納家具などを用いて、各部収納を考える。</p> <p>第5回 収納デザインのチェック。平面図の描き方解説。「一人暮らしのインテリア」課題平面図（スケルトン）のトレース。</p> <p>第6回 インテリアエレメントの配置、エスキース。</p> <p>第7回 平面図作成。</p> <p>第8回 展開図の描き方解説。展開図作成。</p> <p>第9回 平面図と展開図の描き込み、着彩。</p> <p>第10回 一点透視パースの描き方練習問題。</p> <p>第11回 一点透視パースの作成。</p> <p>第12回 各ドローイングのチェックと修正、補足。</p> <p>第13回 作成したドローイングをスキャナーで画像データ化し、パソコンでレイアウトする（Illustratorを使用）。</p> <p>第14回 Illustratorでドローイングに文字とインテリアエレメントの画像を加え、全体のレイアウトを整えて、プレゼンテーションボードに仕上げる。</p> <p>第15回 プレゼンテーションボードのチェックと修正。プリントアウトし、発表と講評を行なう。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>家具、建材のショールームなどの課題に関連する見学および専門誌やインターネットの検索等、資料収集を各自積極的に行なうこと。 （FHD基礎演習Bのハウジング領域のクラスで行う内容と連動するので、留意のこと）</p>						
授業方法	実習						

評価基準と評価方法	平常の小課題と最終課題作品の成績に出席状況・受講態度等の平常点を加味し、総合的に評価する。 (評価比率：小課題30%、最終課題作品40%、平常点30%)
教科書	プリントを配布する。
参考書	「インテリア・スケッチ Super トーク」(長谷川矩祥著、グラフィック社) その他推薦する本を授業中に紹介するので、各自参考にする本、住宅雑誌等を購入すること。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーIII (イメージリサーチ演習)						
担当教員	徳山 孝子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	変化する社会に適応、街ゆく人のイメージリサーチとショップ選びのマーケティングリサーチを学ぶ。						
授業の概要	本稿では、「生活者」と「企業側」の2つの側面を捉え、「ライフスタイルをつくり上げ、実行できる生活者」と「その生活者のニーズに対応した業態化・商品化への動きを提案できる企業」からファッション・マーケティングを学ぶ。生活者のファッションチェック、流行色の取り入れ方をリサーチし、生活者のライフスタイルをまとめ、神戸・大阪の専門店・量販店・百貨店の店舗を比較し、生活者のファッションイメージを模索するとともにショップのリサーチを分析する。						
到達目標	1) 私のファッションを説明することができる。 2) 流行を図表でまとめることができる。 3) ファッションリサーチの内容を列挙することができる。 4) ファッションリサーチの結果を説明することができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (課題テーマ、方針・進め方の説明) 2. 私のPersonal brandingを分析 3. 私のファッションチェックし、発表 4. 流行色および流行とは何かを説明 (ファッション雑誌より) 5. 今年の流行色を分析 (ファッション雑誌より) 6. ファールド調査の説明 7. 流行色のフィールを調査 8. 流行色のリサーチ結果をグラフ化し、分析、まとめ 9. 雑誌を用い、流行を含めたファッションを分析、まとめ 10. ファッションリサーチをする前の項目およびリサーチする場所の決定。 11. 大学内のファッションリサーチを実施。 12. 学外のファッションリサーチとショップのリサーチ 13. 学内および学外のファッションリサーチを比較、分析 14. パワーポイントにまとめる 15. 発表 						
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前学習は、授業内で説明する。 授業後学習は、学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。						
授業方法	プリントを配布する。そのプリントに添って演習する中で、画像を使って確認をしながら進める。						
評価基準と評価方法	レポート70%、発表30%						
教科書	教科書としては、特に用いないが、プリントなどを使用する。						
参考書	杉原淳子著『ファッション・マーケティング』 (嵯峨野書院)						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーIII (イメージリサーチ演習)						
担当教員	中林 浩						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	<p>戸外に出て調査をし、どんな風物・景観があるのかを図示する授業です。「デザインサーベイ」といってもいいかな。この授業が対象とする地域という対象は、多面的で豊かな内容をもちます。山があり川があり、お店や工場があり住宅があり、鉄道があり道路があります。自然物がそれぞれの法則で存在しているなかで、人間が生活をしています。まず、そういう基本的なことを体感することが大切ですね。それを図として表現する基礎を学びます。基本的な態度や技術を学ぶといってもひとつの授業ですのでたくさんのはできません。</p> <p>ちょっとしたマッピングの練習といったところでしょうか。でも、みんなマップを書くのが苦手ですね。とくに簡略化することが。写真を撮ったり記述したり絵やマップにしあげます。これらを経て、都市やまちづくりへの興味を深めてもらいます。自分が体感したことを表現するには訓練がいるというのがわかるでしょう。</p> <p>あっ、そして調査中のハプニングにも期待します。だれかに話しかけられたとか、道に迷ってしまったとか。つまりそのときにしか起こらなかった記録が重要なのです。</p>						
授業の概要	「授業のテーマ」で述べました。						
到達目標	「授業のテーマ」で述べたことが、いつか30歳になったときでも、50歳になったときでも深くわかっていただけたらと願いますという教員に応えることができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 リサーチの準備—なにを調べるのか 2 リサーチの準備—どこで調べるか 3 リサーチの準備—どのように調べるか 4 リサーチ1—踏査・メモ 5 リサーチ1—スケッチ・写真・マップ 6 かんたんまとめ 7 リサーチ2—踏査・メモ 8 リサーチ2—スケッチ・写真・マップ 9 かんたんまとめ 10 リサーチ3—踏査・メモ 11 リサーチ3—スケッチ・写真・マップ <p>●写真から起こした景観の絵を5枚以上手書きで描いてスキャナーでとる。それをパワーポイント5ページにして提出。●解説を付ける、どう良いかどう悪いか。●地図も付ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 12 まとめ作業—ややかんたんに 13 まとめ作業—くわしく 14 まとめ作業—完成1 15 まとめ作業—完成2 						
授業外における学習(準備学習の内容)	森羅万象に興味をもってください。日常生活において、こころを虚しくしてものを眺めたり、ときには注視したりする習慣を身につけてください。「やってみなければ分からない」という言葉は保守的な慣習を他人に強制する時に使用する(「マーフィの法則」より)。						
授業方法	「授業のテーマ」で述べたとおりの演習です。						
評価基準と評価方法	おおむね提出物で採点し、授業への参加の積極性を加味することもあります。						
教科書							
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシーⅣ（カラーコーディネート演習）						
担当教員	徳山 孝子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	色彩の知識から演習を通じ幅広く理解する。						
授業の概要	カラーデザイン論の応用演習科目として位置付ける。カラーを通じてウェブデザインを表現し、ウェブサイト制作のカラー配色法を学ぶ。カラーの応用力を養うために常識的な内容から順序を踏み、体系的に学ぶ。「色とは何か」から色の性格を理解し、色の表し方や色の調和、色の知覚的効果、色の感情効果、色の美的効果を中心に演習を通じ理解する。次に、色の基礎的知識を得た上で応用編としてウェブサイトの配色計画を、演習をおして習得する。						
到達目標	1) 配色が分類できる。 2) 雑誌のファッションを配色分類できる。 3) 好きな色を活かしながら快適な空間を演出するカラー・コーディネートが出来る。 4) パソコンを使ってファッションカラー・コーディネートができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明）：色の本質を説明 2. 配色①：色相、トーンをもとにした配色を演習 3. 配色②：ナチュラルハーモニー・コンプレックスハーモニーの配色を演習 4. 雑誌から配色①・②のコーディネートを考える 5. 配色③：ドミナント、トーンオントーン、トーンイントーンの配色を演習 6. 配色④：トータル、カマイユ、フォカマイユの配色を演習 7. 配色⑤：トリコロール、ピコロール、マルチカラーの配色を演習 8. 配色⑥：セパレーション、グラデーションの配色を演習 9. 雑誌から配色③・④・⑤・⑥のコーディネートを考える 10. Work paperで復習しよう。 11. インテリア1：個人や家族の空間と快適な色の関係の配色を演習 12. インテリア3：好きな色が主役の理想の部屋づくりに挑戦 13. テーブルカラーコーディネートの配色 14. 色の見やすさを重視したウェブサイトのコーディネート 15. パソコンを使ってファッションカラーコーディネート 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習は、授業内で説明する。 授業後学習は、学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。						
授業方法	毎回、演習形式で行う。配色を演習する。						
評価基準と評価方法	課題100%						
教科書	財団法人日本色彩研究所監修『fashion color co-ordinate work paper 配色実習台紙』（日本色研事業株式会社） 財団法人日本色彩研究所監修『カラーコーディネートの基本』（日本色研事業株式会社） 財団法人日本色彩研究所監修『新配色カード199b』（日本色研事業株式会社） 尚、『新配色カード199b』を1年で購入した学生は、購入しなくてよい。						
参考書	授業内にて紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	イメージリテラシー入門／イメージリテラシー論						
担当教員	中村・戸田・井上・中林						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッション・ハウジングデザインにおけるイメージの重要性						
授業の概要	コンピュータを中心とするメディアの発達により視覚偏重の進む現代社会ではイメージが与える影響力は増大している。そうした背景のもとにファッションやハウジングデザインの世界において、デザイナーが展開する豊かなイメージーションや、デザインプロセスに表れる多様な役割の実例などを通じて、その重要性を理解するため各専門領域の担当者によるオムニバス授業を行う。全体は導入部分（3回）、ファッション領域（3回×2）、ハウジング領域（6回）で構成される。						
到達目標	ファッション、ハウジング領域におけるイメージの豊かさや必要性に触れることで、イメージリテラシー科目の目標であるイメージの生成や解釈の重要性について理解できる。2つの領域に特有な多様なイメージーションの世界を実感できる。						
授業計画	1) 04/10 オリエンテーション 2) 04/17 中村：「マインドマップ」というメディア 3) 04/24 中村：「マインドマップ」と「イメージ」 4) 05/08 戸田：テキスタイル（糸、布、柄）をデザインすることとは？ 5) 05/15 戸田：テキスタイルのイメージ作り 6) 05/22 戸田：世界のテキスタイル見本市からテキスタイルデザインを考える 7) 05/29 井上：ファッションデザインの現場を知る 8) 06/05 井上：ファッションイメージ用語とイメージ分類 9) 06/12 井上：イメージ発想とファッションデザイン法 10) 06/19 中林：地域・居住地の構成 11) 06/26 中林：職住緑近接 12) 07/03 中林：世界の大都市 13) 07/10 中林：農村・中小都市・ニュータウン 14) 07/17*中林：魅力ある都市 15) 07/24 中林：まちづくりの歴史・時代のものさしをもとう *（祝日）						
授業外における学習（準備学習の内容）	特に無し。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	各講師からのレポート課題70%と平常点30%。						
教科書	『現代デザイン事典 2016年版』（平凡社、監修 勝井三雄・田中一光・向井周太郎）						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	インテリアエレメント論						
担当教員	米原 慶子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	インテリアを構成するモノたちのデザイン						
授業の概要	家具や照明、グラフィックなど、インテリアデザインにおけるエッセンシャルなエレメントに着目し、モダンデザインの黎明期から現代までの、主要な空間とデザインの変遷をたどる。産業革命によって生み出されたモダンデザインの源泉をたどり、アール・ヌーヴォー、アール・デコの造形運動、1920～30年代のムーブメントを経て戦後、アメリカ、イタリア、スカンジナビアや日本で生み出された優れたデザインのインテリアエレメントとそのデザイナー達について学ぶ。 キーワード：家具・照明、建築空間、デザイン史						
到達目標	西洋と日本の近現代のデザイン史上、主要なデザイン様式の違いを見分けることができる。 著名ないくつかのインテリアエレメント（特に椅子とあかり）について、デザインの特徴や背景、デザイナーを説明できる。 各自の特に好きなデザイン作品とデザイナー名をいくつか挙げるができる。						
授業計画	第1回 ガイダンス（授業の概要、進め方と学習目標）、インテリアエレメントの楽しみ方 第2回 モダンデザインVSクラシック／西洋古典の空間とインテリアエレメント 第3回 モダンデザインVS和のデザイン／日本の伝統空間とインテリアエレメント 第4回 デザインの美学 身近に楽しむクラシックと和のデザイン 第5回 モダンデザインの黎明ージャポニズム／万国博覧会とアーツ・アンド・クラフツ 第6回 アール・ヌーヴォーのデザイン 第7回 初期近代建築とアール・デコのデザイン 第8回 1920年代ー第1次世界大戦後のデザイン・ムーブメント 第9回 巨匠達の時代とデザイン 第10回 ミッド・センチュリーのアメリカ・イタリア・日本 第11回 北欧のデザイナー達 第12回 ポスト・モダンの時代 第13回 全体のまとめ、期末レポート中間報告、質疑応答 第14回 現代のデザイナー達ー ゲストスピーカーによる自作の紹介とミラノ・サローネ報告 第15回 期末レポートの発表と提出						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回参考資料を紹介するので、興味のあるテーマについて、各自で学習を深めること。 テーマ関連の建築やショールーム見学を積極的に行うのが望ましい。						
授業方法	講義（スライドレクチャー）						
評価基準と評価方法	毎回のミニレポート（出席点と平常点含む）および期末レポートの成績 （評価比率：毎回のミニレポート60%、期末レポート40%）						
教科書	「カラー版 世界デザイン史」 監修：阿部公正 出版社：美術出版社 ISBN：4-568-50174-1						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目												
科目名	インテリア基礎実習												
担当教員	小池 朱里												
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0						
授業のテーマ	コンセプトメイキングから始まる空間やモノのデザインを体感し、コミュニケーションを生み出すクリエイティブな感性を育てる												
授業の概要	デザインスキル能力向上の一部として、ごく身近なファッションやインテリア関連小物の制作を行なう。イメージやコンセプトを具体的なものとして実現するプロセスに習熟すると同時に、実際に制作することを通して“もの”あるいは“素材”に対する想いを育むことを目的とする												
到達目標	(1)イメージを形にするプロセスを楽しむ感性を身につけることができる (2)伝えたいメッセージを明確にし、空間を創り上げる楽しさを体験することができる (3)想いを込めて製作することで、人が幸せに笑顔になる喜びを体感することができる												
授業計画	<p>第1回 コミュニケーションデザインとは</p> <p>第2回 コンセプトメイキング・プランニングの仕方 ペーパークラフト制作①：フローチ ※パーティー・イベントプロデュース課題</p> <p>第3回 ショーウィンドウプランニング ドキュメンタリー映画『ニューヨーク・バーグドルフ 魔法のデパート』94分 ※レポート課題</p> <p>第4回 空間プロデュース発表 10名 ペーパークラフト制作②：ガーランド</p> <p>第5回 空間プロデュース発表 10名 ペーパークラフト制作③：デコレーションアイテム</p> <p>第6回 実際の空間プランニング ※コンセプト&テーマカラー</p> <p>第7回 発表：コンセプトとテーマカラー 全員</p> <p>第8回 イメージスケッチ</p> <p>第9回 空間デコレーションアイテム制作：①キービジュアル</p> <p>第10回 空間デコレーションアイテム制作：②インビテーション</p> <p>第11回 空間デコレーションアイテム制作：③空間装飾Ⅰ</p> <p>第12回 空間デコレーションアイテム制作：④空間装飾Ⅱ</p> <p>第13回 空間デコレーションアイテム制作：⑤テーブルトップデコレーション</p> <p>第14回 発表 及び 制作</p> <p>第15回 発表 及び 制作</p>												
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：自分自身が興味のあるもの、好きなモノ・コトに常にアンテナを張り、情報収集しておくこと 授業後学習：各課題や実際の空間プロデュース実現に向けてイメージを膨らまし、固めていくこと												
授業方法	講義と制作、空間プロデュースの実際												
評価基準と評価方法	<table> <tr> <td>平常点</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>レポート課題</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>発表</td> <td>60%</td> </tr> </table>							平常点	30%	レポート課題	10%	発表	60%
平常点	30%												
レポート課題	10%												
発表	60%												

教科書	プリント、レジュメを配布
参考書	参考書は必要に応じて授業中に紹介します

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	インテリアコーディネート演習						
担当教員	小山 明子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	サニタリー、キッチン・ダイニングの詳細デザインを考える						
授業の概要	住空間のインテリアについて、各部の様々なエレメントを具体的に選択し、コーディネートする方法を学び、課題作品を制作する。 様々な材料や工法、寸法や納まりについての理解を深めるため、建材・住宅設備関係のショールーム見学を行い、ドローイング（平面図、展開図、照明計画図、パースなど）およびサンプルボードを作成、プレゼンテーションボードにまとめる。						
到達目標	2年時に学んだインテリアの材料や工法、納まり等についての知識をさらに深めながら応用し、インテリアデザインをトータルに構成し、表現する力を養う。 サニタリー、キッチンに関する具体的な素材を選択し、プレゼンテーションができるようになる。						
授業計画	第1回 ガイダンス、課題「サニタリーの設計」ポイント解説、参考作品事例の紹介 第2回 ヒアリングレポート（クライアントプロフィール）の作成 第3回 サニタリー関係ショールーム見学 第4回 住設建材のリサーチ、デザイン提案の作成 第5回 「サニタリーの設計」ドローイングの作成 第6回 「サニタリーの設計」サンプルボードの作成 第7回 課題「キッチン・ダイニングの設計」ポイント解説、参考作品事例の紹介 第8回 住設建材のリサーチ、デザイン提案の作成 第9回 キッチン関係・照明関係ショールーム見学 第10回 「キッチン・ダイニングの設計」ドローイングの作成 第11回 「キッチン・ダイニングの設計」サンプルボードの作成 第12回 照明計画のポイント解説、参考事例の紹介、デザイン提案の作成 第13回 照明計画図の作成、プレゼンテーションボードのまとめ 第14回 課題の発表・講評 第15回 課題の手直し・追加、最終チェック・提出						
授業外における学習（準備学習の内容）	実在する身近な人をクライアントに設定して課題を進めます。 サニタリー、キッチン、照明、建材等のショールームの見学に行ってみましょう。 身近なサニタリーやキッチンについて、具体的な寸法や使用勝手を把握してみる。 （自宅の洗面の寸法を測る、キッチンにある物についてまとめるなど）						
授業方法	演習、講義						
評価基準と評価方法	プレゼンテーションボード50%、平常点・演習プリント50%						
教科書	プリントを配布						
参考書	最高の水廻りをデザインする方法 著者：連合設計社市谷建築事務所 発行所：株式会社エクスナレッジ ISBN978-4-7678-1203-8						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	インテリアスペース論						
担当教員	矢代 恵						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	インテリア空間の基礎知識を修得する						
授業の概要	人々は日常生活において私的な空間から公的な空間に至るまで、インテリア空間で活動している。本講義では、インテリア空間の様々な構成要素や、機能性、安全性、快適性などを踏まえたインテリア空間のデザインやコーディネートの基礎的な概念を学ぶ。						
到達目標	目的と条件に見合ったインテリアを創造する為に必要な基礎知識を学習できる。インテリア空間をつくる、下地となる見えない部分・可視的な構成要素やデザインを知ると共に、インテリア空間が人にもたらす心理的・身体的効果も学習できる。						
授業計画	第1回 ガイダンス、インテリアと人間1（ライフスタイルとインテリア） 第2回 インテリアと人間2（人間工学とモジュール） 第3回 住宅の構造・木造（躯体の構成・各部材名称） 第4回 住宅の構造・その他の構造（各種構造と構法） 第5回 インテリアの構法（床・壁・天井の名称） 第6回 インテリアエレメント1（床・壁・天井の材料） 第7回 インテリアエレメント2（建具・ウインドウトリートメント他） 第8回 光とあかりのデザイン（自然光と照明） 第9回 住宅設備機器（キッチン・風呂・洗面・トイレ他） 第10回 空間と色1（色とイメージ・色彩心理・色彩調和他） 第11回 空間と色2（インテリアのカラーコーディネート・演習） 第12回 暮らし（生活場面）から考えるインテリア計画 第13回 リフォームの計画 第14回 まとめと試験 第15回 インテリアの表現手法・試験解説と質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容）	今後の参考資料となるよう、毎回の授業内容をまとめて整理しておく。実際に様々なインテリア空間やショールームに行き、空間を体感し、材料や商品を見て授業で学んだことを再確認してください。						
授業方法	講義と小演習 *講義はPPT（パワーポイント）・ビデオをプロジェクターを使用して行う						
評価基準と評価方法	平常点、レポート、試験の総合評価とする。（平常点（ミニテスト含む）60% レポート10% 試験30%） 提出期限を厳守すること（遅れた場合は減点）欠席の場合は減点 総合点が59点以下の場合は単位を取得できない。						
教科書	インテリアコーディネーターハンドブック統合版下巻 著：インテリア産業協会 配布プリント						
参考書	インテリアコーディネーターハンドブック統合版上巻 著：インテリア産業協会 住宅インテリア究極ガイド2015～2016 著：村上太一 出版：エクスナレッジ						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	インテリアドローイング実習						
担当教員	米原 慶子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	インテリアデザインの基礎的な表現図法を学ぶ。						
授業の概要	<p>インテリアスペースや住空間をデザインするためには、製図板やCADでの製図をする前や合間に、頭に描いたイメージをまず、手描きのドローイングでスケール感やプロポーションをできるだけ正しくとらえ、表現してみることが重要である。この授業では、平面図・立面図・断面図といった二次元の図法や、アイソメトリック、アクソメトリック、1点透視図法などの基本を学びながら、デザインに必要な様々なドローイングのスキルを身につけるための課題に取り組む。また課題の題材については、デザイン・リサーチを行って理解を深め、ドローイング課題とともに発表、講評する形式で授業をすすめる。</p> <p>キーワード：インテリアデザイン、表現図法、作品制作</p>						
到達目標	<p>課題の目的に応じたインテリアエレメントを選び、適切なレイアウトをすることができる。 手描きでインテリアの基礎的な図面（平面図、展開図、パース）を描き、プレゼンテーションボードにまとめ、トータルに空間表現ができるようになる。</p>						
授業計画	<p>第1回 ガイダンスおよびインテリアの考え方について。図法を用いた家具のスケッチの練習。</p> <p>第2回 様々な椅子のデザインを表現する。現物や模型を実測しながら、三面図と三次元の図法（アクソメ、アイソメ、キャビネット等）を用いたドローイングを描く。</p> <p>第3回 様々な椅子のドローイングに、着彩（色鉛筆）と文字による補足を加え、トータルにデザインを表現する。「一人暮らしのインテリア」課題説明。収納の考え方、デザインの方法を説明。</p> <p>第4回 システム収納家具などを用いて、各部収納を考える。</p> <p>第5回 収納デザインのチェック。平面図の描き方解説。「一人暮らしのインテリア」課題平面図（スケルトン）のトレース。</p> <p>第6回 インテリアエレメントの配置、エスキース。</p> <p>第7回 平面図作成。</p> <p>第8回 展開図の描き方解説。展開図作成。</p> <p>第9回 平面図と展開図の描き込み、着彩。</p> <p>第10回 一点透視パースの描き方練習問題。</p> <p>第11回 一点透視パースの作成。</p> <p>第12回 各ドローイングのチェックと修正、補足。</p> <p>第13回 作成したドローイングをスキャナーで画像データ化し、パソコンでレイアウトする（Illustratorを使用）。</p> <p>第14回 Illustratorでドローイングに文字とインテリアエレメントの画像を加え、全体のレイアウトを整えて、プレゼンテーションボードに仕上げる。</p> <p>第15回 プレゼンテーションボードのチェックと修正。プリントアウトし、発表と講評を行なう。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>家具、建材のショールームなどの課題に関連する見学および専門誌やインターネットの検索等、資料収集を各自積極的に行なうこと。 （基礎演習Bのハウジング領域のクラスで行う内容と連動するので、留意のこと）</p>						
授業方法	実習						

評価基準と評価方法	平常の小課題と最終課題作品の成績に出席状況・受講態度等の平常点を加味し、総合的に評価する。 (評価比率：小課題30%、最終課題作品40%、平常点30%)
教科書	プリントを配布する。
参考書	「インテリア・スケッチ Super トーク」(長谷川矩祥著、グラフィック社) その他推薦する本を授業中に紹介するので、各自参考にする本、住宅雑誌等を購入すること。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	インテリアモデリング実習						
担当教員	蔵田 優美						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	材料から立体的な造形（模型）を生み出す 模型制作を通して木造の建物を具体的に学ぶ 建築空間の創造と模型制作						
授業の概要	模型は、インテリアや建築分野において、実際の空間で表現したいものを考察・プレゼンテーションするために、未だ必須の表現媒体です。模型とは、「実物の形に似せて作ったもの（大辞泉）」ですが、模型が芸術的価値を持つこともしばしばあります。そして、模型制作には様々な方法があり、材料や作り方に制約はありません。本実習では、建築模型でよく使われる材料と方法を学びながら、模型というものがどのようなものなのか、何を表現するために必要なのかを体験します。課題制作を通して、建築、家具、人物などの独自の表現方法も考えてみましょう。						
到達目標	模型制作の基礎を習得し、模型を制作することができる 実物と模型の相互関係がわかる 模型で考えを表現することができる						
授業計画	第1回 ガイダンス 模型や模型制作道具について 第2回 実習課題1 「箱」の制作、建築模型制作の基礎 第3回 実習課題2 「茶室の起し絵模型の制作」(1) 課題説明 第4回 実習課題2 「茶室の起し絵模型の制作」(2) 第5回 実習課題3 「木構造軸組模型制作」(1) 課題説明 第6回 実習課題3 「木構造軸組模型制作」(2) 第7回 実習課題3 「木構造軸組模型制作」(3) 中間講評 第8回 実習課題3 「木構造軸組模型制作」(4) 第9回 実習課題3 「木構造軸組模型制作」(5) 第10回 実習課題3 「木構造軸組模型制作」(6) 第11回 実習課題3 「木構造軸組模型制作」(7) 提出、講評 第12回 実習課題4 「パピリオンの模型制作」(1) 課題説明 第13回 実習課題4 「パピリオンの模型制作」(2) 第14回 実習課題4 「パピリオンの模型制作」(3) 第15回 実習課題4 「パピリオンの模型制作」(4) 発表、講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	準備学習は特に必要ありません。日常的な宿題は課しませんが、課題の提出前に各自の進捗状況によって、授業外における課題制作をして頂く必要があります。課題の提出前に多くの作業を残さないよう授業内でできるだけ作業を進めましょう。カッターやボンドを使う作業となり、詳細は授業内で説明します。必要時間は、作業の丁寧さ、こだわり、速度によって異なります。実習課題4で、0時間～6時間必要です。特に、自分で案を考える課題4では、いくらでも時間をかけることができるので学修時間を短くするよう心がけて下さい。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点（レポート、質疑応答など） 50% 課題 50%						
教科書	[模型で学ぶ] 建築構法入門 在来木造編 改訂版 井上書院 ISBN978-4-7530-1618-1						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	家族社会学						
担当教員	奥井 一幾						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	家族について社会的な視点から考察する						
授業の概要	家族について、その成り立ちや時代とともに移り変わってきた価値観や形態の変化について知る。また、現代の家族観や生活様式がどのように形成されてきたかを知る。一人の人間が誕生し、生涯を終えるまでの過程を学び、家族を総合的に捉える視点を養う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の成り立ちや現状について理解している ・個人のライフコースや家族を取り巻く諸課題が説明できる ・家族が抱える諸課題に対して、自分なりの解決策を考え提示することができる。 						
授業計画	第1回 ガイダンス（シラバス確認 導入課題） 第2回 家族の出発 第3回 家族の定義 第4回 家族の歴史 第5回 子どもと家族 第6回 パートナー選択と価値観 第7回 結婚と離婚の現状 第8回 結婚と生活経営 第9回 生活時間とライフコース 第10回 ジェンダーと家族 第11回 芸術作品に描かれる家族 第12回 子どもと女性の貧困 第13回 高齢期の生活と家族 第14回 いのちと家族 第15回 試験と質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：家族について普段から関心をもつこと。 授業後：授業で学んだ内容を復習し、理解不足の点を補いながら、関連事項について十分に復習を行うこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験(40%)、ワークシート記入状況、受講態度などの平常点(60%)により総合的に評価する。						
教科書	授業毎に資料を配布する。						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	カラーデザイン論／（色彩検定3級対応）						
担当教員	徳山 孝子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	カラーの基礎を学びデザインに活用できる応用力を学ぶ。						
授業の概要	ウェブページを始め、人が得る情報のほとんどは視覚を入口として得られる。効果的で説得力のあるウェブページを作成するため、カラーの本質を理解するとともに、積極的にカラーをコーディネート、コントロールできるよう基礎的な知識を学ぶ。主な内容は、色とは何か、色の見え方、眼のしくみ、色の測定方法、照明、色の混合、色の表示、色彩心理、色彩調和、色彩計画などについて理解を深め、ウェブをデザインする上の基礎的知識を習得する。						
到達目標	1) 色彩検定3級の過去問がとける。 2) 眼のしくみが説明できる。 3) ウェブ上において色の見え方の違いを説明できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明）：色とは 2. 色はなぜ見えるのか。 3. 眼のしくみ 4. 色の測定方法や照明と色の見え方 5. 色の混色 6. 色の表示〈日本色研配色体系（P.C.C.S.）、マンセルシステム〉 7. 色の心理的効果 8. 色の視覚効果 9. 色の知覚的効果 10. 色彩調和1：色相を手がかりにして配色を考える 11. 色彩調和2：トーンを手がかりにして配色を考える 12. 色彩調和3：配色の基本的な技法 13. 色のイメージと連想 14. 色彩効果：色彩と構成 15. 色彩計画、最後に試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習は、授業内で説明する。 授業後学習は、学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。						
授業方法	教科書を中心に進める。						
評価基準と評価方法	試験80%、提出物20%						
教科書	『文部科学省後援 色彩検定 公式テキスト3級』、監修全国服飾教育者連合会（A・F・T） 『新配色カード199b』（日本色研事業株式会社）						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ガーデニング論						
担当教員	清水 光次						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	庭づくり・ガーデニングは暮らしを彩り、楽しむためのもの。庭を楽しむための基礎的知識の習得とデザイン実習。						
授業の概要	質という面で住まいを考えると、建物としての「家」と「屋外環境」そして「インテリア」の3つは相互に関係している。単なる「外構(がいこう)」ではなく、楽しむための「庭あるいはガーデンを語れること」が住まいのデザインの幅を大きく広げることに繋がると考えている。この講義では、「屋外環境をいかにして形にしていくか」を、機能面だけではなく、デザインやテクニカルな要素だけでもなく、庭やバルコニーの「楽しみとは何か」といったことにも踏み込んで考えていきたい。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1、将来、趣味としてのガーデニングに興味を持ったときに、それを楽しめるための素養を身につける。 2、住宅産業や造園業の現場での実践的な基礎的スキルと、樹木や草花の知識を習得する。 3、イメージする庭のデザインをプレゼンテーションシートにまとめることができる。 						
授業計画	<p>次のトピックを扱う予定である。ただし、順序は必ずしもこの限りではない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、スタイル別に庭のデザインを整理する（日本） 2、スタイル別に庭のデザインを整理する（外国） 3、住まいの庭の居心地の良さや楽しみとはなにかを考える 4、住まいの庭の実例研究（失敗例に学ぶ） 5、街並みのデザインについて考える 6、外構・庭・エクステリアの構成要素を整理する 7、植栽デザインの基礎 8、ガーデニングにしたい植物（樹木） 9、ガーデニングにしたい植物（灌木） 10、ガーデニングにしたい植物（花やグランドカバー） 11、庭のデザイン手法（アプローチ編） 12、庭のデザイン手法（主庭編） 13、バルコニーガーデンを学ぶ 14、植栽の管理とメンテナンス 15、庭づくりに関する業種と現場のアラカルト 						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>下記をレポートとして提出を求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンパス内の「庭」を考察し、デザインする。 ・通学路の街並みを考察する。 ・ハウジングにおけるガーデニングデザイン。 						
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の前半は主として、モニター（実際の庭やそれらの図面などの実例及び植物の写真等）を見ながらの講義とする。 ・講義の後半は、実践としての簡単な庭のデザイン演習を取り入れた講義とする。（プチ演習5回程度を予定） ・教科書を元に、庭づくり・ガーデニングのノウハウやポイントを解説する。 ・宿題を出すことがある。 						
評価基準と評価方法	<p>主として中間デザイン演習・期末デザイン演習をもとに評価するが、授業内の演習や授業態度も成績に加味する。</p> <p>配分は以下のとおり。 中間デザイン演習20%、期末デザイン演習50%、授業内デザインおよび平常点30%。 中間デザイン演習及び期末デザイン演習の提出は必須である。</p>						
教科書	<p>自分流に愉しむ「気まま」な庭づくり 第二版 著者：清水光次 出版社：メタ・ブレーン ISBN4-944098-36-7</p>						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A/FHD基礎演習A						
担当教員	戸田 賀志子・井上 裕之						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッション分野におけるアパレルの企画・設計・製作までの一連の過程を実践的に学ぶ。						
授業の概要	<p>FHD基礎演習A・Bでは、2クラスに分かれ、前・後期で一貫した内容を履修する。ファッション領域では、デザイン・設計製作に関わる「モノのデザイン」、仕組みづくりに関わる「コトのデザイン」について捉え、ファッションにおけるデザイン思考・設計製作・ビジュアルマーチャンダイジング(VMD)・販売・売上げまでの一連の過程を実践的に学ぶ。</p> <p>前期は、「モノのデザイン」について重点的に学び、ノベルティーバックのデザインと設計製作を行う。デザインでは、イメージを表現し、形にするプロセスを学び、特に、イメージしたテキストの柄をデザインすることを目的にする。イメージしているテキストの柄はIllustrator, Photoshopなどのデザインソフトを用いてデザインし、生地メディアでプリントしオリジナルのデザインを完成する。設計製作では、デザインしたテキストを用い、使い手(購入者)の年齢や性別、使用目的や使用感を考慮しつつ、デザインにそった設計や製作を試みる。さらに、企画書、アイテム画、素材、縫製事項、寸法を記した縫製仕様書、製作時間や材料費などのコストを算出した資料をA4ファイルにまとめ、後期授業の資料とする。</p>						
到達目標	<p>(1) アパレルの企画、設計、生産までのすべてのものの企画・製作工程が理解できる。 (2) ノベルティーバックの柄のデザインができる。 (3) ノベルティーバックの形を製作できる。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. モノづくりの考え方及び企画書づくり 3. モノづくりのイマジネーション 4. ノベルティーバックをデザインする 5. テキスタイルデザインに挑戦 6. Illustrator, Photoshopを使った柄のデザイン①モチーフ作成 7. Illustrator, Photoshopを使った柄のデザイン②テキストデザイン 8. デザイン加工及び生地メディアにプリント 9. 縫製仕様書づくりと用具の使い方(ミシン、アイロン) 10. ノベルティーバックの設計と型紙づくり 11. 布の裁断、印しつけ 12. 縫製①表地の縫製 13. 縫製②裏地の縫製 14. 縫製③持ち手縫製、タグ付け 15. 資料づくり(A4ファイル)及び前期のまとめ <p>第1回は共同で、第2回～第8回は戸田、第9回～第15回は井上が担当する。</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業後学習：次の授業までに課題を提出すること。						
授業方法	授業後学習：次の授業までに課題を提出すること。						
評価基準と評価方法	資料提出(50%)、作品提出(50%)で評価する。						
教科書	配布資料						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	基礎演習A/FHD基礎演習A						
担当教員	中林 浩・米原 慶子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ハウジング領域（インテリア、住居、まちづくり）に関わる専門科目入門についての基礎的な知識を習得する演習である。						
授業の概要	4年間のハウジング領域で学ぶ専門科目のなかで最も基礎の導入を行なう演習科目で、その重要性からして必修科目として位置づけている。授業概要については、まず前期の基礎演習Aでは、ガイダンス、領域での学習内容やキャリアについて概説し学生からの発表・意見交換を行なう、ついで住空間のデザインについて調査の方法と現地調査を含めた発表、そしてグループでのまちづくりゲームや簡単な図形を書くなどである。後期の基礎演習Bについては、インテリアデザインの考え方や見学と調査発表、そしてまちづくりの風景を描き美しいまちとは何かを考えるなどある。						
到達目標	これから4年間で学ぶ専門教育の内容を知り、その基礎的キーワードや概念を掴む。それと自分の進む道とを結びつけて考えるきっかけをつかめる。						
授業計画	米原 第1回 ガイダンス（ハウジングデザインの学びについて）、レポート課題「魅力ある住宅のデザイン」の説明、図書の探し方 第2回 住空間の魅力（スライドレクチャー） 第3回 第1課題のレポート作成 第4回 第1課題の発表と講評、第2課題の説明「様々な住空間の空間体験」見学レポート 第5回 第2課題の見学先に関する資料収集（文献、WEB）、レポート作成 第6回 第2課題のレポート作成、ハウジングデザイン分野の仕事について（スライドレクチャー） 第7回 第2課題の発表と講評 中林 第8回 課題の説明 第9回 クイズ・世界の都市・美術史4区分 第10回 話しあいによる「迷宮の建設」 第11回 アイスブレイク各種・印象派とはなにか 第12回 正三角形で立体を描く 第13回 模写A・風景画の楽しみ 第14回 模写B 第15回 レポート作成						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回違った分野の教員の講義であるが、まずは出席し自分の将来や専門分野の基礎の基礎であり、課題を真面目に取り組むことが大事である。また、関連の分野について、ウェブなどで調べ、積極的に質問すると、いっそう理解が進む。						
授業方法	演習であり、現地や図書館、ウェブなどで調査し発表し意見交換するといった双方向で学んでいく。						
評価基準と評価方法	各教員ごとに評価（レポートや調査発表など（半分くらい）と参加の積極性（半分くらい）を総合して個々人の評価にする。						
教科書							
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B/FHD基礎演習B						
担当教員	中林 浩・米原 慶子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ハウジング領域（インテリア、住居、まちづくり）に関わる専門科目入門についての基礎的な知識を習得する演習である。						
授業の概要	4年間のハウジング領域で学ぶ専門科目のなかで最も基礎の導入を行なう演習科目で、その重要性からして必修科目として位置づけている。授業概要については、まず前期の基礎演習Aでは、ガイダンス、領域での学習内容やキャリアについて概説し学生からの発表・意見交換を行なう、ついで住空間のデザインについて調査の方法と現地調査を含めた発表、そしてグループでのまちづくりゲームや簡単な図形を書くなどである。後期の基礎演習Bについては、インテリアデザインの考え方や見学と調査発表、そしてまちづくりの風景を描き美しいまちとは何かを考えるなどある。						
到達目標	これから4年間で学ぶ専門教育の内容を知り、その基礎的キーワードや概念を掴む。それと自分の進む道とを結びつけて考えるきっかけをつかめる。						
授業計画	<p>米原</p> <p>第1回 ガイダンス、インテリアデザインの考え方、第1課題「インテリアエレメントのリサーチ」の説明</p> <p>第2回 文献およびWEBによるリサーチ、レポート作成</p> <p>第3回 インテリアショップの見学（時間振替えて引率）</p> <p>第4回 第1課題レポートの作成</p> <p>第5回 第1課題レポート課題の中間発表と講評、手直し・追加調査の指示</p> <p>第6回 第2課題「インテリアコーディネートのイメージコラージュ」作成</p> <p>第7回 第1課題、第2課題の仕上げ、発表と講評</p> <p>中林</p> <p>第8回 課題の説明</p> <p>第9回 正八面体の地球儀・世界の大都市</p> <p>第10回 19世紀の社会・北斎はすごい</p> <p>第11回 町並みを描いてみよう</p> <p>第12回 木を描いてみよう</p> <p>第13回 理想のまちの姿</p> <p>第14回 レポート作成前半</p> <p>第15回 レポート作成後半</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回違った分野の教員の講義であるが、まずは出席し自分の将来や専門分野の基礎の基礎であり、課題を真面目に取り組むことが大事である。また、関連の分野について、ウェブなどで調べ、積極的に質問すると、いっそう理解が進む。						
授業方法	演習であり、現地や図書館、ウェブなどで調査し発表し意見交換するといった双方向で学んでいく。						
評価基準と評価方法	各教員ごとに評価（レポートや調査発表など（半分くらい）と参加の積極性（半分くらい）を総合して個々人の評価にする。						
教科書							
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	基礎演習B/FHD基礎演習B						
担当教員	中村 茂・徳山 孝子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ビジュアルマーチャンダイジング(VMD)・販売・売上げ・販売活動の促進に至るまでの一連の過程を実践的に学ぶ。(ここでの販売は、販売調査とする)						
授業の概要	FHDデザイン基礎演習Bでは、ファッション領域における学びの意義・基礎的方法を身につけることを目的に、前期と同じ2クラスに分かれて7回ずつ演習を行う。最後は、プレゼンテーション能力を養う。 ・前期に制作したノベルティバックを松蔭祭でアンケート調査するために必要なセールスプロモーションツールとして、フライヤー(A4)と展示ディスプレイプラン(A3×2)を各グループで制作する。(中村) ・松蔭祭で調査した売上高と達成率の計数管理を習得するとともに調査時の消費者行動を読み取る。前期から学んだ一連の過程をグループごとにPower Pointでまとめる。(徳山)						
到達目標	1) ファッションにおいて物づくりから販売までのプロセスが理解できた。 2) 分析力、表現力、デザイン力、文章力のスキルが身に付いた。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション セールスプロモーション課題(フライヤー・ディスプレイ)概要説明 2. フライヤー制作要件・プロセスについて(目的、情報、ヴィジュアル、レイアウト、キャッチコピー) 3. ディスプレイ構成・演出について(VMD概要、展示空間、ディスプレイ演出、POP) 4. グループ構想・制作(グループ作業) 5. グループ案プレゼン(フライヤー・ディスプレイ案をpptで説明) 6. フライヤー印刷・ディスプレイ準備(展示レイアウト・セールスプロセスシミュレーション) 7. 予備日(松蔭祭:18・19日) 8. 調査した売上高と達成率の計算 9. 調査時の消費者行動を分析・考察 10. 各グループにて前期からの学びを理解し、今後の企画を提案 11. 各自にて前期からの学びをレポート 12. Power Pointの練習および発表資料の制作 13. 発表資料の制作 14. プレゼンテーションI:各グループにて発表 15. プレゼンテーションII:各グループにて発表 <p>1~7回は中村、8~14回は徳山、15回共同</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習は、授業内で説明する。 授業後学習は、学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	提出物60%、発表40%						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目																								
科目名	景観論																								
担当教員	中林 浩																								
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0																		
授業のテーマ	<p>世界と日本には多様な景観が存在することを画像を見てもらいます。農村・中小都市・大都市、そして途上国と先進国、いろいろですね。ただ、先進国の大都市の景観が中心の紹介になります。景観の保全をめぐる、各地でさまざまな形の努力がはらわれていることがわかります。それとかかわって景観法はじめ景観行政や文化財保護制度が発達してきた歴史を学びます。世界遺産についてもくわしく話します。</p> <p>むずかしそうな話もありますが、観光案内を見るように講義を受けてもらうのもこちらの意図するところですよ。どのような観点をもてば、より楽しい観光ができるのかを知ってもらいたいと考えます。またこうした態度をもつ観光客がより豊かな地域を育てることになります。</p> <p>とくに京都・大阪・神戸という関西の大都市とその周囲の都市景観について具体的な検討を行います。とりわけわたしがかかわった高層ビル建設反対運動などの紹介をします。</p> <p>映像をたくさん使う講義で、話の途中で画像をたくさん見せます。最後の30分は動画をほぼ毎回見せます。さいきんではテレビでも紀行というか地域を紹介した番組が増えましたね。動画がより景観を理解するのを助けます。たくさんストックがあるので、珠玉の景観動画をお楽しみください。</p>																								
授業の概要	「授業のテーマ」で述べました。																								
到達目標	「授業のテーマ」で述べたことが、いつか30歳になったときでも、50歳になったときでも深くわかっていただけたらと願いますという教員に応えることができる。																								
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 景観・風景とは 2 いろいろな景観・農村編 3 いろいろな景観・中小都市編 4 いろいろな景観・大都市編 5 景観保全・町並み保存運動の歴史 6 景観法のしくみ+テスト1 7 文化財行政の発展 8 世界遺産制度のしくみ 9 都市の世界遺産 10各地の景観まとめ 11観光・レクリエーションのあり方 12京都の景観破壊——せっかくの文化財・自然環境がここまで壊されるとは 13大阪の景観破壊——かつては「水の都」と称されていたのに 14神戸の景観破壊——高架道路と高層ビルはひどいですね、デザイン都市？ 15景観問題のまとめ+テスト2 <p>15回でない構成にすると</p> <table border="0"> <tr> <td>A</td> <td>A1 景観・風景とは</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>A2 いろいろな景観</td> <td></td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>世界遺産制度のしくみ</td> <td>テスト1</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>景観保全・文化財行政の発展</td> <td></td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>景観法のしくみ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>景観問題</td> <td>テスト2</td> </tr> </table>							A	A1 景観・風景とは			A2 いろいろな景観		B	世界遺産制度のしくみ	テスト1	C	景観保全・文化財行政の発展		D	景観法のしくみ		E	景観問題	テスト2
A	A1 景観・風景とは																								
	A2 いろいろな景観																								
B	世界遺産制度のしくみ	テスト1																							
C	景観保全・文化財行政の発展																								
D	景観法のしくみ																								
E	景観問題	テスト2																							
授業外における学習（準備学習の内容）	森羅万象に興味をもってください。日常生活において、こころを虚しくしてものを眺めたり、ときには注視したりする習慣を身につけてください。																								
授業方法	「授業のテーマ」で述べたとおりの講義です。																								
評価基準と評価方法	おおむね提出物で採点し、授業への参加の積極性を加味することもあります。おおむねというのは、そうですね、70%から95%でしょうか。シラバス内クイズ、「2回国境を越えないと海に出られない国はどこでしょう」。なぜこんなところでクイズをしているのかな。																								
教科書																									

参考書	授業中に紹介します。新書などでつよく勧めるものがあります。
-----	-------------------------------

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	建築一般構造						
担当教員	蔵田 優美						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	建築構造の基礎、美しいデザインの構造						
授業の概要	構造とは、「一つのものを作り上げている部分部分の材料の組み合わせ方。また、そのようにして組み合わせてできたもの。仕組み。(広辞苑)」であり、本講義では、建築物の構造について学びます。「構造=苦手なもの」ではなく、「構造=美しいもの、楽しいもの」であることを知って頂きたい。美しいデザインの構造により記念碑的建築となった事例や歴史的建築の構造も紹介します。また、普段使用している学舎や住宅などが何で出来ているのか、理論と実生活を重ねて学習します。						
到達目標	建築構造の基礎概念、用語を知る。美しいデザインの構造事例を知る。 建物を見て構造種別(木造、RC造など)がわかる 図面を見て構造種別(木造、RC造など)がわかる インテリアコーディネーター試験、二級建築士試験問題が解ける						
授業計画	<p>第1回:構造は美しい。これは何造? 他の授業(構造力学、建築施工学)との関係性</p> <p>第2回:構造の歴史(1) 組積造と歴史的建築。ウィトルウィウス「用・強・美」</p> <p>第3回:インテリアコーディネーター試験(以下、ICと略)試験科目「住宅構造」、 二級建築士試験試験科目「構造」の説明。構造材料について。</p> <p>第4回:木造(1) 伝統建築、現代の住宅デザイン</p> <p>第5回:木造(2) IC「木造構造総合」問題演習</p> <p>第6回:木造(3) IC「木造構造総合」「木材・木質材料総合」問題演習</p> <p>第7回:IC「住宅構造(工法)総合」関連用語、問題演習</p> <p>第8回:構造の歴史(2) 近代。工法の発展</p> <p>第9回:鉄筋コンクリート造(1) 仕組み。 IC「コンクリート総合」問題演習</p> <p>第10回:鉄筋コンクリート造(2) IC「鉄筋コンクリート構造総合」問題演習</p> <p>第11回:鉄筋コンクリート造(3) IC「鉄筋コンクリート構造総合」問題演習 コラム:構造設計は誰の仕事?</p> <p>第12回:コラム:構造と法律、地震と火災 鉄骨造(1)</p> <p>第13回:鉄骨造(2) IC問題演習 コラム:ヴィオレ＝ル＝デュクの「構造」と「装飾」論</p> <p>第14回:構造詳細図を見てみよう。その他の構造(テンセグリティ、膜構造など)</p> <p>第15回:復習、まとめ</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	簡単なレポート課題を出します。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点(質疑応答など) 50% 小テスト、レポート 50%						
教科書	なし						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	建築関連法規						
担当教員	長瀬 りか						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	住宅に関わる建築基準法および関連法規の基礎知識の習得						
授業の概要	住宅の企画・設計・販売およびインテリア関連の仕事に就くために最低限必要な建築基準法の基礎知識と建築関連法規の概要を、参考事例などを見ながら学ぶ。将来の実務で不可欠な基礎的内容および2級建築士やインテリアコーディネーターなどの資格試験の学習にも役立つ内容を中心に解説する。 キーワード：建築基準法、建築関連法規、住宅、インテリア						
到達目標	建築基準法の基本的な事項の習得と現代の住宅に関する関連法規の概略把握						
授業計画	第1回 ガイダンス、「法の目的、用語の定義」 第2回 建築基準法の基礎1「面積、高さ」＋小テスト 第3回 建築基準法の基礎2「採光、換気、階段」 第4回 建築基準法の基礎3「建築設備と構造」＋小テスト 第5回 建築基準法の基礎4「防火、耐火1」 第6回 建築基準法の基礎5「防火、耐火2、内装制限」＋小テスト 第7回 建築基準法の基礎6「避難設備1」 第8回 建築基準法の基礎7「避難設備2」＋小テスト 第9回 建築基準法の基礎8「道路、用途地域」 第10回 建築基準法の基礎9「容積率と建ぺい率」＋小テスト 第11回 建築基準法の基礎10「高さ制限、日影規制」 第12回 建築基準法の基礎11「地区計画、建築協定」＋小テスト 第13回 関連法規1「建築士法、消防法」 第14回 関連法規2「宅建業法、バリアフリー法ほか」＋小テスト 第15回 講義のまとめ＋レポート						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後にノート、プリントなどを整理し、疑問点があれば次回授業時に質問して、各自理解を深めてください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点30%、小テスト＋レポート70%とする。欠席した場合は減点対象。						
教科書	基礎教材『建築法規』 発行年月 2007年09月 ISBN:978-4-7530-1745-4 出版社：井上書院 その他、プリントを配布。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	建築計画学						
担当教員	中林 浩						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	<p>建築の平面計画、つまり間取りの話です。設計のための基礎理論といってもいいでしょう。実際ににラフな設計をする作業のある講義となります。</p> <p>前半は住宅の計画を扱います。それに先立ち住宅の歴史を概観します。庶民の住宅を中心にお話ししますが、その過程で桂離宮についてはすこしくわしく話をします。これは天皇の別荘で、庶民とはかけ離れているようですが、日本の住宅市のなかでは重要なものです。みなさん桂離宮を知らないでしょう。しかし、日本の建築のなかでは世界の人びとに一番有名なのです。</p> <p>そして現代住宅の平面の発展を学びます。現代日本にかなり根付いているといつてよい「2DK」といういい方には深い歴史があります。西山卯三という研究者が第二次大戦中の研究により食寝分離論といつ理論をうみだしました。その説明は欠かせません。かんたんな住宅の設計・集合住宅の配置計画の演習をします。</p> <p>後半では商業施設・図書館・集会所・小学校など各種建築の平面計画のあり方を学びます。たとえば郵便局などは窓口以外はどうなっているのか知らないでしょう。ホテルとか劇場も客としての空間しか知りません。たくさんのことはできないので、課題のひとつはみなさんのなじみのある、というかかならず利用した経験をもつ小学校です。あともうひとつは各自で選んでもらいましょうか。</p>						
授業の概要	「授業のテーマ」で述べました。						
到達目標	「授業のテーマ」で述べたことが、いつか30歳になったときでも、50歳になったときでも深くわかっていただけたらと願いますという教員に応えることができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 日本住宅の系譜 2 農家・町家・長屋、庶民の住宅の歴史を話しているんだけど、天皇の別荘である桂離宮の話2も及ぶのだけど、この桂離宮を知らないひとが多いのがショック、日本の建築でもっとも有名なもののなのに、前は20歳にならないと入れなかったのだが、18歳になった、ここで桂離宮へ行くことをすすめる 3 現代住宅の分類 4 小住宅における秩序 5 2DKや3LDK 6 住宅平面のいろいろ 7 建築平面演習1 8 集合住宅の展開 9 住宅の系譜まとめ 10 建築平面のいろいろ (図書館) 11 建築平面のいろいろ (商業施設) 12 建築平面のいろいろ (集会所) 13 建築平面のいろいろ (小学校) 14 建築平面演習2 15 建築平面演習3 (2が図書館だとすると3は小学校かな) 						
授業外における学習(準備学習の内容)	森羅万象に興味をもってください。日常生活において、こころを虚しくしてものを眺めたり、ときには注視したりする習慣を身につけてください。						
授業方法	「授業のテーマ」で述べたとおりの講義です。						
評価基準と評価方法	おおむね9割を提出物で採点する。授業への参加の積極性を加味することもある。積極性の加点0点なら提出物100点満点で、積極性の加点5点なら提出物95点満点で、積極性の加点10点なら提出物90点満点で、積極性の加点15点なら提出物85点満点で、積極性の加点20点なら提出物80点満点で採点するということです。						
教科書							
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	建築材料学						
担当教員	清水 光次						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	建築・住宅・内装を構成する材料（建築材料＝コンクリート・木材・鋼材・ガラス・各種内装材など）に関する基礎知識を習得する。						
授業の概要	<p>・建築物は、骨組みである構造体と、内外壁、屋根、内部の間仕切りなどの造作や、建具、電気や衛生といった設備類から成り立ち、各々が多様な材料から作られている。</p> <p>住居やインテリアのデザインに際してのみならず、それらを考え、論じるときに、建築やインテリアを構成するものがどのような材料から作られており、それぞれどのような性質を持ち、どのような使い方をすればよいかを知っていることが大切である。それを知らなければ、建築や空間デザインはできないといっても過言ではない。この講義では、建築の構造体となる木材・コンクリート・鋼材を中心に、内部造作材や内装仕上げ材にいたるまで、建築材料全般について学習する。</p> <p>・仕事でなくとも、生活者の常識として知っておきたい建築材料の基礎を習得する。（マンション購入時や一戸建て住宅新築時に役立つように）</p> <p>《将来、建築士資格取得を予定している者は必須》</p>						
到達目標	<p>・ハウジング関係の仕事（デザイン・設計・施工・監理など）に就く上で必要となる、基礎的な建築材料の分類や性質を理解できるようになる。</p> <p>・インテリアデザイン、家具デザインなどに有益な、各種材料の使用部位や性質などを理解できるようになる。</p>						
授業計画	<p>次のトピックを扱う予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、建築材料の概要（歴史・分類・性能） 2、木材（1）日本建築と木材、種類と特徴 3、木材（2）強度、構造、規格、等級 4、木材（3）その他使用方法など 5、コンクリート（1）コンクリートの性質・調合 6、コンクリート（2）種類、強度 7、コンクリート（3）破壊実験 8、鋼材（1）鉄の歴史、性質、腐食、規格 9、鋼材（2）その他 10、焼成品（タイル、レンガ、瓦、衛生陶器など） 11、ガラス・石 12、地盤について 13、左官材料・ボード類・塗料 14、内装仕上げ材（クロス、カーペットなど） 15、機能性材料（断熱材や防水材ほか） <p>※ただし、順序、ボリュームは必ずしも上記の限りではない。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	教科書の予習と復習。 常に身の回りの建築空間やインテリアを見て、部位別に使われている材料が何かを興味を持って確認する。						
授業方法	主として、教科書を中心とした講義形式。 できるだけ実物（材料サンプル）に触れて、理解を深める。 ※教室外授業：キャンパス内の建物を実例に、どんな材料が使われているかを見る。 ※実験：コンクリートの破壊実験、及び外部講師による授業（1回）を実施する予定である。						
評価基準と評価方法	主要な单元ごとに小テストを実施し（4回を予定）、期末テストは実施しない。 期末にレポートの提出を求める。※提出必須 評価の配分は以下の通り。 小テスト60%（15%×4）、レポート25%、平常点15%。						
教科書	やさしい建築材料 第二版 著者：松本進 出版社：学芸出版社 ISBN978-4-7615-2417-3						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	建築施工学						
担当教員	守屋 宣章						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	デザインに必要な建築生産における建築施工の基礎知識の習得。						
授業の概要	建築施工は、建築主の企画・要求事項を設計者が取り纏めた設計図書に基づいて、要求される品質、工事予算内工期内に効率よく安全に生産する行為です。 本講では、設計図書からどのように建築施工に繋げていくのか、また契約から施工計画の立案、施工管理に至る施工に関する基礎知識を実際の事例を織り交ぜ解説します。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・建築施工における品質・コスト・工程・安全・環境など様々な制約条件と管理について理解し、日常施工管理のサポートができる。 ・自立活動が出来る職能人として、適切な設計、施工計画を進める事できる。 						
授業計画	第 1 回 建築施工の役割（建築施工の位置付け、建設業界の紹介） 第 2 回 工事請負契約（施工者の選定、施工における品質管理） 第 3 回 施工計画の立案（原価・工程・安全・環境管理と近隣への対応）【レポート】 第 4 回 準備工事と仮設工事 第 5 回 土工事・基礎工事 第 6 回 鉄筋コンクリート工事 第 7 回 ●学外研修 建築現場での体験型実習 第 8 回 鉄骨工事 第 9 回 耐火被覆、防水、外構工事 第 10 回 外部仕上工事 1（サッシ、カーテンウォール、ガラス） 第 11 回 外部仕上工事 2（断熱、石、タイル） 第 12 回 内部仕上工事（建具、天井、壁、床仕上） 第 13 回 建築設備工事 第 14 回 工事完成からアフターケア（引き渡し、ファシリティーマネジメント） 第 15 回 メンテナンス（健全な建築を維持するための役割と課題）【期末試験】						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後学習：各回のプリントにて復習して下さい。						
授業方法	講義形式で進めます。 第3回授業の際、施工管理計画に関するレポートを出題します。						
評価基準と評価方法	筆記試験（30点）、平常点（70点） 平常点の内訳：演習課題40点、レポート30点						
教科書	15回分のテキストを配布します。 補助テキストとして、イラスト「建築施工」（日本社団法人建設業連合会発行）を購入して下さい。 ※丸善での販売ではありません。購入については授業にて説明します。						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	構造力学						
担当教員	清水 光次						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	構造力学は、物体にかかる力を計算して安全な建築物・構造物を設計するための学問であるが、この授業では、その基礎的な約束事ともいえるいくつかの理論を取り上げる。						
授業の概要	安全な建築物を設計するためには、各種構造の基礎理論としての構造力学を理解することが不可欠である。そのために、建物に作用する様々な力を計算によって把握し、それに対し構造物がどのように抵抗し、挙動するかを考えながら、力の流れと変形の力学を学ぶ。 将来、建築士資格試験の勉強を始めるにあたって、構造分野の学習がスムーズに行えるための力学の基礎知識を習得する。 《建築士資格の取得を目指す者は必須》						
到達目標	建築物に作用する荷重や風力などの力を合成・分解することによって整理し、計算式によって数値化できるようになる。 部材に働く力とその釣り合っている状態を理解できるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 基礎知識（力の単位など） 2 基礎知識（建築構造のモデル化など） 3 力とモーメント 4 力の合成 5 力の分解 6 力学モデルと反力 7 静定構造物・反力の計算（単純梁） 8 制定構造物・反力の計算（片持ち梁）前半まとめと中間試験 9 静定構造物・反力の計算（静定ラーメン） 10 部材が受ける力（応力とは） 11 応力の計算方法（片持ち梁と単純梁） 12 応力の計算方法（静定ラーメン） 13 応力の計算方法（トラス構造） 14 応力度の理解 15 後半まとめと期末試験 <p>※講義の順番及びボリュームは必ずしもこの限りではない</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	演習問題の宿題を出すので、自力で解く習慣を身につけること。 分からないことはその時に質問するか、教科書を読んで理解しておき、次の講義に備えてください。						
授業方法	教科書に沿った講義＋演習。 授業中に数学的な計算問題を解く演習をほぼ毎回行い、宿題もある。						
評価基準と評価方法	中間試験・期末試験を実施する。※必須 評価方法は以下の通り。 中間試験30% 期末試験40% 演習・宿題20% 平常点10%						
教科書	図解これならわかる！構造力学 大田和彦著 ナツメ社 ISBN 978-4-8163-5113-6						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	室内環境論						
担当教員	井上 晋一						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	室内環境の成り立ちと環境調整のための技術						
授業の概要	建物は、構造的に安全であること、美しいことに加え、その中で人が快適に暮らせることが必要です。室内環境は光・熱・空気・音といった物理的要素から成り立っており、私たちは日々これらから影響を受け生活しています。これらの環境要素が室内においてどのような現象として現れ、それが人の健康にどのように影響しているか、これらをどうコントロールすればより快適な環境が得られるか、また、環境調整の技術をどのように設計に組み込んでいくかを考学びます。						
到達目標	学生自身の生活環境を材料に、採光や照明、空気や熱、湿気の振る舞い、騒音や遮音について、基本的事項の理解と現状の分析、改善、環境設計の考え方を身につけることができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 室内環境の要素とその単位 2. 音の基礎知識 3. 建物の音響性能 4. 空気の質と流れ 5. 通風と換気 6. 熱の伝わり方 7. 体感温度 8. 外界気象 9. 日照環境 10. 建物の熱性能 11. 熱還流率の計算 12. 湿気と結露 13. 人の視覚と光・色 14. 照明の方法 15. まとめとレポート講評 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：次回の授業内容に対応する事項（例えば自室の照明、日当たり、騒音、湿気の害など）について現状を観察する。 授業後学習：基本的事項についての確認レポートまたは課題に取り組むことで理解を深める。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験40%、課題レポート30%、平常点（質疑応答・ディスカッション）30%で評価。						
教科書	『設計のための建築環境学』日本建築学会編、彰国社 ISBN978-4-395-00894-0						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	住居史						
担当教員	笠原 一人						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	住居の歴史を学ぶ						
授業の概要	住居は人類の誕生とともに存在する。世界中各地で、その地域で手軽に入手でき、容易に建築できる素材・部材によって、住居は作られてきた。しかし近代になると、科学技術が飛躍的に発展し、新たな部材・部品、建設技術が発展し、施工の管理も行き届き、世界中で同じような住居が供給されるようになった。そんな中で、これまでの住居の歴史を振り返り、それらを通じて今後のあり方を考えることは重要である。本講義では、西欧にも触れるが主に日本の住居の様式史を中心に講義する。住宅がどのような社会的背景の中で、どのように造られ、変容してきたかを理解することを目的とする。						
到達目標	住居の歴史や背景、時代ごとの建物の仕組みや空間構成などを理解できるようになる。その理解は、現代の新しい住居を生み出すための糧になる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 原始時代の住宅 竪穴住居と高床住居 3. 古代の住宅 寝殿造とその変容 4. 中世・近世の住宅 1 書院造と数寄屋 5. 中世・近世の住宅 2 民家と町屋 6. 近代の住宅 1 洋風住宅 7. 近代の住宅 2 住宅改良運動 8. 近代の住宅 3 集合住宅と郊外住宅地 9. 近代の住宅 4 モダニズムの住宅 10. 近代の住宅 5 戦時下と戦後復興 11. 近代の住宅 6 戦後モダニズムの住宅1 1950年代 12. 近代の住宅 7 戦後モダニズムの住宅2 1960年代 13. 現代の住宅 1 ポストモダンの住宅1 1970年代 14. 現代の住宅 2 ポストモダンの住宅2 1980年代 15. 現代の住宅 3 多様化する住宅 1990-2000年代 期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容）	普段から雑誌や書籍などで、優れた住宅作品に親しむようにしてほしい。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	期末テスト100%						
教科書	なし						
参考書	【新版】 図説・近代日本住宅史 内田青蔵・大川三雄・藤谷陽悦 編著 鹿島出版会 ISBN: 978-4-306-04493-7						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	住宅再生論						
担当教員	池田 裕彦						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	現代の住環境デザインの主要課題である「住宅再生」「住宅地再生」について学ぶ。						
授業の概要	日本古来の木造家屋である農家や町家等の多くは、忘れられ消滅しつつある。しかし近年、住文化の継承や環境共生の面から、できるだけ長く活用することが望ましいという傾向にあり、一般家屋を含めて各地で住宅再生が展開しつつある。また、高度成長期には住宅を大量に生産・消費・廃棄してきた。大量に供給された公的賃貸集合住宅（団地）や分譲マンションについても建替えが進んでいる。このような背景下で、大量のストック住宅をどのように再生すべきか、ハード・ソフト・法整備等、課題は山積している。これらの問題を踏まえつつ、DVD鑑賞や現地見学などを通じて、現代の住宅再生の実情を掴みながらその構造を理解し、今後のあり方を考えていく。						
到達目標	日本の伝統的家屋、一般家屋、公的賃貸集合住宅、分譲マンション等、現在実践されている「住宅再生」に関する基礎的知識を学んだ上で、学生自身が住んでいる住宅の再生について考察・提案できるようにすること。						
授業計画	第1回：「住宅再生」を学ぶ目的（「再生」意味と現状）・・・DVD、スライド 第2回：民家（旧・農家住宅）の移築再生・・・DVD 第3回：公的賃貸集合住宅再生の現状と課題（UR千里青山台団地）・・・DVD、スライド 第4回：公的賃貸集合住宅の建替え再生（岡山県堂中庄団地Ⅰ期、芦屋市宮若宮町住宅）・・・スライド 第5回：芦屋市宮若宮町住宅見学・・・後日、レポート提出 第6回：公的大規模賃貸集合住宅の建替え再生（UR浜甲子園団地）・・・スライド 第7回：UR浜甲子園団地見学（さくら街+なぎさ街）・・・後日、レポート提出 第8回：公的賃貸集合住宅のリノベーション再生（住戸・外装・共用部・住棟）・・・スライド 第9回：居住者参加による公的賃貸集合住宅集合住宅団地の建替え再生（UR多摩平の森）・・・スライド 第10回：公的賃貸集合住宅団地に置けつつコミュニティ再生の試み（UR男山団地）・・・スライド 第11回：一般戸建住宅のリニューアル再生、別用途建物から住宅へのコンバージョン再生・・・DVD 第12回：分譲マンション（住戸）のリニューアル再生・・・DVD 第13回：分譲マンションの建替え実態と方法・・・DVD 第14回：自らの生活の問題として「住宅再生」を考える・・・レポート提出+発表 第15回：まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	自分の住んでいる住宅（実家）の物理的問題点を把握し、どこを改善して再生すればよいか具体的に考えた結果をレポートにまとめ、これを第14回の授業で各自発表する。						
授業方法	講義、見学、発表、討論						
評価基準と評価方法	平常点30点、レポート30点、期末試験40点						
教科書	プリント						
参考書	・団地再生-公団住宅に住み続ける（クリエイツかもがわ）、増永理彦、ISBN78-4-86342-009-0-C0036 ・UR団地の公的な再生と活用-高齢者と子育て居住支援をミッションに（クリエイツかもがわ）、増永理彦、ISBN978-4-86342-101-1 ・マンション再生-二つの老いへの挑戦（クリエイツかもがわ）、増永理彦、ISBN978-4-86342-117-2 ・場所の声を聞く-集まって住むカタチのデザイン（関西大学出版部）、江川直樹、ISBN978-4-87354-524-0 C30 52						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	住文化論						
担当教員	加茂 みどり						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の住文化・住まい方研究						
授業の概要	<p>目的：住居・居住に関する文化・ニーズ、及びその実現に寄与する計画論的・技術論的發展の経緯を理解し、さらなる発展の方向性を考える能力を養成する。</p> <p>概要：住居史をみると、家族などの生活者が住居のなかで安全・安心そして快適にいかに住みこなすか、時代の様々な制約のなかで格闘してきたことが良く判る。本論では、そのなかで住居内におけるより快適に住むための試みや住居設備に着目し、まずは、日本におけるその歴史をたどり生活者と住居の快適性追求を確認する。その上で、今日急速に進みつつある住宅・住宅設備等の進展あるいは更新について、現状を生活との関連で具体的に分析し、課題を整理し今後の方向を考えていく。</p>						
到達目標	日本の住宅を議論検討する際の論点を学び、少なくとも複数の論点について説明できる。						
授業計画	第1回：講義概要 第2回：住宅の機能 第3回：住宅計画の変遷 第4回：世界各国の住まい 第5回：ライフスタイルと住様式 第6回：家族の変容と住宅・住宅設備 第7回：少子高齢化と住宅・住宅設備 第8回：設備計画の変遷 第9回：環境共生住宅の事例 第10回：環境保全と住宅・住宅設備 第11回：空間構造の可変性と住宅・住宅設備 第12回：まち・コミュニティと住宅・住宅設備 第13回：地域性と住宅 第14回：京都の町家と居住文化 第15回：まとめ 期末レポート						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で学んだことを適宜復習してください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	期末レポート点数50%、平常点50%とする。平常点には、授業への参加態度、質疑応答内容を含める。						
教科書							
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	スタイリング演習						
担当教員	五十嵐 かほる						
学期	前期隔週A	曜日・時限	火曜3~4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ワンランク上のコミュニケーションと上質な感性の磨き方						
授業の概要	接客のための言語心理をはじめ、表現力も含めたコミュニケーション&プレゼンテーションスキルとコーディネート力の向上を図るプログラム。実践的なテキストを用い、論理的にコーディネートのメソッドを学ぶと共にファッションを通して教養を習得します。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ① お客様との信頼関係を築くためのマナーを身につけ、使いこなすことができる ② 説得力を増すための知識や表現力を身につけ、使いこなすことができる ③ お客様の骨格や肌の色などの個性を把握し、魅力を引き立てるアイテムの提案ができる ④ お客様のニーズを引き出し、立場や社会情勢を捉えることができる ⑤ お客様の心を掴むための言語心理を用いたカウンセリング手法、パーソナルブランディング手法の知識を学ぶことで、ファッションの映える魅力的な人間力を磨くことができる 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ①オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明） 年間の授業内容について・ファッションのコンセプト発表の仕方・自己紹介など ②顔型・骨格の分析 デコルテラインの分類・体型の分類と分析 ③リベラルアーツ（色にまつわる知識と色彩心理）Ⅰ 問題集&テキストを使って… 素材と輝度・カラー分析とカラーマネジメント ④お客様・先輩や同僚と信頼関係を気付くための言語心理・心理テクニック 褒め上手・褒められ上手のコツ・クッション言葉 気を付けたい表現・好感度を上げる一言・音声心理・敬語 ⑤リベラルアーツ（教養・文化・ファッション）Ⅱ 問題集&テキストを使って… シルエット・スタイリングの判断基準 ⑥表現力の鍛え方 Ⅰ 良い声の出し方・ハキハキ話すための滑舌練習・わかりやすい話し方のコツ・文章の書き方 心を掴むプレゼンテーション方法 ⑦《行動心理》ファッションを生かすための立ち居振る舞い 姿勢・歩き方・おじぎ・しゃがみ方・座り方・物の受け渡し コートの脱着・荷物の持ち方・手の表情（ファイルの持ち方・指さし） ⑧リベラルアーツ（教養・文化・ファッション）Ⅲ 問題集を使って… 色のバランスと素材の組み合わせ方・ファッションマナー ⑨表現力の鍛え方 Ⅱ 表現力トレーニング・インタビュー技能、プレゼンテーション、キャプション訓練 ・伝える力、聴く力（伝えたい気持ちを正確に伝える・言葉にならない思いを聞き出す） ⑩《ホスピタリティ・おもてなしの心の育て方》 接客の基本 席次と上座…他 ⑪《スタイリング訓練》 基本①コーディネートは全体のバランスを考える アイテム同士のバランス・シルエットの作り方 ⑫表現力の鍛え方 Ⅲ 表現力トレーニング・インタビュー技能、プレゼンテーション、キャプション訓練 ・伝える力、聴く力（伝えたい気持ちを正確に伝える・言葉にならない思いを聞き出す）・報告書の書き方 ⑬《スタイリング訓練》 基本②コーディネートは素材感と色のバランスを考える 体型や似合う色を含めた自己分析&コーディネート手法① ⑭リベラルアーツ（教養・文化・ファッション）Ⅲ 問題集を使って… 「美容・心理・ファッションビジネス」問題集より 期末試験 ⑮《ブランディングコンセプトの作り方》体型や似合う色を含めた自己分析&コーディネート手法② 						
授業外における学習（準備学習の内容）	プレゼンテーションの訓練とスタイリングコンセプト作りの一貫で、毎回1人ずつスタイリングのコンセプトと時事に関する情報を1分半程度で発表する為、考えてくること。						

授業方法	講義とグループワーク及び実技(カウンセリングやコーディネート、話し方等)による演習。
評価基準と評価方法	期末試験 60% 各回の積極的な授業参加 40%
教科書	書名：「パーソナルスタイリスト検定R資格取得テキスト」 著者：五十嵐かほる 編者名：(社)パーソナルスタイリストR協会 出版(制作)：(株)スタイルファクトリー 書名：「パーソナルスタイリスト検定R3級・2級筆記試験問題集」第3版 監修：(社)パーソナルスタイリストR協会 編集/出版(制作)：(株)スタイルファクトリー
参考書	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	スタイリング実習						
担当教員	五十嵐 かほる						
学期	後期隔週A	曜日・時限	火曜3～5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	ワンランク上のコミュニケーションと上質な感性の磨き方						
授業の概要	独りよがりのスタイリングや好みのコーディネート提案ばかりではなく、ファッションは誰のために存在するのか？を基準に捉えた「アパレル人として即戦力の人材」を目指す。現場でのリアルな事例をふんだんに取り入れながら自ら考えて答えを導き出し、前期で学んだ知識を実際にスタイリングの面でも接客の面からもアウトプット出来るようになること。また、自分自身を磨くためのコンセプト作りや見せ方などの基本を学ぶと同時に人の魅力の引き出し方と演出の仕方を学ぶ。						
到達目標	接客をはじめ、提案力も含めたコミュニケーションスキルとコーディネート力の向上を図る実習プログラム。グループワークや実技を中心に、即戦力の人材になるためにコーチングやカウンセリングの基礎ができる。また、自ら考えて行動できるためのメソッドを身に付けることができる。						
授業計画	<p>①《ブランディングコンセプトの作り方》体型や似合う色を含めた自己分析&コーディネート手法 II イメージボード制作</p> <p>②表現力の鍛え方 IV プレゼンテーション技法 人前で話すスキル</p> <p>③《ブランディングコンセプトの作り方》体型や似合う色を含めた自己分析&コーディネート手法 III イメージボード製作発表/講評</p> <p>④表現力の鍛え方 V 《カウンセリング技法》顧客の要望を聞き出す技術を身に付けるためにカウンセリング能力を学ぶ I</p> <p>⑤《スタイリング訓練》応用(1)ワードローブコーディネート(手持ち服でのコーディネートの仕方) 魅力を引き立てるタイプ別コーディネート法(いかにその人らしいコーディネートをみつけるか)</p> <p>⑥《スタイリング訓練》応用(2)ワードローブコーディネート(手持ち服でのコーディネートの仕方) 魅力を引き立てるタイプ別コーディネート法(いかにその人らしいコーディネートをみつけるか)</p> <p>⑦表現力の鍛え方 VI 《カウンセリング技法》顧客の要望を聞き出す技術を身に付けるためにカウンセリング能力を学ぶ II</p> <p>⑧表現力の鍛え方 VII 文章での表現力 題材の探し方と感性&トレンドの磨き方</p> <p>⑨《行動心理》ファッションを生かすための立ち居振る舞い(復習編) 姿勢・歩き方・おじぎ・しゃがみ方・座り方・物の受け渡し コートの脱着・荷物の持ち方・手の表情(ファイルの持ち方・指さし)</p> <p>⑩《ブランディングコンセプトの作り方》実践編 I カウンセリング能力・組み立て方などをメインに総合的なお客様への対応を学ぶ</p> <p>⑪《ブランディングコンセプトの作り方》実践編 II ショッピングツアー(ショッピング同行)準備/グループ分けや留意点など 期末試験</p> <p>⑫《スタイリング訓練》実践(1)ショッピングツアー(ショッピング同行見学)</p> <p>⑬《スタイリング訓練》実践(2)ショッピングツアー(ショッピング同行見学)</p> <p>⑭表現力の鍛え方《まとめ》この一年間で学んだことのプレゼンテーション I</p> <p>⑮表現力の鍛え方《まとめ》この一年間で学んだことのプレゼンテーション II</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	プレゼンテーションの訓練とスタイリングコンセプト作りの一貫で、毎回1人ずつスタイリングのコンセプトと時事に関する情報を1分半程度で発表する為、考えてくること。						
授業方法	講義とグループワーク及び実技(カウンセリングやコーディネート、話し方等)による演習。						

評価基準と評価方法	期末試験 60% 各回の積極的な授業参加 40%
教科書	書名：「パーソナルスタイリスト検定R資格取得テキスト」 著名：五十嵐かほる 編者名：（社）パーソナルスタイリストR協会 出版（制作）：（株）スタイルファクトリー 書名：「パーソナルスタイリスト検定R3級・2級筆記試験問題集」第3版 監修：（社）パーソナルスタイリストR協会 編集/出版（制作）：（株）スタイルファクトリー
参考書	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	設計演習I						
担当教員	長瀬 りか						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	卒業設計で様々な空間設計に取り組む準備として、住宅以外の建築空間を設計できる力を身につける。						
授業の概要	ハウジングデザイン実習I～IVを経て、住宅以外の建築の設計をも念頭に置き、4年次においてより高度な設計演習を行いながら、様々な空間設計に必要な知識・表現力を高める。 各自がテーマを設定し、必要な調査・研究を行いながら空間の計画および設計を行う。						
到達目標	各自のテーマに沿った設計課題の作品制作を通じて、製図・模型・パース表現等の技術向上を目指す。 各種建築の設計の進め方、必要な知識の収集方法、プレゼンテーション手法を修得する。						
授業計画	第1回 : ガイダンスと各自制作テーマのレポート 第2回 : 敷地図作成、敷地環境分析 第3回 : 参考事例研究 第4回 : 敷地分析および事例研究に基づくコンセプト作成 第5回 : 研究成果発表用の図版作成 第6回 : 研究成果中間発表、基本構想作成 第7回 : 基本計画エスキス 第8回 : エスキスチェック、修正 第9回 : 基本計画図スタディチェック 第10回 : 基本計画図作成およびスタディ模型作成 第11回 : 基本計画図およびスタディ模型チェック、修正 第12回 : 基本計画図およびスタディ模型によるミニプレゼン 第13回 : プレゼンテーション図版作成 第14回 : プレゼンテーション図版チェック、修正 第15回 : 授業内プレゼン、講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	各自の課題制作を進めるための資料収集、敷地調査、参考事例見学などを、自主的に行うことが必要。						
授業方法	作品制作を中心とした演習						
評価基準と評価方法	平常点30%、中間提出物20%、最終プレゼン提出物の評価50%とする。						
教科書							
参考書	各自のテーマに応じて紹介。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	設計演習II						
担当教員	米原 慶子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	設計演習Iに引き続き、卒業研究で様々な空間設計に取り組むのに必要な設計力、特にパースや模型による立体表現などのプレゼンテーションスキルを高める。						
授業の概要	ハウジングデザイン実習I~IIIおよび設計演習Iを経て、住宅以外の建築の設計をも念頭に置き、4年次においてより高度な設計演習を行いながら、様々な空間設計に必要な知識・表現力を高める。各自がテーマを設定し、必要な調査・研究を行いながら空間の計画および設計を行う。 キーワード：空間設計、図面表現、プレゼンテーション						
到達目標	各自のテーマに沿った設計課題の作品制作を通じて、図面・模型・パース等、目的に応じたプレゼンテーション表現ができるようになる。						
授業計画	第1回 : ガイダンスと各自のテーマ、目標設定に関するレポート。 第2回 : 設計演習Iの計画内容のブラッシュアップ、コンセプトの整理。 第3回 : ダイアグラムの作成と基本設計図の修正。 第4回 : 3Dモデルの作成。 第5回 : 3Dモデルの作り込み。 第6回 : 3Dモデルからパース数面の取り出し。 第7回 : 3Dモデル、パースの追加、修正。 第8回 : Photoshopを用いてのパース、模型写真の画像補正(トリミング、明るさ・色調等)。 第9回 : Photoshopを用いてのパース、模型写真の画像補正(添景、背景等)。 第10回 : プレゼンテーションボードの作成。 第11回 : プレゼンテーションボード内容の追加、修正(説明文など書込み)。 第12回 : プレゼンテーションボード内容の追加、修正(レイアウト調整等)。 第13回 : プレゼンテーション用パワーポイントの作成。 第14回 : パワーポイントデータの追加、修正。 第15回 : プレゼンテーションボードとパワーポイントによる発表・講評。						
授業外における学習(準備学習の内容)	各自の課題制作を進めるための資料収集、参考事例見学などを、自主的に行うことが必要。						
授業方法	作品制作を中心とした演習						
評価基準と評価方法	平常点30%、中間提出物20%、最終プレゼン提出物の評価50%とする。						
教科書							
参考書	各自のテーマに応じて紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	生活エコロジー論						
担当教員	永村 悦子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	快適な生活とエコロジー						
授業の概要	<p>快適な暮らしを求めてきた結果、現在の地球環境にはさまざまなひずみが生じてきた。本講義では、次の世代へより良い地球環境を残すために、生活の中で、また生活とかわる産業で何が行われているか、何ができるかを考える。具体的には、生活の基本である衣服や住まいにかかわるエネルギー消費、廃棄物など環境負荷について正しく理解し、快適性を犠牲にすることなく、環境負荷の少ない生活を目指すための環境技術について学ぶ。</p> <p>生態系の一部である私たちの生活が、環境とどのようにかかわっているかを知ること、つまりエコロジー的観点で暮らしを見つめることが授業の目的である。</p>						
到達目標	<p>エコロジーかつ快適な暮らしを実践するため、現状の問題点を指摘することができる。</p> <p>また、その問題を解決するための手法について、具体的に述べることができる。</p>						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション 第2回：環境共生・エコロジー 第3回：地球環境問題(1)地球温暖化 第4回：地球環境問題(2)オゾン層破壊ほか 第5回：生活と環境負荷(1)エネルギー消費 第6回：生活と環境負荷(2)廃棄物 第7回：快適な衣環境 第8回：快適な住環境 第9回：環境負荷低減(1)省エネルギー 第10回：環境負荷低減(2)衣服の材料とリサイクル 第11回：環境負荷低減(3)住まいの材料とリサイクル 第12回：環境負荷低減(4)ライフスタイル 第13回：エコハウスの事例 第14回：エコプロダクツの事例 第15回：まとめと試験</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>予習として、授業計画にある各回のテーマに関連することから生活の中から見だし、問題意識を持って授業に臨むこと。</p> <p>また授業で扱った内容は、自らの暮らしや他の専門科目の取り組みに、積極的に反映させる。</p>						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト40%、授業内レポート30%、期末テスト30%						
教科書	プリント配布						
参考書	授業内に紹介する						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	生活福祉学						
担当教員	葛西 リサ						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	市民活動、NPO、身近な課題を社会問題として捉え、自ら福祉の担い手となる女性の社会進出による専業主婦の喪失は、家事労働の商品化の拡大を招き、それにより、福祉サービス化が急速に進んだ。無認可保育所の創設、更には、介護保険の導入などにより、サービスの対象は広く、一般に普遍化し続けている。本授業では、福祉サービスの受け手としてだけでなく、福祉サービスの担い手としての視点から、日々生じる生活課題を明確に捉え、それを解決するための知識とスキルの習得を目指す。						
授業の概要	はじめに、福祉とは何か、生活とは何かについて学習し、生活福祉という概念が、時代の流れとともに必要とされてきた軌跡をたどる。次のステップとして、ライフスタイルや世帯の多様化に伴い、生活課題や住まいの課題も多様化している事実を確認する。同時に、この多様化に対応する一つの手段として、行政と住民の協働の在り方、非営利組織の役割について示唆しつつ、いくつかの事例を紹介する。最終的には、受講者自身が日々感じている生活課題を抽出し、それへの具体策を提案してもらう。						
到達目標	自ら福祉の担い手として、現代の社会問題に対峙し、それを解決する力を身に付けることができる。また、授業内にて多くの時間をワークに割くが、企画書の作成段階にて、統計データ等を読み解き、それを利用した質の高い文章の書き方をマスターする。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス 生活福祉とは何か 2 コミュニティの変化と生活福祉の必要性 3 家族の変容と生活福祉 4 高齢社会と生活福祉 5 震災から学ぶ生活福祉 6 社会保障制度と生活福祉 7 生活福祉と住まい 新たな住生活ニーズとそれへの対応 8 市民活動の多様な事例から学ぶ 9 生活福祉の中の非営利組織の役割 10 市民の活動を支える非営利組織という存在 11 非営利活動を実践するための条件 12 生活者の視点から生きやすい社会をデザインする ワーク① 13 生活者の視点から生きやすい社会をデザインする ワーク② 14 生活者の視点から生きやすい社会をデザインする ワーク③ 15 まとめと試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義と並行して、それぞれ気になる社会問題を題材として、市民活動の提案を行ってもらいます。日頃から、新聞等に目を通すなどして、社会の変化を読み取る訓練をしてください。						
授業方法	スライドによる講義に加え、関連するDVDの鑑賞等を組み込みます。また、授業の後半では、市民活動を企画するワークを行ってもらいます。						
評価基準と評価方法	試験60%、ワーク30%、レポート等10%						
教科書	指定しません。						
参考書	一番ヶ瀬康子（1998）生活福祉の成立、生活学選書、一番ヶ瀬康子、尾崎新（1994）生活福祉論、光生館、雨森孝悦（2012）テキストブックNPO－非営利組織の制度、活動、マネジメント－東洋経済新報社						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	生活文化概論						
担当教員	徳山 孝子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文化を基礎として身近な生活文化を学ぶ。						
授業の概要	本講は、生活の基礎を文化的側面から解明するものである。その学問的内容は、衣食住の生活をはじめ生活経営、生活経済、生活管理、自然環境など多様な専門分野から構成されている。これらは、人と人、人とモノ、モノとモノの関わりが強く、ライフデザインを形成している。時代とともに変わり行く生活を快適かつ円滑に運営するための知識を学び、これらを通じて日常生活のなかで「自分の身近な様子」「身近なモノや空間への興味」が持てるよう、日本文化を踏まえながら解説する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 日本人の国民性が説明できる。 2) 日本独自の衣住文化の特徴を述べるもことができる。 3) 靴を脱ぐ習慣について、考えられることを列挙することができる。 4) 日本独自の間の文化を一つ例に挙げ説明することができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明） 2. 日本人と生活文化①：日本人とは、どのような国民性なのか？ 3. 日本人と生活文化②：春夏秋冬と日本人の秩序感覚 4. 日本人と生活文化③：時代の移り変わりとともに変化してきた日本の色 5. 日本人と食①：箸や茶碗の高級道具 6. 日本人と食②：日本独自の食文化 7. 日本人と食③：日本と欧米の違い—食の文化— 8. インテリアの文化①：日本と欧米の違い 9. インテリアの文化②：畳と絨毯の違い 10. インテリアの文化③：靴の文化と裸足の文化 11. 日本人の「間」①：「間」の文化とは 12. 日本人の「間」②：「間」の文化—結界と気持ちのけじめ— 13. 日本人の「間」③：「礼」の文化 14. 日本人の「間」④：「着る」の文化 15. 今までのレジュメのまとめ、試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習は、授業内で説明する。 授業後学習は、学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。						
授業方法	レジュメ、プリントを配布する。そのレジュメに添って講義する中で、画像やビデオを使って確認をしながら進める。						
評価基準と評価方法	定期試験70%、提出物30%						
教科書	教科書としては、特に用いないが、レジュメ、プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	生活防災学						
担当教員	石原 凌河						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日常生活や暮らしの観点から防災や災害過程における諸課題と対策に関する理解と、一人ひとりの命や暮らしを守り、安心・安全な地域を実現するための手法の検討						
授業の概要	未曾有の大災害が全国各地を襲い、自然災害による被害が後をたたない。こうした災害からかけがえのない命や暮らしを守るためには、行政等によるハード的な整備だけではもはや限界があり、一人ひとりが適切な対策や行動を促すソフト的な対策が不可欠である。 本講義では、災害によって日常生活や暮らしに及ぼす影響について理解するとともに、安全なまちや暮らしを実現するための方策について演習を交えながら講義する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・災害から命や暮らしを守るための基礎的な知識と実践力を習得する ・災害と暮らしとの関係から、よりよい社会やまちのあり方について考えようとする態度を身につける 						
授業計画	第1回 生活防災学の基本的視座 第2回 自然災害のメカニズム 第3回 災害情報と避難行動 第4回 災害時の救援・医療支援と被災者の心のケア 第5回 避難生活と被災者の生活再建支援 第6回 災害と男女共同参画 第7回 都市空間と住まいの復興 第8回 災害ボランティアの役割 第9回 木造密集市街地の防災まちづくり 第10回 【演習】災害とジレンマ ―クロスロードの実践― 第11回 防災教育とリスクコミュニケーション 第12回 企業・行政における災害対応計画 第13回 災害の風化と記憶継承 第14回 【演習】災害とイマジネーション ―目黒巻、DIGの実践― 第15回 近年の災害事例からみる防災の課題、講義のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・防災や災害と関連する新聞等の報道に日頃から注意を払うこと。 ・地域防災活動や災害ボランティア活動に参加することを推奨する。 						
授業方法	資料やパワーポイントによる講義形式を基本とする 後半には、2回の演習を実施する。						
評価基準と評価方法	授業中試験 50% 平常レポート 50%（毎回の授業中に提出するレポート課題を評価する） ※ 授業中の私語など明らかに他の受講生に迷惑をかける行為については、試験を受けさせないなどの措置をとる場合がある						
教科書	特に指定しない						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・矢守克也、宮本匠編『現場でつくる減災学』新曜社、2016 ・大矢根淳、浦野正樹、田中淳、吉井博明編『災害社会学入門』弘文堂、2007 ・矢守克也『増補版<生活防災>のすすめ』ナカニシヤ出版、2011 ・藤森立男、矢守克也編著『復興と支援の災害心理学』福村出版、2012 ・牛山素行『防災に役立つ地域の調べ方講座』古今書院、2012 ・瀧本浩一『地域防災とまちづくり』イマジン出版、2008 ・矢守克也編『被災地デイズ』弘文堂、2014 ・河田恵昭『これからの防災・減災がわかる本』岩波ジュニア新書、2008 ・片田敏孝『人が死なない防災』集英社新書、2012 						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	井上 裕之						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	個々に設定したテーマに沿って衣装製作を行う。						
授業の概要	形態、素材、製作技術の追求や、舞台衣装、歴史、アートをベースとした発想、ユーザーを主体とした衣装設計など、さまざまな視点から独自のテーマを設定し、衣装製作をおこなう。 デザイン特別演習A、Bにおけるテーマ設定、資料・文献の調査、デザイン発想、デザイン画作成までの内容を基に、テーマにそった衣装設計・製作技術の向上、研究成果をまとめて発表するプレゼンテーション能力の向上を目的とし、4年間の学びを総括する。						
到達目標	1. 認知的領域:知識・理解 ①デザインに適した衣装製作の資材を選択できる。 ②デザイン画を基に、衣装の設計ができる。 ③研究目的からテーマ設定、衣装デザイン、設計、製作、ファッションショーまでの一連の流れを文章とポートフォリオにまとめ、パワーポイントで簡潔に発表できる。 2. 認知的領域:思考・判断 ①卒業研究の総括として、自ら導き出した結果と考察、結論を述べることができる。 3. 情意的領域:関心・意欲 ①作品をファッションショーやコンテストに意欲的に発表できる。 ②卒業研究での学びをふまえ、卒業後の進路を選択できる。						
授業計画	○前期 1. オリエンテーション(卒業制作の進め方、テーマ・進捗状況の確認、計画表作成) 2. 提出物について(実物製作、ポートフォリオ、レポート、ボード) 3. 作品製作指導「試作、デザインとパターンの決定」 4. 作品製作指導「本布製作1」 5. 作品製作指導「本布製作2」 6. 作品製作指導「本布製作3」 7. 作品製作指導「本布製作4」 8. 作品製作指導「本布製作5」 9. 作品製作指導「本布製作6」 10. 作品製作指導「本布製作7」 11. 作品製作指導「本布製作8」 12. 作品製作指導「本布製作9」 13. 中間発表に関する指導1 14. 中間発表に関する指導2 15. 中間発表に関する指導3/前期のまとめ ○後期 16. オリエンテーション(進捗状況の確認、ポートフォリオ作成法、レポート、ボードの形式) 17. ショーの構成・音楽・ヘアメイクに関する指導 18. ポートフォリオ作成1 19. ポートフォリオ作成2 20. ポートフォリオ作成3 21. レポート作成に関する指導1 22. レポート作成に関する指導2 23. レポート作成に関する指導3 24. レポート作成に関する指導4 25. ボード作成に関する指導1 26. ボード作成に関する指導2 27. 卒業研究要旨作成に関する指導 28. 卒業研究発表に関する指導1 29. 卒業研究発表に関する指導2 30. 卒業研究発表に関する指導3/まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習: 研究計画にそって、資料収集や衣装製作準備を行うこと。 授業後学習: 次の授業までに課題を行うこと。 オフィスアワー: 本館5階 火曜10:40~12:10						
授業方法	演習形式(個人指導を含む)						
評価基準と評価方法	発表(20%)、制作作品(50%)、ポートフォリオ・レポート・ボード(30%)で評価する。						

教科書	
参考書	

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	徳山 孝子						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	月曜2	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	ファッションに関わるテーマを一つ決め研究し、論文もしくは製作でまとめる方法を学ぶ。						
授業の概要	デザイン特別演習で学んだ知識をもとに、自らの研究を進めるための指導を行う。具体的には、研究計画、先行研究、資料・文献収集、実験する学生は実験方法、調査する学生は調査方法などを説明し、各自が研究を進める。進行状況に応じて個別指導をする。最後に論文もしくは製作（作品・ポートフォリオ）に仕上げ、パネルに要約したものを合わせて提出する。さらに、パネルの展示、発表プレゼンテーションする。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 研究テーマに基づき論理的に説明できる。 2) 研究方法や製作方法を列挙できる。 3) 研究論文および作品を仕上げることができる。 4) 研究論文および製作をパネルに要約できる。 5) 研究内容もしくは製作内容を口頭発表できる。 						
授業計画	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション（研究方針・進め方の説明） 2) テーマと研究方法の説明 3) 各自の研究について発表Ⅰ 4) 各自の研究について発表Ⅱ 5) 各自の研究について発表Ⅲ 6) 各自の研究および製作の方法について指導Ⅰ 7) 各自の研究および製作の方法について指導Ⅱ 8) 各自の研究および製作の方法について指導Ⅲ 9) 各自の研究および製作の方法について指導Ⅳ 10) 各自の中間発表について指導Ⅰ 11) 各自の中間発表について指導Ⅱ 12) 各自の中間発表について指導Ⅲ 13) 各自の中間発表について指導Ⅳ 14) 中間発表のプレゼンテーションⅠ 15) 中間発表のプレゼンテーションⅡ <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 16) オリエンテーション（研究方針・進め方の説明） 17) 研究成果と図表やポートフォリオの作り方。 18) 研究成果と卒論構成Ⅰ（製作の場合はレポートやポートフォリオⅠ） 19) 研究成果と卒論構成Ⅱ（製作の場合はレポートやポートフォリオⅡ） 20) 研究成果と考察・結論Ⅰ（製作の場合はレポートやポートフォリオⅠ） 21) 研究成果と考察・結論Ⅱ（製作の場合はレポートやポートフォリオⅡ） 22) 研究成果と考察・結論Ⅲ（製作の場合はレポートやポートフォリオⅢ） 23) 研究成果と考察・結論Ⅳ（製作の場合はレポートやポートフォリオⅣ） 24) 卒業論文や作品の最終チェック 25) 卒業研究および作品の表題集の書き方 26) 研究成果のパネル作成について指導Ⅰ 27) 研究成果のパネル作成について指導Ⅱ 28) 卒業研究発表について指導Ⅰ 29) 卒業研究発表について指導Ⅱ 30) 卒業研究発表（プレゼンテーション） 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習は、授業内で説明する。 授業後学習は、学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。						
授業方法	演習形式（個人指導も含む）						
評価基準と評価方法	プレゼンテーション、授業における貢献度、卒業論文作成過程における中間評価、卒業論文の内容など 提出物100%						
教科書	教科書としては、特に用いないが、プリントを配布する。						

参考書	そのつど紹介する。
-----	-----------

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	中林 浩						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	金曜3	配当学年	4	単位数	8.0

授業のテーマ	<p>本ゼミでの内容は都市計画・地域計画にかかわる研究・制作です。オリジナリティのある研究・制作であることがいちばん重要なことです。</p> <p>2011年度の卒業研究のテーマを掲げておきます。「日本におけるアウトレットの展開」「専用劇場をもつことによる劇団四季の魅力」「日本におけるグラフィティ・タギングの現況」「京都市域における洋風の風物」「ノスタルジックな町並み」(写真集)「都市における石畳道の意味——日本と他国の石畳の比較から」「なぜ動物園の入り口付近にフラミンゴがいるのか」「日本におけるマンガローブという存在——マンガローブの必要性」「アニメ・漫画による町おこし——聖地巡礼」「Anime Location Site」(パンフレット)「地域のまとまりの重要性——小学校と商店街を中心とする日常生活圏」「ライフスタイルの多様化による結願昏に対する意識の変化——同棲は本当に結婚を遠ざけている?」。</p> <p>2012年度は研究写真帳というジャンルを開拓しようとして、自宅の改装の設計1点と、「おもしろい屋外広告と看板」「パン屋ののある風景」という作品を作ってもらいました。2013年度「ライトノベル「舞台探訪」」「アートのある町 研究写真帳」「舞台からジブリの魅力を考える 研究写真帳」「創造都市・東大阪 研究写真帳」「高架道路の撤去による都市再生 研究写真帳」「関西4水族館の比較 研究写真帳」「屋台いろいろ 研究写真帳」「京都高層建築の低層階 研究写真帳」「街の縁側——カフェのある住宅」。</p> <p>各ゼミ員がレジュメを用意し、それを題材に討議するのを基本とします。各ゼミ員のテーマにかかわる見学、あるいは共通するイベントなどによっては学外に出ることもあります。金曜日の午後を基本とするが、流動的な日程を組むことがあります。</p> <p>ゼミ旅行や研究のまとめのための合宿なども条件があればします。ちなみに2011年度はゼミ旅行として直島に行きました。2012年は福岡に行きました。</p> <p>研究写真帳という形式の卒業研究を勧めている。「研究写真帳」というのは、次のように考えました。①基本は自分で撮った写真を使う。家族などが撮った古い写真を使う場合もある。また指導教官の撮った写真は共同研究者として使う。インターネットや本からとった写真は、引用先を示して使う。②分量はA4で、裏表印刷20枚、40ページほどとする。③芸術写真集としての性格ももつが、テーマを設定して解説や分析の文章のあるものとする。</p> <p>次のようなことも考えてみよう。「昼・夜は気分がそれなりに高揚しているのに、あすからがんばろうと思うけれど、つぎの朝になるとその気分がしぼんでいる。その朝に奮起できるかどうか。</p> <p>大きな課題は分けて、小さい課題はまとめていっしょにこなす。いやな課題は好きにするか、どうしてもいやなら捨てる」。</p> <p>これは小学校からの勉強の集大成です。すぐに満足感が得られる場合もあるでしょうが、がんばった分いつか30歳・40歳になったとき役立つでしょう。</p>
--------	---

授業の概要	「授業のテーマ」で述べました。
-------	-----------------

到達目標	「授業のテーマ」で述べたことが、いつか30歳になったときでも、50歳になったときでも深くわかっていただけたらと願いますという教員に応えることができる。
------	---

授業計画	<p>ゼミの「計画」を述べますが、ゼミの性格からして、ゼミ員の討論によって変わりますし、ある意味ではゼミは成り行きに任せるのも重要なことです。学問において成り行きは美しいことでもあります。成り行きのなかに高度な思考が宿ります。一回一回の計画を具体的に書くなどというのは、けっして美しくないもので、以下のようにシンプルにします。ゼミ員が各自のテーマにしたがって発表と討議をくりかえします。</p> <p>1 発表と討議1回め 2 発表と討議2回め 3 発表と討議3回め 4 発表と討議4回め 5 発表と討議5回め 6 発表と討議6回め 7 発表と討議7回め 8 発表と討議8回め 9 発表と討議9回め 10 発表と討議10回め 11 発表と討議11回め 12 発表と討議12回め 13 発表と討議13回め 14 発表と討議14回め 15 発表と討議15回め 16 発表と討議16回め 17 発表と討議17回め 18 発表と討議18回め 19 発表と討議19回め 20 発表と討議20回め 21 発表と討議21回め</p>
------	---

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	中村 茂						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	火曜4	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	「4年間の学習の集大成としてのファッション・コミュニケーション」						
授業の概要	デザイン特別演習を踏まえて、制作系のテーマとしてはファッション領域を中心とするメディア・デザイン、例えばファッションブランドのプロモーション・ツールなどのグラフィック・デザインや、ファッション現象のサーチ結果のエディトリアル・デザイン表現などをパンフレットにまとめる。こうした卒業研究を通じて、自身の将来の進路を明確にするとともに、積極的にデザインの在り方を提案し、社会貢献を果たすことを目的とする。						
到達目標	自身の体験に基づいた独自の視点から、説得力があり印象に残るコミュニケーションを可能とするメディア・デザインを可能とする。						
授業計画	1) オリエンテーション 2) ~5) テーマの再検討と確立 6) ~10) 素材収集と取材 11) ~15) 縮約版パンフ制作 16) ~20) 完成版パンフ制作 21) ~25) 制作概要レポート、展示パネル制作 26) ~30) プレゼンテーション準備、表題集原稿作成						
授業外における学習(準備学習の内容)	各自のテーマに基づく情報収集、取材。						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	平常点、論文または制作物の内容、完成度						
教科書	特に無し。						
参考書	必要に応じて紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	卒業研究/Graduation Thesis						
担当教員	米原 慶子						
学期	通年/Full Year	曜日・時限	水曜2	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	ハウジングデザイン領域の建築設計、インテリアデザイン等の卒業制作						
授業の概要	デザイン特別演習を通じ、各自が考えた住空間デザインへの問題提起をテーマとし、提案的な卒業研究/制作に取り組む。 ゼミ形式で、各自のテーマに応じて必要な調査を行ない、随時発表・討論を行ないながら制作をすすめ、様々な住空間の計画・設計、インテリアデザイン等の作品にまとめる。 またそのプロセスについては、制作ノートにまとめる。 図面、模型、スライド等に表現し、プレゼンテーションを行なう。 キーワード：住空間、卒業制作、プレゼンテーション						
到達目標	各自興味のあるテーマについての理解、問題意識を深め、独自の有意義な提案ができるようになる。 表現力を高めながら、まとまった建築設計またはインテリアデザイン作品に仕上げ、トータルなプレゼンテーションができるようになる。						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、第1段階 「卒業制作のテーマに関する基礎研究」 敷地設定、参考作品など資料の収集と前提条件の整理</p> <p>第2回 第1段階 敷地図、既存図の作成、 参考作品研究（図面トレース、スタディ模型制作等）、ヒアリング等</p> <p>第3回 第1段階 参考作品、ヒアリング結果等の分析</p> <p>第4回 第1段階 基礎研究のまとめ</p> <p>第5回 第1段階 基礎研究の発表用パワーポイントの作成</p> <p>第6回 第1段階 基礎研究の発表、第2段階の準備</p> <p>第7回 第2段階 「基本計画」 エスキース</p> <p>第8回 第2段階 エスキースチェック、修正</p> <p>第9回 第2段階 基本計画図、スタディ模型など作成</p> <p>第10回 第2段階 基本計画図、スタディ模型など作成</p> <p>第11回 第2段階 基本計画図、スタディ模型など作成</p> <p>第12回 第2段階 基本計画図、スタディ模型など作成</p> <p>第13回 第2段階 まとめ、中間発表用パワーポイントの制作</p> <p>第14回 第2段階 パワーポイントのチェック、修正</p> <p>第15回 第2段階 中間発表と講評、夏休みの宿題計画</p> <p>第16回 第3段階 夏休みの宿題のまとめ、第3段階の計画</p> <p>第17回 第3段階 夏休みの宿題発表、第3段階「詳細設計」準備</p> <p>第18回 第3段階 詳細図、パース、模型などの制作</p> <p>第19回 第3段階 詳細図、パース、模型などの制作</p> <p>第20回 第3段階のまとめ、中間発表用プレゼンテーションボードの制作</p> <p>第21回 第3段階 中間発表、講評。追加修正事項の指導</p> <p>第22回 最終段階 追加修正図面の作成</p> <p>第23回 最終段階 プレゼンテーションボードの制作</p> <p>第24回 最終段階 プレゼンテーションボードの制作</p> <p>第25回 最終段階 プレゼンテーションボードのチェック</p> <p>第26回 最終段階 制作ノートの整理、まとめ</p>						

授業計画	第27回 最終段階 プレゼンテーションボード、制作ノートのプリントアウト、学科提出 第28回 最終段階 プレゼンテーションボード、制作ノートのチェック、修正 第29回 最終段階 プレゼンテーションボード、制作ノートの完成、最終提出。概要集用原稿の作成 第30回 最終段階 発表用パワーポイント、原稿の作成
授業外における学習（準備学習の内容）	興味のあるテーマについて、各自で文献検索、資料収集につとめ、学習を深めること。 テーマ関連の建築や展覧会等の見学を積極的に行うのが望ましい。
授業方法	ハウジングデザイン領域の卒業作品制作を中心としたゼミナール。
評価基準と評価方法	評価比率は、最終作品の評価50%、中間段階の提出物20%、平常点30%とする。
教科書	
参考書	各自のテーマに応じて紹介する。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	地域貢献デザイン演習						
担当教員	中村 茂						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	地域イベントへの参加・情報発信など、学生の立場からの貢献方法を模索するため、地域の実態について理解しそれらについてのマップ・ダイアグラム・リーフレットなどの情報発信のためのグラフィック表現をデザインする。						
授業の概要	従来、課外活動として実施してきた兵庫県の県民ふれあいの祭典、神戸市の神戸ビエンナーレ、神戸ファッションウィークなどの関連イベントへの参加実績を振り返り、地域貢献活動への第一歩として、身近な地域情報発信のためにグラフィックソフトを活用したデザイン演習を行う。						
到達目標	学生らしい視点を持って地域の実態に関心をもち、地域の現況・イベント・観光資源などに関する情報発信のための簡単な情報媒体の制作を可能にする。						
授業計画	1) 04/13 オリエンテーション ー従来のイベント参加例ー 2) 04/20 神戸市・兵庫県の地域イベントについて 3) 04/27 居住地域の再発見 ー1ー 4) 05/11 " ー2ー 5) 05/18 地域情報表現 ー1ー マップ 6) 05/25 " ー2ー ダイアグラム 7) 06/01 " ー3ー リーフレット 8) 06/08 神戸ファッションウィークについて 9) 06/15 神戸市内の情報発信対象の調査 ー1ー グループ編成・調査計画 10) 06/22 " ー2ー 調査資料編集 11) 06/29 地域情報発信のためのデザイン提案 ー1ー 12) 07/06 " ー2ー 13) 07/13 " ー3ー 14) 07/20 プレゼンテーション 15) 07/27 講評						
授業外における学習(準備学習の内容)	地域に対する関心を高め、イベントなどを積極的に見学する。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	平常点30%、レポート、プレゼンテーション課題70%で表現する。						
教科書	特になし。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	テキスタイルデザイン演習Ⅰ(基礎) / テキスタイルデザイン演習						
担当教員	戸田 賀志子						
学期	後期 / 2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	テキスタイルデザインに必要とされる基礎的な知識と技術を身につける						
授業の概要	テキスタイルデザインを行う上で必要となる基礎的な知識を学ぶ。あわせて、デザイン作品を理解するための技術として、ステンシルや刺繍をはじめとする技法を習得する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の素材としてのテキスタイルに関する基礎的事柄が理解できる。 ・テキスタイルに関連する技法を習得する。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ファッション製品の素材 3. 繊維からファッション製品になるまで 4. 糸、布のデザイン 5. 型紙染め1 ステンシル デザイン 6. 型紙染め2 ステンシル 制作 7. 型紙染め3 ステンシル 完成 8. 刺繍の技法1 ランニングステッチ、バックステッチ 9. 刺繍の技法2 アウトラインステッチ、クロスステッチ 10. 刺繍の技法3 レゼーデージーステッチ、サテンステッチ 11. スラッシュキルト1 デザイン 12. スラッシュキルト2 布地の選定 13. スラッシュキルト3 制作 14. 作品制作 15. 作品発表 						
授業外における学習(準備学習の内容)	身の回りにあるテキスタイル(画像も含む)をよく観察する。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	作品50%、授業への参加度(積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるか)50%						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	テキスタイルデザイン演習II (CAD) / ファッションプレゼンテーション演習II						
担当教員	戸田 賀志子						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	テキスタイルデザインに挑戦する						
授業の概要	衣服の素材としてのテキスタイルの基礎知識（組織、構造、性質、生産、染色、加工技法など）を学ぶ。この知識に基づき、テキスタイル専門CADソフトを用いて受講生各自がオリジナルのプリント柄や織物のデザイン作品を制作する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスタイルに関する理解を深める。 ・テキスタイルデザインソフト4Dboxを用いてプリントデザイン、先染めデザイン、ニットデザインを行うことができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 使ってみようテキスタイルCAD (4DBox) 3. テキスタイルCAD (4DBox) の基礎 4. 糸のデザイン1 燃り 5. 糸のデザイン2 ループ 6. 先染めデザイン1 ストライプ、ボーダー 7. 先染めデザイン2 チェック 8. プリンティング1 花柄 9. プリンティング1 ジャガード柄 10. ニットデザイン1 編み 11. ニットデザイン2 透かし 12. テキスタイル柄の3Dマッピング 13. 作品制作1 デザイン 14. 作品制作2 配色 15. 作品発表 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業ではPhotoshopやIllustratorを併用するので、デザインソフトの操作ができるよう自主的に練習すること。						
授業方法	演習。プリントやスライドを活用する。						
評価基準と評価方法	作品50%、発表30%、授業への参加度（積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるか）20%						
教科書	特に定めない。						
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン概論F/ファッションデザイン概論						
担当教員	徳山 孝子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	色・形・素材などからデザインの基礎を学ぶ。						
授業の概要	ファッション領域の科目全体を概観するための必修科目である。他のデザイン分野とは異なる独自性をもって発展してきたファッションデザインの近代以降の歴史的意味を振り返り、現代ファッションの範囲、他分野への拡がりや融合について理解する。また、新しさへの欲求、国境を越えた流行、スタイルと風俗などのファッションの性質、および生活文化としてのファッションを踏まえ、ファッションデザインの意味、形態、色彩、質感と美的性質、目的、発想と表現、ファッション産業の仕組みなどについての基礎的知識を習得する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) ファッションデザインを分析することができる。 2) デザイン美を列挙することができる。 3) フォーム、カラー、素材の専門用語が説明できる。 4) ファッションイメージを説明することができる。 5) ファッションスタイリングの問題を指摘することができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明）服飾デザイン：ファッションとは何か 2. ファッションデザインと造形要素①：点・線・形など 3. ファッションデザインと造形要素②：面と立体など 4. カラー①：色彩の基礎 5. カラー②：マンセル表色系 6. カラー③：イメージによる色の表現 7. カラー④：配色とカラーバランス 8. デザイン美①：ファッションの美的統一とは（プロポーション） 9. デザイン美②：秩序の理論（統一と変化）、アクセントとポイント、ハーモニーとコントラスト、バランスとシンメトリー、リズムとプロポーションなど 10. マテリアル①：材質の表情、材質とデザイン 11. マテリアル②：イメージによる素材の表現 12. フォーム①：ディテールとバリエーション 13. フォーム②：イメージによる形態の表現 14. 体型とデザイン効果を理解し、スタイリングを体験する 15. 体型とファッションイメージの関係性、試験 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習は、授業内で説明する。 授業後学習は、学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。						
授業方法	プリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める。						
評価基準と評価方法	定期試験70%、提出物30%						
教科書	『新配色カード199b』（日本色研事業株式会社） プリントを配布する。 尚、『新配色カード199b』は、授業科目「カラーデザイン論」「イメージリテラシーⅣ（カラーコーディネート演習）」に使用する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン概論H/ハウジングデザイン概論						
担当教員	中林 浩						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	<p>前半は日本の住宅の歴史です。農家・町家・長屋の流れは、現代日本の住宅の出発点です。寝殿造から書院造りへの発展の話もします。基本は庶民の住宅の歴史を話しているんだけど、天皇の別荘である桂離宮の話にも及ぶのだけど、この桂離宮を知らないひとが多いのがショック、日本の建築でもっとも有名なものなのに、前は20歳にならないと入れなかったのだが、18歳になった、ここで桂離宮へ行くことをすすめます。</p> <p>後半は都市計画・まちづくりの歴史、後半は都市のあり方の新しい理論を学びます。その歴史ではおもに産業革命以降のイギリスにおける田園都市運動やフランスにおけるパリ大改造の話を中心とします。こうした歴史をへてうまれてきた都市計画の理論を学びます。わたしはほかの授業でも強調しているのですが、19世紀を重視しています。都市計画とは直接関係しないようですが、美術史のなかでも燦然と輝く印象派マネとかルノワールとか、ポスト印象派のゴッホとかの時代です。それと、北斎もね。歴史を大づかみにして、産業革命後つまり近代の出発点である19世紀（イギリスではヴィクトリアン）をしっかりと頭の中にすえてほしいのです。が、これがなかなかむずかしい。</p> <p>まちづくりの新しい理論では日常生活圏の重視・文化財の保全・脱自動車社会の試みなどが焦点となります。日本の都市計画法についてもそのしくみを概括的に学びます。法律の説明で終始するような授業をしている大学もあると思いますが、わたしはむしろ法にもとづいた都市計画行政が都市を悪くしたという点を強調します。</p> <p>そして、それ対抗して、よりよい住宅・都市・地球環境をうみだすために、人間はいろいろな運動をしていることを学んでいただけたらと願っています。</p> <p>こういうことも考えてもらいたい。各地で路上喫煙防止条例ができています。自動車の排ガスに比べて格段に毒性の弱いタバコをどうしてとりしまりたいのでしょうか。これはファシズムです。人びとの日常生活に権力をふるおうとする勢力の作戦なのです。ほんとうに人びとの健康をねがってやっているのでしょうか。</p> <p>この授業では政府・自治体の行政の批判がずいぶん出てきます。乱開発に対する反対運動にいつか立ちあがるようなひとになってください。</p>						
授業の概要	「授業のテーマ」で述べました。						
到達目標	「授業のテーマ」で述べたことが、いつか30歳になったときでも、50歳になったときでも深くわかっていただけたらと願いますという教員に応えることができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 日本住宅の系譜 2 農家・町家・長屋 3 現代住宅の分類 4 小住宅における秩序 5 2DKや3LDK ここからまちづくり 6ユートピアン社会主義者の実験村 7パリ大改造 8田園都市論 9日本の都市計画のしくみ——ほんとうに日本の行政は悪いことばかりしてきた、すっかりクルマ社会にしてしまった 12新しいまちづくりの考え方——それでも前進していることもある、とくに海外では 13人間的な交通・景観 14地球環境問題 15まとめとテスト <p>ビデオは最後の30分ほどに毎回見せます。最初はヤオトン、前半はNHKの「ふれあい街歩き」が多くなります 後半は以下のようなラインナップ。</p> <p>A 団地の誕生（1960ころの団地） B アニメ貧困史 格差都市ロンドン C アフガニスタン女性刑務所 D フィラデルフィアの衰退、バーミンガムの成功 E 新長田の再開発、悲惨な失敗 F ソウルの快挙（高架道路の撤去） G トランジットモール（新型路面電車） H 自転車の都市グローニンゲン</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>森羅万象に興味をもってください。日常生活において、こころを虚しくしてものを眺めたり、ときには注視したりする習慣を身につけてください。こういう問題に関しては学外に素晴らしい教材があります。話を聞いてほしいひともたくさんあります。ゲストスピーカーという制度があって、呼んだらいいのですが、手続きが煩雑で。なかなか呼べません。この場をかりておわびします。ついでに言うておきますが、こういうわけですから、ゲストスピーカーを呼んでいる教員はとて熱心な教員なので、みなさんもそう思ってください。拍手を送りたいと思います。したがって、わたしは町の活動家と呼ばれませんが、学習の準備として新聞などでまちづくり運動の記事などをよく読んでください。</p>						

授業方法	「授業のテーマ」で述べたとおりの講義です。
評価基準と評価方法	おおむね9割を提出物で採点する。授業への参加の積極性を加味することもある。積極性の加点0点なら提出物100点満点で、積極性の加点5点なら提出物95点満点で、積極性の加点10点なら提出物90点満点で、積極性の加点15点なら提出物85点満点で、積極性の加点20点なら提出物80点満点で採点するということです。わたしの評価は甘いといわれている。つまりこの点では優しい。「優しい教師はいい加減な教師である」(「マーフィの法則」より)。
教科書	図解住居学編集委員会編(彰国社)『図解住居学1住まいと生活』、2年次以降の「景観論」「建築計画学」でも使います。
参考書	授業中に紹介します。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン企画論						
担当教員	戸田 賀志子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッションとデザインを考える						
授業の概要	ファッションを企画する際のアイデア・ソース（発想の源泉）となる文化的知識を身につける。トップモードに影響を与えた伝統的技術について染織を中心に概観し、伝統が新しさを生み出してきた事実を確認する。また、布地や衣服の生産、流通の歴史をひも解き、産業としてのファッションの未来について考える。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ファッションを多面的に捉えることができる。 ・人と環境と生活とファッションの関係について理解できる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ウィリアム・モリスとアーツ・アンド・クラフツ 3. アールヌーボーとアールデコ 4. KATAGAMIとデザイン 5. 染織の美1 染めの歴史 6. 染織の美2 染めの技法 7. 染織の美3 織りの歴史 8. 染織の美4 織りの技法 9. 発表 10. ファッション産業の歴史とグローバル化 11. ラグジュアリーブランドの社会貢献と文化貢献 12. エシカルファッション 13. ファッションにおけるデザインの力 14. 発表 15. 期末評価 						
授業外における学習（準備学習の内容）	お気に入りのファッションを見つけて注意深く観察し、どこに魅力を感じるのかを考えてみる。						
授業方法	講義。資料（プリント）や視聴覚教材（DVDやパワーポイント）を活用する。						
評価基準と評価方法	発表40%、課題40%、授業への参加度（積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるか）20%						
教科書	とくに定めない。						
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン基礎実習F						
担当教員	井上 裕之						
学期	前期隔週B	曜日・時限	火曜3～5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	イメージに基づいた平面から立体への造形						
授業の概要	<p>本科目では、デザインイメージの発想法とそのイメージを形にする手法をファッション領域の実習形式で学ぶ。イメージを基に衣服をデザインし、目的に応じた手法で制作することを目的とする。</p> <p>ファッションデザインとは、環境や時代性といった様々な事柄からインスピレーションを受け、それらをイメージ化し、衣服という立体造形として表現するものである。ここでは、個々に設定したテーマを基に、調査・分析し、そこで得られた結果に基づきデザインを発想する。最終的にスカート、Tシャツの組み合わせとしてイメージの立体化をおこなう。</p> <p>また一連の工程の中で、デザインテーマ、デザイン画、試作品、実物作品を資料としてファイリングし、成果物としてまとめる。</p>						
到達目標	<p>1. 認知的領域：知識・理解 (1) 個々に設定したテーマについて調査・分析し、デザインを発想することができる。 (2) 衣服制作に必要な基本的な技法、道具の使い方を理解できる。</p> <p>2. 情意的領域：関心・意欲 (1) 自分の好みを知り、そのイメージを衣装で表現することができる。</p>						
授業計画	<p>1. オリエンテーション：授業内容の説明とテーマ探し。</p> <p>2. 調査・分析：個々に設定したテーマについて調査をおこなう。その内容をテイスト分類、色彩、素材、シルエットなどについて分析し、まとめる。</p> <p>3. デザイン：デザイン手法の説明。デザインの考案。</p> <p>4. デザイン、試作①：デザインの決定。トワルによるスカートの試作。</p> <p>5. 試作②：トワルによるスカートの試作</p> <p>6. スカート①：本布裁断。印つけ。</p> <p>7. スカート②：脇線、ウエスト部分の縫製。</p> <p>8. スカート③：裾の縫製、ウエストゴム通し。</p> <p>9. スカート④：装飾。仕上げ。</p> <p>10. Tシャツ①：デザインの決定。</p> <p>11. Tシャツ②：装飾品等の準備。</p> <p>12. Tシャツ③：各自のデザインに応じ制作。</p> <p>13. Tシャツ④：仕上げ。コーディネート計画。</p> <p>14. 写真撮影：着用写真を撮影。プレゼンテーション用のボード作成。</p> <p>15. プレゼンテーション：作品発表・講評会を行う。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後学習：授業内で制作課題が終わらない学生は、次回の授業までに終わらせる。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	実物作品（70%）、資料ファイル（30%）で評価する。						
教科書	必要に応じて、プリントを配布する。						

参考書	
-----	--

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン心理学						
担当教員	高田 敏代						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	デザイン（ファッション）と心理（コミュニケーション・伝達）を解析します。						
授業の概要	デザイン（ファッション）は、時代を映し出す社会の鏡であり、その時代を生きる人々の心を映し出す鏡である。この授業では、社会を映し出すデザイン（ファッション）と個人の心理を映し出すファッションについて学びます。日常生活の中にある具体的な事例をもとに、デザイン（ファッション）と社会、ファッションと人の心理的な関わりについての理解を深めることが目標です。						
到達目標	「社会環境とデザイン（ファッション）」、「人とファッション」の密接な関係について理解できる。社会や人はデザイン（ファッション）でコミュニケーション（情報伝達）できることを理解できる。						
授業計画	1回 授業の概要と進め方、評価の方法について説明する。 ファッションってなに？人はファッションでコミュニケーションしているってどんなこと？の解説 2回 社会心理とデザイン（ファッション） 戦後の歴史とファッション（デザインやカラーなど）の解説 3回 社会心理とデザイン（ファッション） 社会心理が生み出したファッショントレンドについての解説 4回 人の心理とファッション 人はファッションを通してコミュニケーションしていることを知る 5回 人の心理とファッション 自己分析を通して自分を知る 自分はどのように人に見られたいのかを知る 6回 色彩の心理 色の機能や配色効果と対比、年代別の色の嗜好、色形反応などを学ぶ 7回 色彩の心理 ファッションや生活への応用 マインドカラーとパーソナルカラー（似合う色）の解説 8回 デザインの心理 デザインの心理的な見え方（錯視＝視覚に関する錯覚）について学ぶ 9回 デザインの心理 環境や住空間、ファッション（服の着方）にどのように応用されているのかを知る 10回 ブランドに対する心理 ブランドとはなにか、ブランドのデザインやブランドの心理戦略について学ぶ 11回 ブランドに対する心理 ファストファッション（ユニクロなど）ブランド戦略とデザインについて学ぶ 12回 ファッションで分析する 調査資料に基づき年代別の嗜好色やデザイン、服の着こなしの違いを解説する 13回 生活シーンで分析する 生活シーン別スタイリングマップ（カラー、デザイン、コーディネート）の作成 14回 デザイン（ファッション）心理学 全体のまとめ 各自学んできたことを応用したデザインや事例を探す 15回 各自の研究レポートの発表会						
授業外における学習（準備学習の内容）	デザイン（ファッション）と心理学をテーマにしたレポート						
授業方法	オリジナルテキストを使用 参考文献の案内						
評価基準と評価方法	授業内容に積極的に取り組めたか。課題やレポート、授業ノートで採点します。						
教科書	オリジナルテキスト ファッションコミュニケーション 東方出版 著者高田敏代（講師の著書） 1日目から使いますので事前に購入してください。						
参考書	授業を進める中で紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習A						
担当教員	井上 裕之						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	コンセプト・文献調査に基づいた衣服造デザインの習得						
授業の概要	ファッション分野の基礎科目、ファッションデザイン実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで習得した知識やスキルを総合し、文化、社会、流行、生活、身体などあらゆる側面からファッションについて分析考察し、それらを衣服造形として表現する。 デザイン特別演習Aでは、各自でテーマを設定し、そのテーマについての資料、文献を主とした調査方法や考察の仕方を学び、自分の考えを論として展開していく。そして調査結果を基に衣服デザインを考案し、プレゼンテーションをおこなう。						
到達目標	1. 認知的領域：知識・理解 ①テーマにそった文献・ビジュアル資料を収集できる。 ②文献・ビジュアル資料を読み解き、その内容をパワーポイントで発表できる。 2. 認知的領域：思考・判断 ①文献・ビジュアル資料調査の結果を基に、情報の本質を見極め、衣装デザインにつながる自らの考えを述べる ことができる。 ②イメージボード、スタイルマップを作成し、イメージをデザイン画で表現することができる。 3. 情意的領域：関心・意欲 ①図書館、美術館、講演会、インタビュー、ファッションショー等に積極的に出向き、情報を集めることができる。						
授業計画	1. オリエンテーション：文献収集法の説明、テーマ設定 2. テーマ設定①：テーマの設定とキーワードの抽出 3. テーマ設定②：文献収集 4. テーマ設定③：文献の読解と情報の収集 5. テーマ設定④：「研究目的」をまとめる 6. テーマ設定⑤：「研究方法」を決める 7. 発表①：発表準備 8. 発表②：研究目的・研究方法、テーマ内容について発表する 9. 製作①：デザイン構想1 10. 製作②：デザイン構想2 11. 製作③：デザイン画作成法と実践 12. 製作④：デザイン画作成 13. 製作⑤：デザイン画決定 14. 発表②：発表原稿とパワーポイント作成 15. 発表③：発表・講評会						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後学習：次の授業までに課題を提出すること。						
授業方法	演習形式（個人指導を含む）						
評価基準と評価方法	課題発表（50%）、課題提出（50%）で評価する。						
教科書							
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習A						
担当教員	徳山 孝子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	「着る・装う」という行為を様々な方法から学び、プレゼンテーションを演習する。						
授業の概要	2年次までに学んだ生活文化概論、ライフスタイル論、ボディーファッション論、カラーデザイン論等の広範囲な知識を基礎に、時代、社会、地域等の背景を踏まえながら、「着る・装う」という行為に対する人間の心の動きまでを読み解ける力を養う。 「着る・装う」ことは、ヒトとモノの複合的な関係性から成り立ち、どのような側面を扱うかによって文化的にも科学的にもアプローチが可能になる。そのため複数ある実験や調査方法、官能検査、統計解析、資料・文献収集、図像学的分析等の方法から目的にあった手法を選択できるよう演習を通じて学ぶ。						
到達目標	1) 研究テーマを決めることができる。 2) 文献を収集し、説明することができる。 3) インタビューの内容をまとめることができる。 4) 研究内容を説明することができる。 5) 研究論文をまとめることができる。						
授業計画	1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明） 2. 研究テーマの決め方①：「着る・装う」をキーワードにして、疑問に思うことを抽出する。 3. 研究テーマの決め方②：疑問に思ったことを図式化して、テーマを決定 4. 研究の進め方①：図書館の利用の仕方と文献収集 5. 研究の進め方②：文献収集のまとめと発表 6. 研究の進め方③：論文の書き方の説明、練習 7. 研究の進め方④：発表、添削 8. 研究方法①：実験方法と文献調査の違いを説明する 9. 研究方法②：テーマに沿って研究方法を実施する 10. 研究方法③：研究を発表 11. 研究方法③：インタビューの練習 12. 研究方法④：インタビュー調査の発表 13. まとめ①：論文のロジックを作る 14. まとめ②：論文をまとめる 15. まとめ③：論文を発表する						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習は、授業内で説明する。 授業後学習は、学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。						
授業方法	プリントを配布する。そのプリントに添って演習する中で、画像を使って確認をしながら進める。						
評価基準と評価方法	発表50%、提出物50%						
教科書	教科書としては、特に用いないが、プリントなどを使用する。						
参考書	演習中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習A						
担当教員	戸田 賀志子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	卒業研究・制作に向けて興味あるテーマを見つける。						
授業の概要	3年次までのファッションやデザインに関連する基礎科目や実習での学習に基づいて、興味のある事柄に注目し、自分がそのどこに魅力を感じ、何をより深く知りたいのか、何を表現したいのかについて考えをまとめ、卒業研究・制作につながるテーマを見つける。また、計画性を伴う研究・制作課題への取り組み方を身につける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・研究・制作テーマを決めることができる。 ・研究・制作に必要な情報を収集することができる。 ・研究・制作内容を説明することができる。 ・研究・制作内容を発表することができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. テーマの設定1 学習内容と興味ある事柄の検討 3. テーマの設定2 キーワードの抽出 4. テーマの設定3 研究目的、対象の検討 5. 研究方法1 図書館の利用と文献収集 6. 研究方法2 調査資料の収集と方法 7. 研究方法3 研究計画 8. テーマの発表 9. テーマに沿った研究の実施 10. 研究資料の調査 11. 研究資料の分析 12. 研究資料の整理 13. 調査結果のまとめ 14. パワーポイント制作 15. 成果の発表 						
授業外における学習（準備学習の内容）	各自のテーマに基づいた資料の収集を行う。						
授業方法	演習。配布プリントや視聴覚教材（DVD、パワーポイント）を用いて、内容を確認しながら進める。						
評価基準と評価方法	提出物50%、発表50%						
教科書	特に定めない。						
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習A						
担当教員	中林 浩						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	<p>都市計画・まちづくり・地域計画に関するゼミです。都市計画の歴史や都市のあり方の新しい理論を学習しつつ、具体的な地域の調査を行います。オリジナリティのある研究・制作ができるような準備をすることがいちばん重要なことです。文献購読、話しあい、調査、調査のまとめをします。自分の設定したテーマをどうプレゼンテーションするのも重視します。</p> <p>各ゼミ員がレジュメを用意し、それを題材に討議するのを基本とします。各ゼミ員のテーマにかかわる見学、あるいは共通するイベントなどによっては学外に出ることもあります。木曜日の午後を基本とするが、流動的な日程を組むことがあります。次のようなことも考えてみよう。「昼・夜は気分がそれなりに高揚しているのに、あすからがんばろうと思うけれど、つぎの朝になるとその気分がしぼんでいる。その朝に奮起できるかどうか。大きな課題は分けて、小さい課題はまとめていっしょにこなす。いやな課題は好きにするか、どうしてもいやなら捨てる」。</p>						
授業の概要	「授業のテーマ」で述べました。						
到達目標	「授業のテーマ」で述べたことが、いつか30歳になったときでも、50歳になったときでも深くわかっていただけたらと願いますという教員に応えることができる。						
授業計画	<p>ゼミの「計画」を述べますが、ゼミの性格からして、ゼミ員の討論によって変わりますし、ある意味ではゼミは成り行きに任せるのも重要なことです。学問において「成り行き」は美しいこともあります。一回一回の計画を具体的に書くなどというのは、けっして美しくないもので、以下のようにシンプルにします。</p> <p>1 ゼミ1回め 2 ゼミ2回め 3 ゼミ3回め 4 ゼミ4回め 5 ゼミ5回め 6 ゼミ6回め 7 ゼミ7回め 8 ゼミ8回め 9 ゼミ9回め 10 ゼミ10回め 11 ゼミ11回め 12 ゼミ12回め 13 ゼミ13回め 14 ゼミ14回め 15 ゼミ15回め</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	森羅万象に興味をもってください。日常生活において、こころを虚しくしてものを眺めたり、ときには注視したりする習慣を身につけてください。						
授業方法	「授業のテーマ」で述べたとおりの演習です。						
評価基準と評価方法	ほとんどを提出物で採点します。参加の積極性を加味することがあります。「ほとんど」というのは9割程度ということです。						
教科書	新書を2冊ほど選定します（講義が始まってから）。						
参考書	授業中にたくさん紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習A						
担当教員	米原 慶子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	卒業研究につながる基礎研究と制作						
授業の概要	<p>ポートフォリオやプロジェクト課題（学外のコンペやイベントなどに参加）の制作により、デザイン力、表現力を高めながら、住空間のデザインについてのこれまでの学びを振り返り、各自興味のあるテーマについて、学びを深める。</p> <p>近現代の建築家やデザイナーの作品を社会的、文化・芸術的視点から読み解き、また身近な地域に着目しながら問題意識を深めていく。</p> <p>関連する作品集や著書等を読み、また可能な限り見学して、思想や手法を学び、パワーポイントにまとめる。</p> <p>発表、ディスカッションを積み重ね、後期のデザイン特別演習Bにつなげていく。</p> <p>キーワード：住空間、問題意識、デザイン表現</p>						
到達目標	<p>ポートフォリオ制作、プロジェクト課題の制作等を通して、デザイン力、表現力を高め、より適切な図面表現ができるようになる。</p> <p>各自興味のあるテーマについて、理解や問題意識を深め、卒業研究/制作のテーマについて方向性を考えることができる。</p>						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、第1課題 ポートフォリオの作り方解説</p> <p>第2回 第1課題 ポートフォリオ制作 これまでの作品の見直し</p> <p>第3回 第1課題 ポートフォリオ制作 作品の手直し</p> <p>第4回 第1課題 ポートフォリオ制作 ページ構成、レイアウト</p> <p>第5回 第1課題 ポートフォリオの仕上げ、提出 チェック、追加修正の指示</p> <p>第6回 第2課題 デザイナー/テーマ研究 課題説明</p> <p>第7回 第2課題 参考資料検索、まとめ</p> <p>第8回 第2課題 中間発表とディスカッション、第3課題（小課題）について説明</p> <p>第9回 第3課題 課題設定</p> <p>第10回 第3課題 プロジェクト課題の制作</p> <p>第11回 第3課題 プロジェクト課題の制作</p> <p>第12回 第3課題 プロジェクト課題の制作</p> <p>第13回 第3課題 プロジェクト課題の制作</p> <p>第14回 各課題のまとめ、発表講評、追加修正の指示</p> <p>第15回 各課題の修正後、提出</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>興味のあるテーマについて、各自で文献検索、資料収集につとめ、学習を深めること。</p> <p>テーマ関連の建築や展覧会等の見学を積極的に行うのが望ましい。</p>						
授業方法	演習および実習（CADも使用）						
評価基準と評価方法	<p>平常の小課題と最終課題作品の成績に出席状況・受講態度等の平常点を加味し、総合的に評価する。</p> <p>（評価比率：第1課題20%、第2課題20%、第3課題30%、平常点30%）</p>						
教科書	プリントを配布する。						

参考書	授業中に紹介する。
-----	-----------

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習B/デザイン特別演習						
担当教員	井上 裕之						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	コンセプト・文献調査に基づいた衣服造形法の習得						
授業の概要	ファッション分野の基礎科目、ファッションデザイン実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで習得した知識やスキルを総合し、文化、社会、流行、生活、身体などあらゆる側面からファッションについて分析考察し、それらを衣服造形として表現する。 デザイン特別演習Bでは、デザイン特別演習Aで考案したデザインを基に、平面製図法や立体的断法によるパターン作成をおこない、デザインを衣服として立体化していく。またテーマに対する調査も継続しておこない、ポートフォリオへと順次まとめていき、卒業研究のための基盤づくりをおこなう。						
到達目標	<p>1. 認知的領域：知識・理解</p> <p>①デザイン画を基に、衣装の設計ができる。</p> <p>②デザインに適した衣装製作の資材を選択できる。</p> <p>2. 認知的領域：思考・判断</p> <p>文献・ビジュアル資料調査の結果を、立体としての衣服に効果的に反映できる。</p> <p>3. 情意的領域：関心・意欲</p> <p>①図書館、美術館、講演会、インタビュー、ファッションショー等に積極的に出向き、情報を集めることができる。</p>						
授業計画	<p>1. オリエンテーション：テーマ調査の進捗状況確認</p> <p>2. 製作①：ポートフォリオ作成法</p> <p>3. 製作②：ポートフォリオ作成</p> <p>4. 製作③：パターン理論の説明とパターン作成の検討</p> <p>5. 製作④：パターン作成 1</p> <p>6. 製作⑤：パターン作成 2</p> <p>7. 製作⑥：パターン作成 3</p> <p>8. 製作⑦：トワルによる試作 1</p> <p>9. 製作⑧：トワルによる試作 2</p> <p>10. 製作⑨：トワルによる試作 3</p> <p>11. 製作⑩：トワルによる試作 4</p> <p>12. 製作⑪：素材等、必要資材の検討</p> <p>13. 発表①：発表原稿とパワーポイント作成 1</p> <p>14. 発表②：発表原稿とパワーポイント作成 2</p> <p>15. 発表③：発表・講評会</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後学習：次の授業までに課題を提出すること。						
授業方法	演習形式（個人指導を含む）						
評価基準と評価方法	課題発表（30%）、課題提出（70%）で評価する。						
教科書							
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習B/デザイン特別演習						
担当教員	徳山 孝子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	卒業研究の先行研究をまとめる。						
授業の概要	3年前期までに学んだ知識を基礎に、研究テーマを考え、論文の読み解く力を養う。文化的なアプローチとしては、生活文化領域を中心に生活に身近なモノのデザインをテーマに、人間の精神的あるいは知的行為がどのように介在しているかを資料・文献収集、図像学的分析によって明らかにする。また、科学的なアプローチとしては、感性デザイン領域を中心に色や形をテーマとして、それらに対する心の動きを官能検査や統計解析によって科学的に解明する。さらに、学んだ知識をもとに、これらの卒業研究から、ヒトの心がどのようにモノのデザインに作用しているかを理解する。						
到達目標	1) 研究テーマを決めることができる。 2) 先行研究を説明することができる。 3) 研究方法を列挙することができる。 4) 研究テーマに基づき目次を作ることができる。 5) 研究内容を発表することができる。						
授業計画	1. オリエンテーション (課題テーマ、方針・進め方の説明) 2. テーマと研究方法の説明 3. 各自の先行研究について発表Ⅰ 4. 各自の先行研究について発表Ⅱ 5. 各自の先行研究について発表Ⅲ 6. 各自の研究方法について指導Ⅰ 7. 各自の研究方法について指導Ⅱ 8. 各自の研究方法について指導Ⅲ 9. 各自の研究方法について指導Ⅳ 10. 各自の発表について指導Ⅰ 11. 各自の発表について指導Ⅱ 12. 各自の発表について指導Ⅲ 13. 各自の発表について指導Ⅳ 14. 発表のプレゼンテーションⅠ 15. 発表のプレゼンテーションⅡ						
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前学習は、授業内で説明する。 授業後学習は、学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。						
授業方法	プリントを配布する。そのプリントに添って演習する中で、画像を使って確認をしながら進める。						
評価基準と評価方法	発表50%、提出物50%						
教科書	教科書としては、特に用いないが、プリントなどを使用する。						
参考書	演習中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習B/デザイン特別演習						
担当教員	戸田 賀志子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	卒業・制作研究に向けて興味あるテーマを絞り込み、これにかかわる事柄をまとめる。						
授業の概要	3年次前期までに学んだ事柄に基づき、研究・制作テーマを考える。各自のテーマを実践するうえで必要となる方法論を学び、先行研究や作例を分析、考察する。論文作成においては、その結果を論理的にまとめる。作品制作においては、カタチとして表現するための基盤づくりを行う。計画性を伴う研究・制作課題への取り組み方を身につける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・研究・制作テーマを決めることができる。 ・自分の興味あるテーマに沿った適切な研究論文や作例を検索できる。 ・研究・制作内容を説明することができる。 ・研究・制作内容を発表することができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. テーマの設定 3. テーマに基づいた先行研究・作例の発表 1 4. テーマに基づいた先行研究・作例の発表 2 5. テーマに基づいた先行研究・作例の発表 3 6. 方法の検討 1 各自の研究・制作に対する指導 7. 方法の検討 2 各自の研究・制作に対する指導 8. 方法の検討 3 各自の研究・制作に対する指導 9. 方法の検討 4 各自の発表に対する指導 10. 方法の検討 5 各自の発表に対する指導 11. 方法の検討 6 各自の発表に対する指導 12. 方法の検討 7 各自の発表に対する指導 13. 発表に向けてのまとめ 1 原稿作成 14. 発表に向けてのまとめ 2 パワーポイント作成 15. 発表 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習は授業中に説明する。授業後学習は各自が学んだ内容を整理し、要点をまとめる。課題は次の授業までに完成させること。						
授業方法	演習。配布プリントや視聴覚教材（DVD、パワーポイント）を用いて、内容を確認しながら進める。						
評価基準と評価方法	提出物50%、発表50%						
教科書	特に定めない。						
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習B/デザイン特別演習						
担当教員	中林 浩						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	<p>4年生での卒業研究へと続く都市計画・まちづくり・地域計画に関するゼミです。都市計画の歴史や都市のあり方の新しい理論を学習しつつ、具体的な地域の調査を行います。オリジナリティのある研究・制作ができるような準備をすることがいちばん重要なことです。文献購読、話しあい、調査、調査のまとめをします。「3年生論文」というようなかたちで、卒業論文にむけたものを作成します。パワーポイントで20枚でいどとします。</p> <p>各ゼミ員がレジュメを用意し、それを題材に討議するのを基本とします。各ゼミ員のテーマにかかわる見学、あるいは共通するイベントなどによっては学外に出ることもあります。木曜日の午後を基本とするが、流動的な日程を組むことがあります。次のようなことも考えてみよう。「昼・夜は気分がそれなりに高揚しているの、あすからがんばろうと思うけれど、つぎの朝になるとその気分がしぼんでいる。その朝に奮起できるかどうか。大きな課題は分けて、小さい課題はまとめていっきにこなす。いやな課題は好きにするか、どうしてもいやなら捨てる」。</p>						
授業の概要	「授業のテーマ」で述べました。						
到達目標	「授業のテーマ」で述べたことが、いつか3歳になったときでも、50歳になったときでも深くわかっていただけたらと願いますという教員に伝えることができる。						
授業計画	<p>ゼミの「計画」を述べますが、ゼミの性格からして、ゼミ員の討論によって変わりますし、ある意味ではゼミは成り行きに任せるのも重要なことです。学問において「成り行き」は美しいこともあります。一回一回の計画を具体的に書くなどというのは、けっして美しくないの、以下のようにシンプルにします。</p> <p>1 ゼミ1回め 2 ゼミ2回め 3 ゼミ3回め 4 ゼミ4回め 5 ゼミ5回め 6 ゼミ6回め 7 ゼミ7回め 8 ゼミ8回め 9 ゼミ9回め 10 ゼミ10回め 11 ゼミ11回め 12 ゼミ12回め 13 ゼミ13回め 14 ゼミ14回め 15 ゼミ15回め</p> <p>「ゼミ」以外のものが2つ隠れています。なにとなににしよう。このゼミでは言葉の遊びも大歓迎。 ゼミ ゼミ ゼミ ゼミ ゼミ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	森羅万象に興味をもってください。日常生活において、こころを虚しくしてものを眺めたり、ときには注視したりする習慣を身につけてください。						
授業方法	「授業のテーマ」で述べたとおりの演習です。						
評価基準と評価方法	かなりの部分を提出物で採点し、授業への参加の積極性を加味することもあります。かなりの部分というのは6割から8割でいどといったような意味です。「参加の積極性」とは議論をいっしょうけんめいやるかどうかです。あるいはテーマをほんとうに興味をもって設定しているかどうかということです。						

教科書	新書を2冊ほど選定します（講義が始まってから）。
参考書	授業中にたくさん紹介します。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザイン特別演習B/デザイン特別演習						
担当教員	米原 慶子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	卒業研究/制作につながる基礎研究とテーマ設定						
授業の概要	<p>デザイン特別演習Aに引き続き、住空間のデザインについてのこれまでの学びを振り返り、各自興味のあるテーマについて、学びを深める。 近現代の建築家やデザイナーの作品を社会的、文化・芸術的視点から読み解き、またコンペや学外イベントなど様々なプロジェクトに参加したり、身近な地域に着目しながら問題意識を深めていく。 関連する作品集や著書等を読み、また可能な限り見学して、思想や手法を学び、パワーポイントにまとめる。 またポートフォリオや小課題の制作により、表現力を高める。 発表、デスカッションを積み重ね、最終的に住空間デザインへの問題提起につなげ、卒業研究/制作のテーマ設定を行なっていく。 キーワード：住空間、問題意識、テーマ設定</p>						
到達目標	<p>各自興味のあるテーマについて、理解や問題意識を深め、卒業研究/制作のテーマを設定することができる。 ポートフォリオ制作、パワーポイントによるプレゼンテーション等を通して、表現力を高め、より適切な図面表現ができるようになる。</p>						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、卒業制作のテーマ設定について、ポートフォリオの作り方 第2回 第1課題 ポートフォリオの追加、再構成 第3回 第2課題 デザイナー/テーマ研究 課題説明 第4回 第2課題 参考資料検索、質疑応答 第5回 第1課題 ポートフォリオ(再構成)の提出、チェック、追加修正の指示 第6回 第2課題 参考作品資料の作成 第7回 第2課題 中間発表と討論、第3課題(小課題)について説明 第8回 第1課題 ポートフォリオ(再構成)の仕上げ、提出 第9回 第3課題 小課題の制作 第10回 卒業制作のテーマ設定 中間発表と討論 第11回 第3課題 小課題の制作、卒業制作のテーマについて 個別相談 第12回 第3課題 小課題の制作、卒業制作のテーマについて 個別相談 第13回 卒業制作のテーマについて 発表用パワーポイントの制作 第14回 パワーポイントによる発表(ゼミ内)、講評 第15回 パワーポイントの追加、修正</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>興味のあるテーマについて、各自で文献検索、資料収集につとめ、学習を深めること。 テーマ関連の建築や展覧会等の見学を積極的に行うのが望ましい。</p>						
授業方法	演習および実習(CADも使用)						
評価基準と評価方法	<p>平常の小課題と最終課題作品の成績に出席状況・受講態度等の平常点を加味し、総合的に評価する。 (評価比率：第1課題20%、第2課題30%、第3課題20%、平常点30%)</p>						
教科書	プリントを配布する。						

参考書	授業中に紹介する。
-----	-----------

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デザインの仕事						
担当教員	中林 浩・井上 裕之						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッションとハウジング両領域におけるキャリア形成への動機付け						
授業の概要	近年キャリア教育の必要性が高まり、本学でも授業科目のなかにキャリア・ビジネス系列として、組み込まれている。ただ、これらは全学的な共通科目であり、専門教育分野での基礎的キャリア科目はなかったため、今回新たに開設するものである。授業内容は、企業の第一線で働く先輩たちの専門的な仕事の実態を、ゲストスピーカーとしてオムニバス形式で話をしてもらう（ファッションとハウジングの両領域7コマずつ）						
到達目標	社会の第一線で積極的に働く多様なジャンルの企業人による最先端の授業を受けることで、現場・現実について幅広い知識を習得し、卒業後のキャリアを決めるきっかけ、あるいはヒントを掴むことができる。						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス（井上裕之・FHD教員）</p> <p>第2回 ファッションデザインの世界（矢野海児・オフィス矢野・元大丸本社GIVENCHY部門部長）</p> <p>第3回 ファッションデザイナーの仕事（森朱希子・フリーランス衣裳デザイナー）</p> <p>第4回 スポーツウェアの仕事（藤原一彦・（株）デサント企画開発部）</p> <p>第5回 ブランドプロデュース（増田幾子・（株）マジョリティアンドマイノリティ）</p> <p>第6回 インナーウェアの仕事（大塚結郁・（株）ワコール企画開発課）</p> <p>第7回 バイヤーの仕事（岩高要子・（有）マトッティ）</p> <p>第8回 マーチャンダイジングの仕事（岸本慈子・（株）ぜんまい）</p> <p>第9回 インテリアの仕事（新治照美・インテリアコーディネーター協会）</p> <p>第10回 インテリアコーディネーターの役割（新治照美・インテリアコーディネーター協会）</p> <p>第11回 工務店の仕事（橋本育子・株式会社橋本工務店）</p> <p>第12回 建築設計事務所の仕事（細田真規子・細田設計室）</p> <p>第13回 家具関係の仕事（能口仁宏・株式会社大彌リビング）</p> <p>第14回 照明の仕事（斉藤珠美・パナソニック照明事業部）</p> <p>第15回 クリエイティブディレクターの仕事（コイケアカリ・篠原伯母野山デザイン）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回異なった分野の先生方の講義であるが、どのような仕事の話なのか、ウェブなどで前もって自分で下準備しておく、より理解が早くかつ一層身につく						
授業方法	・講義						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回のレポート（授業終了時に回収）（70%）と平常点（30%） ・ファッション領域は専任の井上、ハウジング領域と全体総括は同じく専任の増永が担当する 						
教科書	プリント配布						
参考書	授業で紹介する						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デジタルデザイン実習						
担当教員	坂田 岳彦						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4~5	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	美しいウェブデザインを制作する						
授業の概要	ウェブデザイン制作ソフト「Adobe Dreamweaver」を使用して、ウェブデザインの基本を習得します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ Dreamweaverの基本操作の習得 ・ Adobe Illustratorを使ったデザイン制作とウェブページのための適切な画像変換 ・ Adobe Photoshopを使った画像処理とウェブページのための適切な画像変換 ・ 情報の整理とわかりやすい情報伝達の考察 ・ ウェブページの効率的な編集方法 ・ ユーザビリティとアクセシビリティに配慮したレイアウトデザイン 						
到達目標	HTMLとCSSを理解し、美しく、また分かりやすいウェブデザインを制作することができます。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 HTMLの基本、文字入力と文字設定、リンク設定 第3回 GIFファイルとJPEGファイルの作成、リンクボタンの作成 第4回 ページのレイアウト、別ウィンドウの作成 第5回 ロールオーバーイメージの作成、サイトの再構築 第6回 課題1：デザイン計画と文字入力 第7回 課題1：色彩計画と画像処理 第8回 課題1：レイアウト処理、講評 第9回 HTMLとCSSの作成 第10回 ページの編集 第11回 課題2：デザイン計画と文字入力 第12回 課題2：色彩計画と画像処理 第13回 課題2：レイアウト処理 第14回 課題2：ページの編集 第15回 講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	普段から目に留まるウェブサイトを注意深く観察し、どのような表現上の工夫が見られるかを読み取るように努力してください。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点50% 提出物50%						
教科書							
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	デジタルデザイン論						
担当教員	坂田 岳彦						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	デジタル技術とウェブデザインについて						
授業の概要	<p>前半：デジタル技術の発達により私たちの生活がどのように変革したのか、身の回りの生活用品からネットワーク環境、ロボット技術まで幅広く取り上げ、その功罪を含めて考察します。また、著作権の問題についても深く考察します。</p> <p>後半：インターネットの仕組みを知り、ウェブデザインがどのような仕組みで作られているのかを学びます。美しく読みやすいページレイアウト、ユーザビリティ、アクセシビリティについて考察し、また、これからのウェブマーケティングの方策について考えます。</p>						
到達目標	デジタル技術およびウェブデザインの仕組みと、それらが私たちの生活にもたらす影響について説明することができるようになります。						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス～デザインの定義と領域</p> <p>第2回 アナログ技術とデジタル技術の違いについて学ぶ</p> <p>第3回 アナログからデジタルへ～メディア技術の歴史について学ぶ</p> <p>第4回 身の回りのデジタル技術とその功罪について考察する</p> <p>第5回 デジタル技術と著作権の問題について考察する</p> <p>第6回 コンピュータの仕組みを学び、これからのデジタル社会を考察する</p> <p>第7回 前半のまとめと試験</p> <p>第8回 ウェブサイトについての基本知識を学ぶ</p> <p>第9回 ウェブデザインについて学ぶ (1) 文字のデザイン</p> <p>第10回 ウェブデザインについて学ぶ (2) 画像と著作物利用について</p> <p>第11回 ウェブデザインについて学ぶ (3) 色の持つ意味</p> <p>第12回 ウェブデザインについて学ぶ (4) 美しいページレイアウト</p> <p>第13回 ウェブデザインについて学ぶ (5) ユーザビリティとアクセシビリティについて考察する</p> <p>第14回 これからのウェブマーケティングについて考察する</p> <p>第15回 後半のまとめと試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	普段から目に留まるウェブサイトを注意深く観察し、どのような表現上の工夫が見られるかを読み取るように努力してください。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点50% 試験50%						
教科書							
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングインターンシップ						
担当教員	単位認定者：中林 浩						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	インターンシップにより建築設計実務の実態を知る。						
授業の概要	兵庫県建築設計監理協会などが実施する夏期インターンシップ（ワークスタディ）に参加して、10日間程度建築設計事務所にて実務研修を受ける実習科目である。そのことにより、社会現場から実践的かつ実務的仕事実態と設計スキルを学び、かつ、事務所所属などと人的交流することで、自分のキャリアイメージ形成にも役立たせる。						
到達目標	建築設計の実務実態を大まかに把握し、その内容を自分なりに自分の言葉で語れるようにする。						
授業計画	<p>設計事務所での10日間実習内容（モデル）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所長による設計事務所の業務内容の説明、10日間のガイダンス ・着工前現場説明と現地見学・・・着工前のマンション（A） ・工事中現場説明と現地見学・・・工事中の戸建住宅（B） ・（A）についての設計図面類の解説 ・（A）戸建住宅注文主との打ち合わせ同席 ・（B）についての設計図面類の解説 ・（B）戸建住宅注文主との打ち合わせ同席 ・（A）についての模型制作 ・（B）についての仕上げ部材色彩計画 <p>前後の説明会・報告会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学内での担当教員からのインターンシップ内容説明と実習後の報告会の2回の事前と事後の授業には必ず参加すること ・10日間の実習まとめと事務所所内会議での成果発表 						
授業外における学習（準備学習の内容）	インターンシップ先の企業について、事前によく調べておくこと。						
授業方法	上のとおり。						
評価基準と評価方法	<p>成績評価の基準：研修日報とレポート提出（10月上旬）</p> <p>成績評価者：FHDのハウジング領域担当教員</p>						
教科書							
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングデザイン実習IA						
担当教員	榊原 節子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	ハウジング設計の基礎知識の習得						
授業の概要	低層住宅の単体について、2~3の課題を設定し、企画から基本設計および一部の詳細設計までを行う。一年次に学習した住居の基礎知識あるいは2年前期での「ハウジングデザインIB」で習得するスキルを使いながら、立地・環境あるいは場所性を読み取り、自らイメージした低層住宅についてスケッチしたうえで、CADにより平面、断面、立面の一般図とパースを作成し模型などを作る。各々の課題について、クラス全員の参加で講評会を行い、自らを考えたことを他人に伝えるプレゼンテーション能力も涵養する。						
到達目標	住宅設計のコンセプトづくりから、図面作成・模型製作・写真撮影・プレゼンテーションと建築設計の一連の行程を実践することにより、建築設計の方法論を習得できます。						
授業計画	第1回 : 設計製図の基礎 第2回 : 実習課題1 「小住宅(平屋)のトレース」の課題発表 第3回 : 実習課題1 平面図のトレース 第4回 : 実習課題1 断面図のトレース 第5回 : 実習課題1 立面図のトレース、及び提出 第6回 : 実習課題2 「小住宅(2階建)の模型制作」の課題発表 第7回 : 実習課題2 模型制作 その1 (模型の作り方) 第8回 : 実習課題2 模型制作 その2 (小住宅の模型づくり) 第9回 : 実習課題2 模型完成、及び提出 第10回 : 実習課題3 「六甲の小住宅(2階建)の設計」の課題発表 第11回 : 実習課題3 エスキス 第12回 : 実習課題3 CAD図面制作 第13回 : 実習課題3 模型制作 第14回 : 実習課題3 模型、及びプレゼンテーション図面完成 第15回 : 実習課題3 プレゼンテーション、及び講評会						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業内容が高度なため、なるべく授業時間内に課題を完了させるための十分な準備が必要。 授業前学習: 授業計画に従い、授業までに教科書の該当箇所を読んでください。 授業後学習: 学んだことを整理し、ノートにまとめておきましょう。次々に新しい知識を習得しなければならないため、1回1回十分に知識を習得しましょう。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点15%、第1課題の成績10%、第2課題の成績15%、第3課題の成績20%、最終課題の成績40%とする。						
教科書							
参考書	新しい建築の製図(出版: 株式会社 学芸出版社)						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングデザイン実習IB						
担当教員	長瀬 りか						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	2次元CADの習得と住宅設計の考え方・表現法の習得						
授業の概要	ハウジングデザインの主要な表現方法である建築CADの基本を学ぶ。CADソフトには、VectorWorksを用いて、住宅の平面図や家具図等の2次元的作図を行うための図面表現と操作方法を修得する。図形描画と画像取り込みによるデザイン構成の課題や主要な建築家やデザイナーの作品を題材にしたトレース課題に取り組み、デザインについての理解を深めながら、各自のデザインに応用し、住宅の設計図を描いていく方法を身につける。(主に建築物を対象。) キーワード：住宅設計、2次元CAD						
到達目標	住宅・家具図面のトレース、基本的な住宅設計課題を通じて、2次元CADによる製図・表現の基礎技術を習得するとともに、住宅建築の設計の進め方、考え方についての基礎を学ぶ。						
授業計画	第1回 : ガイダンスと基本操作演習A 第2回 : 基本操作演習Bと第1課題「木造住宅“箱の家” (設計：難波和彦)のトレース」課題発表・手順1~3 第3回 : 基本操作演習Cと第1課題 手順4~5 第4回 : 基本操作演習Dと第1課題 完成まで 第5回 : 第2課題「家具“ソラリス”(設計：倉俣史朗)のトレース」 第6回 : 第3課題「RC住宅“Y-House”(設計：妹島和世)のトレース」手順1~7 第7回 : 第3課題 手順8~完成まで 第8回 : 第3課題「RC住宅“Y-House”(設計：妹島和世)のトレース」立面図 第9回 : 第4課題 (合同課題)「六甲の小住宅(2階建)の設計」の課題発表と敷地分析 第10回 : 第4課題 エスキス 第11回 : 第4課題 エスキス、CAD図面制作 第12回 : 第4課題 CAD図面制作 第13回 : 第4課題 模型制作 第14回 : 第4課題 模型、及びプレゼンテーション図面完成 第15回 : 第4課題 プレゼンテーション及び講評会						
授業外における学習(準備学習の内容)	各課題は各回の授業計画に沿って解説を行い、課題制作を進めるため、授業時間内にその日に到達すべき点に達することができなかった場合は、次回までに教室の空き時間を利用し作業を進めておく必要がある。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	平常点15%、第1課題の成績15%、第2課題の成績10%、第3課題の成績20%、最終課題の成績40%とする。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	書名：第2版 コンパクト建築設計資料集成 住居 著者：日本建築学会 出版：丸善 ISBN：4621035894						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングデザイン実習IIA						
担当教員	米原 慶子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1~2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	インテリア計画とその表現—併用住宅のデザイン						
授業の概要	<p>ハウジングデザイン実習IA・IBに引き続き、IIA・IIBでは、より規模が大きく複合的な機能を持つ住空間として、「併用住宅」の設計課題に取り組む。</p> <p>IIAでは特に、インテリアデザインの計画手法を参考事例などから学び、CADの3D機能を用いた図面表現を学び、練習課題と「併用住宅」課題に取り組む。各自が設定したライフスタイルに応じた、機能的で美しいレイアウト、家具や造作、仕上げ材も含めた詳細なデザインを考え、平面図、展開図、3Dパース等で表現する。</p> <p>キーワード：インテリアデザイン、コーディネート、3D-CAD</p>						
到達目標	<p>インテリアデザインの基本となる考え方を身につけ、目的に応じた適切なエレメントや仕上げ材を選択し、併用住宅の空間がデザインできるようになる。</p> <p>CADの3D機能を用い、インテリアデザインの図面表現ができるようになる。</p>						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、インテリアデザインの考え方と表現（全般の解説） 課題説明、参考事例の紹介。練習課題。</p> <p>第2回 旧山邑邸と敷地の見学（曜日時限は振替の予定）。</p> <p>第3回 練習課題 CAD/3D基本操作解説、3Dスケルトンモデルの作成。 家具シンボル、壁など3Dインテリアエレメントを配置。</p> <p>第4回 練習課題 簡易な3Dシンボルの作成、3Dモデルの着色（カラーコーディネート）、 3Dパースの作成。</p> <p>第5回 練習課題 3Dモデルから平面図、展開図の作成。レイアウト、まとめ。</p> <p>第6回 「併用住宅」課題 インテリアデザインの検討、配置計画</p> <p>第7回 計画図のCAD入力、調整</p> <p>第8回 3Dモデルの作成（ボリュームスタディ）</p> <p>第9回 3Dモデルの修正、つくりこみ（開口部、間仕切り壁など）</p> <p>第10回 3Dパースの作成</p> <p>第11回 3Dパース作成（テクスチャ、ライティングなど細部の表現）</p> <p>第12回 3Dパースの仕上げ、数面の取り出し</p> <p>第13回 プレゼンテーションボード（平面図、展開図、パース、画像、説明文等）の レイアウト、まとめ</p> <p>第14回 最終チェック。手直し・追加事項の指示⇒図面追加、修正、提出。</p> <p>第15回 他クラスと合同の発表講習会</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>専門誌やインターネットの検索等、資料収集を各自行なうこと。</p> <p>家具、建材のショールームなど、課題に関連する見学を各自積極的に行なうこと。</p>						
授業方法	実習（CAD使用）＋ミニ講義						
評価基準と評価方法	平常点30%、第1課題の成績20%、第2課題の成績50%とする。						

教科書	図解 インテリア設計の実際 第1版 著者：小宮 容一 出版社：株式会社オーム社 ISBN：4-274-10095-2 その他、プリントを配布。
参考書	インテリアデザイン・コース—インテリアデザインの基本から実践まで 著者：トムリス タンガズ 出版社：グラフィック社 ISBN-10：4766117557 コンパクト建築設計資料集成「住居」 (日本建築学会編、丸善第2版) その他、授業中に紹介する。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングデザイン実習IIB						
担当教員	荒谷 省午						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	住まいのプレゼンテーションとそのプレゼンテーションを学ぶ						
授業の概要	併用住宅を課題とする(300㎡程度のボリュームとする) 具体的な計画地を見学し、場所を設定したのちにコンセプト計画・プランニングを行い図面表現(平面・立面・断面)またはパースや模型などを作成してA1サイズ2枚程度にまとめて完成させる。						
到達目標	コンセプト計画やプランニングの力をつける。 パース・模型作成などのプレゼンテーション能力や相手にわかりやすく伝えるプレゼンテーション能力を身につける。						
授業計画	第01回 オリエンテーション (課題説明とすすめ方) 第02回 現場見学会 (敷地の見方、読み方、計画地の選定) 第03回 プランニング (エスキースチェック) 第04回 プランニング 第05回 プランニング 第06回 プランニング 第07回 課題作成 (図面作成・模型作成) 第08回 課題作成 第09回 課題作成 第10回 課題作成 第11回 課題作成 第12回 プレゼンテーション (最終チェック・パネル作成) 第13回 プレゼンテーション 第14回 プレゼンテーション 第15回 発表 (提出)						
授業外における学習(準備学習の内容)	課題作成の為に各自で調査や資料収集を行う。 またショールームや参考建築物の見学を行う。						
授業方法	PPT(パワーポイント)でプロジェクターを使用した講義および実習						
評価基準と評価方法	出席回数と作品の完成度との総合評価とする。 作品提出期限も厳守すること(減点対象) 総合点が59点以下の場合には単位を取得できない。						
教科書	授業中に資料配布						
参考書	授業中に紹介						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングデザイン実習ⅢⅠA						
担当教員	井上 晋一						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1~2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	「拡大家族の家」-地域社会の中で暮らす-（小規模集住体の設計）						
授業の概要	人はいずれも複数の集団（コミュニティ）に属している。血縁（家族や親戚）・地縁（集落や町内会）・大学・サークル・会社・etc等、規模の大小にかかわらず他者との関わり合いの中で生活している。この授業では、地域社会の中で新たなる「家族関係」を設定し、円滑なコミュニティを形成する生活の場を設計する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺環境を積極的に取り込むことができる ・魅力的なアクティビティを創出することができる ・自分の考えを建築化、及び図面化することができる ・他人に伝わるプレゼンテーションを行うことができる 						
授業計画	第1回：課題説明、レクチャー 第2回：六甲八幡神社、及びその周辺の調査発表 第3回：コンセプトチェック（1）住宅の考え方 第4回：コンセプトチェック（2）全体計画 第5回：エスキスチェック（1）平面構成 第6回：エスキスチェック（2）断面構成 第7回：図面作成（1）平面図1 第8回：図面作成（2）平面図2 第9回：図面作成（3）断面図 第10回：図面作成（4）立面図 第11回：模型作成（1）模型用図面 第12回：模型作成（2）模型材料 第13回：模型作成（3）組み立て 第14回：プレゼン用図面レイアウト 第15回：合評会						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間内だけで考えるのではなく、授業外でコンセプトやエスキスを練り上げ、授業中に先生のチェックを受けるよう心がける。 図面や模型は授業外の時間がある時に積極的に進めること。						
授業方法	実習形式						
評価基準と評価方法	平常点（質疑応答・ディスカッション）30% コンセプト・エスキスチェック20% 課題作成能力（図面及び模型）30% プレゼン能力20%						
教科書	特になし。 必要に応じて授業中に紹介する。						
参考書	特になし。 各自雑誌やインターネット・街中を積極的に調べ活用する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングデザイン実習ⅢⅠA						
担当教員	川瀬 琢己						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4~5	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	既存市街地のなかで、共に住み続けていくために、集合住宅という形で地域と如何に繋がっていくかを、具体的な場所の中で考える。						
授業の概要	中低層の共同住宅を、敷地を設定して、企画から基本設計を行う。立地、環境、地域の特性を読み解く力を高める。地域に対して、場所の持つ特性を把握し、適切で、積極的に働きかける建築的仕掛けを企画していく。イメージする集合住宅をスケッチした上で、CADにより平面、断面、立面の一般図を作成し、パース、模型も含めて、プレゼン用のパネルを作成する。各々の課題について、クラス全員の参加で講評会を行い、自分の考えたことを他の人に伝えるプレゼンテーション能力を高めていく。						
到達目標	グループで全体のテーマを議論・調整するグループワークの中で、自己の提案を認識し自分の設計デザインの向上に役立てることができる。地域・場所の特性を読み解き、自分で立てたコンセプトを育て、図面等の建築表現をつかいプレゼンテーションすることができる。						
授業計画	第1回：ガイダンス、課題趣旨説明と進め方 第2回：課題の仮想敷地状況調査による敷地特性の把握 第3回：全体計画のイメージとコンセプトづくり 第4回：周辺環境への調和を考慮し、課題のプランニング 第5回：課題のプランニング。第1次案作成の上、提出（中間発表） 第6回：第1次案返却して案を練り上げていく。 第7回：基本設計（作図、スケッチの作成） 第8回：基本設計（作図、スケッチ、パース等の作成） 第9回：基本設計図の作成、提出 第10回：基本設計案の最終チェック 第11回：模型作成、ヴォリュームの検討、提出図のレイアウトスケッチを作成 第12回：模型作成、CG作成 第13回：模型作成とプレゼン用レイアウト案を作成し提出 第14回：プレゼン案をチェックし、修正してプレゼンテーションの準備。 第15回：全員による講評会						
授業外における学習（準備学習の内容）	コンセプト作りや図面、模型の作製を授業時間外でも進めて欲しい。						
授業方法	前半は学生同士の議論・考察に重点を置き、後半は個人の設計演習を中心に進める。						
評価基準と評価方法	出席状況と授業態度(意欲)：30%、欠席は減点対象 調査分析力、コンセプト、構想力、アイデア：25% 提出物、レポート、設計能力、表現力：30% プレゼン能力その他：15%						
教科書	特になし 必要と思われる場合は参考程度で紹介する。						
参考書	特になし 必要と思われる場合は参考程度で紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングデザイン実習III B						
担当教員	植田 道則						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4~5	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	住まい。ライフスタイルの一部としての商業デザインとともに						
授業の概要	<p>デザインの感性を豊かにする題材として、商業施設を取り上げます。</p> <p>①日常生活の中から、好きなショップを数例レポートしその店が街を魅力的にしている部分について考えます。商業デザインの基礎を学びます。</p> <p>②①で学んだことを展開し、課題敷地の中で店舗付き住宅のデザインを行います。</p>						
到達目標	<p>第一目標：コンセプト立案（自分でデザインする楽しさを実感できる。）</p> <p>第二目標：デザインの展開（デザインの基礎知識を習得することができる。）</p> <p>第三目標：プレゼンテーション（相手にイメージが伝わる手ごたえを実感できる。）</p>						
授業計画	<p>第1回 【課題発表とオリエンテーション】</p> <p>◆課題発表・課題敷地見学 六甲八幡神社付近で、具体的な敷地を設定し、店舗付き住宅（約100~150㎡）の設計を行う。住宅をメインに、サブとしての店舗は雑貨屋、服屋、カフェ、レストランを想定しています。</p> <p>◆ライフスタイルを豊かにする商業建築紹介 海外の先端商業施設事例を音と映像により紹介</p> <p>第2回 【「ボリューム把握」】（この回の敷地見学は中止） 課題敷地を見てその特性について考え、コンセプトを醸成します。</p> <p>第3回 【部分と全体】ユニットプランと配置計画</p> <p>第4回 【平面エスキース1】平面プランの骨格を考えます。</p> <p>第5回 【平面エスキース2】平面プランの骨格を考えます。</p> <p>第6回前半のまとめ</p> <p>第7回 【中間チェック】平面プランを中心に、作品作りの中間レビューを行います。</p> <p>第8回 【断面計画1】断面計画をステップを踏みながら書いていきます。</p> <p>第9回 【断面計画2】断面計画の骨格を考えます。</p> <p>第10回 【断面計画3】平面・断面計画から空間や立体の構成を考えます。</p> <p>第11回 【学外研修（フィールドワーク2）：重森三玲美術館「住居と庭の関係」】 住居と庭の関係について、実作を見て考える。</p> <p>第12回 【模型作製1】これまでの平面断面から模型をつくっていきます。</p> <p>第13回 【模型作製2】これまでの平面断面から模型をつくっていきます。</p> <p>第14回 【模型作製2】模型に対して、色や光の演出を行います。</p> <p>第15回 【まとめ】プレゼンテーション講評会</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	イメージを伝えるのは図面だけではありません。言葉、模型、スケッチ、イメージ写真等、自分にあった表現方法を、授業以外でも模索し、この機会を通して身につけるようにしてください。						
授業方法	<p>第1回：データスライド等を用いた講義</p> <p>第1回、第11回：フィールドワーク</p> <p>第3回：グループ学習他</p> <p>第4-14回：実技演習、プレゼ資料作成（パワーポイント資料作成）</p> <p>第15回：全体デザインレビュー+プレゼ指導</p>						
評価基準と評価方法	授業の出席率75%（レポート有）、成果物評価15%、最終発表10%として、一旦評価をし授業の取り組みを加えて、総合評価する。						
教科書	特になし						
参考書	特になし（授業の中でプリントを配ります。）						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングデザイン実習ⅡIB						
担当教員	村上 隆行						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4～5	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	「集まって住む」～小規模集合住宅のデザイン 家族構成・社会生活の多様化を背景とし「住まい」のあり方が大きく変化している今日において、「集まって住む」ことの課題や意義を学び、そこにどのような空間が必要であるのかを考察し、提案する。						
授業の概要	一つの住戸に一つの家族が住むだけではない、多様な「集まって住む」かたちを学ぶ。 身近に実在する敷地に、どのような人がどのように「集まって住む」か、を自ら設定し、そのための建築をデザインする。自分の考えたことを適切に人に伝えられるよう、図面と模型やCGなどによって、プレゼンテーションする。 キーワード：家族、建築、地域、空間、デザイン、図面、模型、CG、プレゼンテーション						
到達目標	人や社会との関わりを熟考した空間の提案が出来る。 計画を図面やCGで的確に表現できる。 模型を早く美しく製作できる。						
授業計画	第1回 授業の説明、課題の説明 事例説明 第2回 敷地調査（六甲八幡神社周辺） 第3回 コンセプトレポート作成、発表、講評 ～どのような人がどのように「集まって住む」か～ 第4回 エスキスチェック（1） ※規模・配置 第5回 エスキスチェック（2） ※住棟のデザイン 第6回 エスキスチェック（3） ※住戸プラン 第7回 中間発表会（エスキス発表、講評） 第8回 最終エスキスチェック、製図レイアウト検討 第9回 製図（1） ※配置図が仕上がる事 第10回 製図（2） ※平面図が仕上がる事 第11回 製図（3） ※立面図・断面図が仕上がる事 第12回 模型制作（1） パーツの製図、切り出し 第13回 模型制作（2） 組み立て、仕上げ 第14回 プレゼンテーション仕上げ 第15回 作品発表会						
授業外における学習（準備学習の内容）	インターネットや専門誌などから、できるだけ多くの事例に触れること。 授業の時間内だけで考えるのではなく、授業外でもコンセプトやエスキスを練り、授業中に先生のチェックを受けられるように準備しておく。 図面・模型制作も授業外に積極的に取り組み、完成度を高めるよう努めること。						
授業方法	実習形式						
評価基準と評価方法	平常点30%、中間発表時エスキスの評価20%、提出作品の評価50%とする。						
教科書	特になし						
参考書	現代集合住宅のり・デザイン 事例で読む“ひと・時間・空間”の計画 / 日本建築学会編/彰国社/ 978-4-395-00809-4 眼を養い手を練れ(2) 集まって住もう / 居住空間デザイン講師室編著/彰国社/ 978-4-395-00891-9 建築設計テキスト集合住宅/建築設計テキスト編集委員会編/彰国社/978-4-395-21132-6						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングデザイン論I						
担当教員	蔵田 優美						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	建築の基本である住宅は、その発展史的にみればそれぞれの時代と深く結びつきながら変化してきました。また、生活の文化的な側面からみれば、単に雨露をしのぐ、ある意味では生命を維持するというレベルから、個人の生活スタイルや住み手の個性の表出といった文化性をレベルにまで広がりをもっているといえます。このような住宅の中で「集合住宅」は、人が集まって住む住宅として都市の中で大きな部分を占めています。本授業では、このような多彩な価値を持つ集合住宅の現代的な意味を解きほぐすことをテーマとして、学生の皆さんの集合住宅理解の導入部として位置づけ、解説します。						
授業の概要	授業は可能な限りパワーポイントを使用して進めます。住宅は学生の皆さんにとって一番身近な建築空間であり、最もイメージしやすい建築です。さまざまなライフステージ（人生の段階）に応じて住みたい、憧れる集合住宅を考えるため、演習などにより自ら集合住宅のデザインを行います。						
到達目標	集合住宅に関する学習の導入部として、集合住宅がどのような要素（価値）で成り立っているのかを理解し、自ら住んでみたい住宅をイメージすることをめざし、授業終了時に「学生それぞれが集合住宅について理解し、集合住宅の役割や集合住宅の機能について説明することができる」ことが到達目標です。						
授業計画	<p>第1回：ガイダンス （講義内容と授業の進め方）</p> <p>第2回：まちづくりと建築 （まちづくりにおける建築の果たす役割や建築家・コンサルタントの役割について考えます。また、住宅をはじめとして建築デザインやまちづくりに市民が参加する手法について事例を紹介します。）</p> <p>第3回：集合住宅を巡る定義について （集合住宅の分類や、集合住宅が生まれた歴史的背景、海外と日本における集合住宅の意味など、集合住宅の定義について解説します。住宅のプラン（平面）がどんな要素で成り立ち、住宅のデザインとどんな関わりをもっているか考えます。）</p> <p>第4回：集合住宅のプロトタイプ1 （集合住宅を構成する要素を具体的に解説します。テーマは「住棟・住戸の型」）</p> <p>第5回：集合住宅のプロトタイプ2 （テーマは「集合住宅のディテール」）</p> <p>第6回：集合住宅の事例1 （集合住宅の要素をもちあわせたプリミティブな集合住宅例を紹介します。）</p> <p>第7回：集合住宅の事例2 （講師が実際に設計した集合受託をとりあげ、そのコンセプトや設計内容を解説します。）</p> <p>第8回：演習1 （トピックなテーマをとりあげ、レポートを作成します。）</p> <p>第9回：多様な住宅と住宅の価値意識 （戸建住宅と集合住宅の価値の違いとライフステージにおける住宅の選択について考えます。）</p> <p>第10回：少子化と高齢化 （住まいを規定する少子化と高齢化について考えます。）</p> <p>第11回：集まって住むことと防災 （地震などの大災害時に発生する火災から住宅を守るためには町全体としての防火・防災の考えかたが必要。この講義では集まって住むことと防災について考えます。）</p> <p>第12回：集合住宅の事例3 （有名建築家の集合住宅を紹介します。）</p> <p>第13回：海外の集合住宅 （海外の特徴的な集合住宅を紹介します。また、集合住宅設計の演習課題について説明します。）</p> <p>第14回：演習2 （集合住宅設計の課題に即して、各自が住んでみたいあるいは理想と考える集合住宅のプラン（平面）を教室で検討します。「エスキース」）</p> <p>第15回：演習課題発表会 （各自の設計した集合住宅のプラン（平面）と設計の考え方を発表します。）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	実際に集合住宅のプラン（平面）を作成する演習を行いますので、集合住宅のプランについて図書館などの資料や建築の雑誌などを研究してイメージを膨らませてください。						
授業方法	講義を中心に、演習を行います。各回の講義は関連しているので、各授業終了前に授業の論点を整理して提出してもらいます。						
評価基準と評価方法	平常点（出席点）50%、レポート及び演習作品提出50%						

教科書	特にありませんが、各授業で講義資料を配付します。
参考書	特にありません。

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ハウジングデザイン論II						
担当教員	中林 浩						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	<p>演習的な内容を含む講義とします。いくつかの空間表現の小課題と、20枚ほどの写真の分析をパワーポイントでしあげる大課題をします。</p> <p>住宅・建築単体よりも広い範囲の空間のデザイン論です。日本や世界にはどんな町、居住地があるのかからあらためて考え、都市デザインの理論を学びます。といってもなかなか都市デザインの理論というのは定番がないのです。そこでK.リンチとC.アレグザンダーのデザイン論を詳しく学びます。リンチはわかりやすいということを都市のあり方の原則にしました。そして大課題と関連するのが、アレグザンダーの『パターン・ランゲージ』ですね。よい空間の言語化を試み253のキーワードを辞典のようにした本です。わたしが好きなのは「7000人のコミュニティ」「4階建の制限」「どこにも老人」「人前の居眠り」「9パーセントの駐車場」「仕事コミュニティ」「店先学校」「市場のような大学」「つる植物」などです。このキーワードをもとに20まいほどの写真に解説を加える課題です。オリジナルなキーワードも創出してほしい。またNHKの「フォト575」という番組のような俳句をつける写真も試みてほしい。</p> <p>場合によっては学外に出ることがあります。</p>						
授業の概要	「授業のテーマ」で述べました。						
到達目標	「授業のテーマ」で述べたことが、いつか30歳になったときでも、50歳になったときでも深くわかっていただけたらと願いますという教員に応えることができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 近年のアーバンデザイン論 2 リンチのアーバンデザイン論 3 都市のわかりやすさ 4 小課題1の案 5 小課題1の完成 6 アレグザンダーのアーバンデザイン論 7 「7000人のコミュニティ」 8 「人前の居眠り」——電車のなかの居眠りの写真を撮ってもダメです 9 「どこにも老人」 10 「四階建ての制限」——アレグザンダーの名言、高い建物が建つと地域が発展していると思っているひとがいる、バカだね 11 小課題2の案 12 小課題2の完成 13 欧米のアーバンデザイン最前線 14 小課題3の案 15 小課題3の完成 <p>景観を表現する俳句なども勉強します。俳句つき写真、フォト575というかはやっています。また、言葉遊びも重要です。こういうのをしていますか。「素晴らしいシラバス」（すばらしいしらばす）（回文、上から読んでも下から読んでも……）。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	森羅万象に興味をもってください。日常生活において、こころを虚しくしてものを眺めたり、ときには注視したりする習慣を身につけてください。マーフィーの法則「しっかり教材研究した授業は思いどおりに進まない」。						
授業方法	「授業のテーマ」で述べたとおりの講義です。						
評価基準と評価方法	おおむね9割を提出物で採点する。授業への参加の積極性を加味することもある。積極性の加点0点なら提出物100点満点で、積極性の加点5点なら提出物95点満点で、積極性の加点10点なら提出物90点満点で、積極性の加点15点なら提出物85点満点で、積極性の加点20点なら提出物80点満点で採点するということです						
教科書							
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	阪神デザイン論						
担当教員	徳山 孝子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	郊外住宅地の形成、阪神間の建築、ライフスタイル、美術、文学、娯楽などあらゆる角度から「阪神間モダニズム」をとらえる。						
授業の概要	江戸時代に商都として栄えた大阪、明治以降に西洋文化の玄関口となった神戸に挟まれた阪神間は歴史的にも特有の文化が形成された地域であり、「具体」に見られるように近代美術の歴史にも深い影響を与えている。こうした阪神地域から輩出したファッション、ハウジング領域を中心とするデザイナー達の活躍を紹介し、地域に固有な文化的・経済的背景を基礎とするデザインの特質を理解することで、地域に根差した生活文化・ライフスタイルを形成するデザインの可能性を探る。						
到達目標	1) 大阪から神戸の特徴を地図に描くことができる。 2) 阪神間の衣、食、住、芸術の一つを取り上げ、述べることができる。 3) 神戸のファッション文化を説明することができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明） 2. 阪神間とは 3. 阪神間を築いた交通と郊外住宅地 4. 阪神および神戸のライフスタイル 5. 阪神間に生きた建築家とその作品 6. 阪神間の食文化 7. 雑誌「ファッション」から阪神間ファッションの紹介 8. 阪神間のファッションデザイナーやグラフィックデザイナーたち 9. 阪神間の芸術家たち（美術家、音楽家、写真家） 10. 神戸の環境とは 11. ホテル文化のさきがけ 12. 神戸の飲料水 13. 神戸のファッション 14. 神戸と化粧 15. 宝塚歌劇と神戸・阪神間の関係性について 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習は、授業内で説明する。 授業後学習は、学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。						
授業方法	プリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める。						
評価基準と評価方法	レポート100%						
教科書	教科書としては、特に用いないが、プリントを配布する。						
参考書	毎日新聞社編『阪神観』（東方出版）						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ビジネスリサーチ演習						
担当教員	戸田 賀志子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	消費者心理を数字で分析する						
授業の概要	消費者調査の方法を理解し、消費者調査法の知識と技術を習得する。具体的な課題に対して、アンケート形式を中心とした消費者調査の演習をグループ単位で実施する。任意に設定したテーマを基に、企画、実施、集計、分析というプロセスを経て、成果をまとめる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者調査を正しく行う方法を習得することができる。 ・消費者の行動の実態や意識を把握できる知識を身につけることができる。 ・調査データを正確に読み解くことのできる能力を培うことができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 消費者調査の必要性と目的 3. 調査の種類と方法 4. 調査用紙の作成方法 5. 調査テーマの検討 6. 調査計画の作成 7. 調査票（アンケート）の作成 1 対象者の選定 8. 調査票（アンケート）の作成 2 質問項目の設定 9. アンケート集計 単純集計 10. アンケート集計 クロス集計 11. アンケート集計 複数回答 12. アンケート集計 順位法 13. 調査結果の分析 14. 報告書の作成 15. まとめと発表 						
授業外における学習（準備学習の内容）	次回の授業内容に関連する資料や書籍を各自の視点で抽出し、予習する。						
授業方法	演習。消費者調査に関する例題をソフトを活用して行う。						
評価基準と評価方法	発表40%、レポート40%、授業への参加度（積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるか）20%						
教科書	（社）日本衣料管理協会／新版消費者調査法／（社）日本衣料管理協会						
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションCAD実習I						
担当教員	足立 ともみ						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	アパレルCADの活用「企画・設計」						
授業の概要	ファッション業界の中でも、流行の変化が著しく多様なデザインが要求されるアパレル業界では生産の効率化を図るためアパレルCADシステムが広く利用されています。実習Iでは衣服の型紙を作成するパターンメイキングを実際にアパレルCADソフトを使用しながら、衣服生産のためのCAD技術の習得と活用の有効性を考えます。その他CG技術による生地柄の作成またパターン・ボディ・テキスタイルのデータから仮想衣服としてシルエットを生成し、画面上であらゆる方向からの着装状態、柄のマッチング、色、ゆとりの検証を行い、ファッションコーディネートバーチャルに体験します。						
到達目標	型紙制作から仮縫い（仮想縫製）までをパソコンで出来るようになり、アパレル生産に有効なCADの活用を理解する。作成したデータをバーチャルに検証して、理想の衣服設計を考えられるようにする。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 使用ソフトの紹介、服の色や形が人に与える印象 第2回 生地柄作成>ストライプ・水玉・変形・描画・色変え 第3回 マッピング 第4回 パターンメイキングツールの基本操作、ワンピース製図 後身頃 第5回 ワンピース製図 前身頃、仮想縫製 第6回 仮想縫製でのデザイン線の追加と平面製図への適用 第7回 仮想縫製での柄のマッチング、錯視による着装効果 第8回 パターンと体型・ゆとりを検証する仮想縫製、グレーディング 第9回 ブラウス製図実寸入力 第10回 ブラウス工業用パターン作成 第11回 マーキング 第12回 原型、ポケットの作成、実寸出力、自由作品レポートの説明 第13回 自由作品>CG Magicでの生地柄作成 第14回 自由作品>i-Designerでの着装シミュレーション、マッピング 第15回 レポート作成・提出、講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習:衣服の構成やシルエット、生地風の合いや柄合わせなど、衣服を更に広い視野で観察してください。 授業後学習:CAD操作で不明な所は質問し納得いくまで練習・復習をしましょう。						
授業方法	コンピューターを使用しての演習形式						
評価基準と評価方法	平常点(50点) 配点内訳:課題と授業への積極的参加度 自由作品・レポート(50点)						
教科書	プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションCAD実習II						
担当教員	足立 ともみ						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	アパレルCADの活用「設計～応用技術」						
授業の概要	実習Iで習得したパターンメイキング技術と簡単なバーチャルガーメント（仮想衣服）の技術を基に実習IIでは、難度なデザイン展開をCADの利用で迅速かつ確実にこなせる力を養います。						
到達目標	複雑な型紙を効率良く製図し、仮想衣服上で補正やデザイン変更を行える。 実際に製作する服のデータ化やコストを理解できるようになる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション ファッション産業でのCADの活用、Pattern Magicの操作復習 第2回 子供用タンクトップ製図 第3回 カットソー工業用パターン作成 プリント図案の配置 実寸印刷 第4回 スカートのパターン製作・デザイン展開 第5回 スカート仮想縫製 第6回 ブラウスのパターン製作 身頃 第7回 ブラウスのパターン製作 袖、衿 第8回 ブラウスの工業用パターン作成、マーキング 第9回 ワンピース実寸入力 第10回 ワンピース工業用パターン作成、マーキング 第11回 原型のデザイン展開 第12回 自由作品レポートの説明、作品選び 第13回 自由作品>Pattern Magicで型紙作成 第14回 自由作品>Pattern Magicで型紙作成、マーキング 第15回 レポート作成 提出、講評						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：日頃より身の回りの衣服構成や縫製部位を観察し型紙作成のための視野を広げてください。 授業後学習：CAD操作で不明な所は質問し、他授業やファッションショー等でCADを活用しましょう						
授業方法	コンピューターを使用しての演習形式						
評価基準と評価方法	平常点(50点) 配点内訳:課題と授業への積極的参加度 自由作品・レポート(50点)						
教科書	プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションCAD実習III / (検定3級対応)						
担当教員	足立 ともみ						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	金曜4~5	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	アパレルCAD検定 (操作基礎編)						
授業の概要	アパレル企業では新入社員教育に多くの時間を費やすことが難しくなっています。即戦力が求められる中で目に見える形として検定に合格できるCAD技術の習得を実習します。						
到達目標	アパレルCAD (東レCREA COMPO) のツールを理解しパターンを効率良く作成。CAD検定試験問題に柔軟、迅速に対応できるスキルを身に付ける。						
授業計画	第1回 オリエンテーション ファッション業界でのCADの活用 CAD検定の紹介 第2回 CADのツール、ショートカットキーの解説 第3回 スカート原型作成 第4回 スカートデザイン展開 第5回 スカート工業用パターン作成 第6回 筆記、実技試験問題の演習 (スカート) 第7回 ブラウスパターン作成 第8回 ブラウスデザイン展開 第9回 ブラウス工業用パターン作成 第10回 パンツパターン作成 第11回 パンツデザイン展開 第12回 パンツ工業用パターン作成 第13回 筆記、実技試験問題の演習 第14回 筆記、実技試験 第15回 試験の解説、講評						
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業前学習: CADのツールを理解しショートカットキーを覚える。 授業後学習: CAD操作で不明な所は質問し、パターン作成の時間短縮の工程を考えてください。						
授業方法	コンピューターを使用しての演習形式						
評価基準と評価方法	平常点 (50点) 配点内訳: 課題と授業への積極的参加度 試験 (50点)						
教科書	プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションCGスタイル画演習／ファッションプレゼンテーション演習I						
担当教員	戸田 賀志子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	必要に応じて授業中に紹介する。						
授業の概要	デザインは、自然や芸術（美術・文学・音楽・建築物など）といったインスピレーション・ソースがあれば展開することができます。この授業ではデザインアイデアの展開方法を学び、フォトフォリオの制作技法とファッションデザイン画を描く際のテクニックを習得します。デザインスキルの授業で学習した内容に基づいて、コンピューターのデザインソフトIllustratorやPhotoshopの使い方を学び、コンピューターグラフィックでファッションデザイン画を完成させます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・フォトフォリオを制作する能力を獲得する。 ・演習を通してIllustratorやPhotoshopの操作法を習得する。 ・コンピューターデザインソフトを用いてファッションデザイン画を描くことができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. フォトフォリオ制作とは 3. ファッションデザイン画 4. ハンガーイラスト 5. Illustrator CSの使い方とペンツールの基本操作 6. Illustrator CS 3パスや色の編集 7. Illustrator CS テキスタイル（柄）の作成と合成（クリッピングマスク方法） 8. Illustrator CS レイヤー 9. Illustrator CS 作品制作 1 10. Photoshop 基本操作説明 11. Photoshop テキスタイル（柄）の合成 12. Photoshop レイヤーマスク、画像モードを使った合成 13. Photoshop 素材感の描き方 14. Photoshop 作品製作 2 15. 作品発表、評価 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で行ったIllustrator CS とPhotoshopの操作方法を復習する。						
授業方法	パソコンを使用した演習。						
評価基準と評価方法	作品50%、授業への参加度（積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるか）30%、レポート20%						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションイメージ論						
担当教員	戸田 賀志子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッション通じてみるジェンダー						
授業の概要	ファッションはジェンダーとどのようにかかわってきたのか、についてメディア（新聞・雑誌、映画、テレビ、写真、インターネットなど）をはじめ視覚資料を多用して歴史的に跡づける。						
到達目標	ジェンダーの概要をファッションとのかかわりを通じて考えることができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ジェンダーとは 3. 『ボーイスカート』を読む 4. 発表 5. ファッションにあらわれたジェンダー 6. スカートの表象 7. ズボンと表象 8. ジェンダーと色 9. ジェンダーと規範 10. 発表 11. ファッションにみるジェンダー ココ・シャネル 12. ファッションにみるジェンダー ピエール・カルダン 13. ファッションにみるジェンダー イヴ・サンローラン 14. ジェンダーフリーファッション 15. まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・日常にある「…らしさ」をみつける。 ・メディア（雑誌、テレビ、映画、インターネット、SNS）などを通じ、ファッションイメージに意識的に触れるようにする。 						
授業方法	講義。毎回、視覚教材（パワーポイントやDVD）を活用する。						
評価基準と評価方法	発表40%、課題40%、授業への参加度（積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるか）20%						
教科書	とくに定めない。						
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションカルチャー論						
担当教員	中村 茂						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッションは私たちの日常に多大な影響力を持っている。ファッションのさまざまなトピックを取り上げながら、現代社会におけるファッションの文化的役割について考える。						
授業の概要	私たちの身体を覆う衣服は実用品であると同時に装飾品であり、これまで民族固有の服飾文化が形成されてきた。しかしファッションのグローバル化に伴い、世界各地の人々の装いは均質化の傾向を見せつつある。このように多大な影響力をもつ西洋発のファッションを、神戸・メディア・アート・色彩・身体といったキーワードに基づき、多角的な視点から考察することによって、現代のファッション文化に対する理解を深める。						
到達目標	ファッションに関する知識の習得のみならず、ファッションと密接に関連する様々なカルチャーとの相互作用に関心を深め、ファッションに対する多様で複合的な観点を獲得できる。						
授業計画	1) 04/11 ガイダンス (授業の目的、概要、進行に関する説明) 2) 04/18 ファッションとカルチャー、「ビジュアルカルチャー」とは 3) 04/25 神戸とファッション KOBE FASHIONの推進 4) 05/09 ファッションとメディア (1) 流行を伝えること 5) 05/16 ファッションとメディア (2) ファッション雑誌 6) 05/23 ファッションとメディア (3) 雑誌ができるまで 7) 05/30 ファッションとアート (1) 商品か作品か 8) 06/06 ファッションとアート (2) 美術館との関わり 9) 06/13 ファッションとアート (3) ファッション展 10) 06/20 ファッションと色彩 (1) スーツと黒 11) 06/27 ファッションと色彩 (2) ウエディングドレスと白 12) 07/04 ファッションと色彩 (3) 日本と西洋 13) 07/11 ファッションと身体 (1) 身体加工と素材加工 14) 07/18 ファッションと身体 (2) 男らしさと女らしさ 15) 07/25 講義の振り返りとまとめテスト						
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業ノート、配布プリントを用いて復習し、学習の定着をはかること。 授業中に紹介する参考書を用いて、授業内容に対する見識を広めること。						
授業方法	講義。毎回DVDやスライド資料を使用する。						
評価基準と評価方法	授業中の小レポート (50%) とまとめテスト (50%) を実施する。 欠席は減点とする。						
教科書	教科書は特に指定しないが、適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に指示する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッション構想実習						
担当教員	戸田 賀志子						
学期	後期隔週B	曜日・時限	火曜3~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	ファッションイラストの基礎技術を習得する						
授業の概要	人物デッサン、クロッキーなどの実習を通してファッションドローイングの基本を身につけ、ファッションデザインに必要な技術を習得する。また、さまざまな画材（マーカーや水彩など）の特性を理解し、衣服のフォルム、色彩、素材感、バランスなどの表現方法を学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージするデザインを効果的に表現することができる。 ・画材の特性を理解することができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 物体の観察及びデッサン線の練習 3. 人物デッサン1 顔・手・足 4. 人物デッサン2 ポーズ 5. 人物デッサン3 クロッキー 6. 衣服の表現1 ハンガーイラスト トップス 7. 衣服の表現2 ハンガーイラスト ボトムス 8. 見学実習1 テキスタイルデザインの現場を見学 9. 見学実習2 テキスタイルの現場を見学 10. テキスタイルの風合いや柄の表現1 織物 11. テキスタイルの風合いや柄の表現2 編物 12. 彩色 色鉛筆 13. 彩色 マーカー 14. 作品制作 15. 作品完成及び発表 						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・ファッションに関するメディア（雑誌や映像など）に登場するスタイル分析を行う。 ・身近にある物のドローイングを行う。 						
授業方法	実習。配布するプリントや視聴覚教材（DVD）を活用する。						
評価基準と評価方法	作品35%、発表35%、授業への参加度（積極的課題に取り組んでいるか、自分なりの表現を試みようとしているか）30%						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッション史						
担当教員	井上 裕之						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	古代から現在にいたるまでの服装の流れを社会的・心理的な面も踏まえながら学ぶ。						
授業の概要	ファッション史では、これまで孤立して捉えられてきた服飾の歴史を、美術や芸術、デザインなどの他分野、その時代の社会との関係性の中で学んでいく。 また服飾の歴史は現在のファッションデザイナーにとっても重要なインスピレーション源となっており、それらがデザインとしてどのように表現されているのか事例を紹介し、過去と現在を繋げて考えていく。 特に、現代衣服の基礎が確立した20世紀前半のモードに焦点をあて、服飾の歴史の流れ、変遷要因、美意識について読み解く。						
到達目標	<p>1. 認知的領域：知識・理解</p> <p>(1) 古代から現代までの衣服の変遷やその意匠について理解できる。</p> <p>(2) 各時代背景と衣装の特徴について、自分の言葉で文章にまとめることができる。</p> <p>(3) 授業で学んだ衣装について、専門用語を用いて衣装の特徴を説明することができる。</p> <p>2. 認知的領域：思考・判断</p> <p>(1) 題材を決め、その内容を読み解き、自らの考えを加えてレポートにまとめることができる。</p> <p>3. 情意的領域：関心・意欲</p> <p>(1) 展覧会や図書館に足を運び、美術、芸術、デザイン(衣装を含む)に触れる意欲を持つことができる。</p>						
授業計画	<p>1. オリエンテーション、人はなぜ服を着るのか： 15回の授業について。人はなぜ服を着るのか考える。</p> <p>2. 古代・中世の服飾：壁画、彫刻、挿絵を手がかりに古代・中世の服飾形態を読み取る。</p> <p>3. 16世紀から18世紀の服飾： 絵画などを用い、16世紀から18世紀の衣服形態と装飾にふれる。同時に各世紀におけるバロックやロココなどの美意識について。</p> <p>4. 19世紀の服飾：ペチコートで膨らませた、クリノリン・スタイル、バツル・スタイルへと形態変化していく女性の服飾について。また、改良服への取り組み、アール・ヌーヴォー等の芸術運動との関係性を知る。</p> <p>5. 20世紀前半の服飾①： ファッション分野におけるコルセットをつけない衣服の取り組みについて。ポール・ポワレ、マリアノ・フォルチュニー、マドレーヌ・ヴィオネをはじめとする新たな衣服デザインについて。</p> <p>6. 20世紀前半の服飾②： ガブリエル・シャネルを中心に、女性の社会進出と現代服、世界大戦とファッションについて。</p> <p>7. 1950年代： クリスチャン・ディオールを中心に、戦後の新しい衣服デザイン、オートクチュール黄金期について。</p> <p>8. 1960・70年代①： プレタポルテの台頭について、イヴ・サンローランやKENZOなどを例に見ていく。また、アメリカを中心としたポップ・アートとの関係について。</p> <p>9. 1960・70年代②： ロンドンでのストリートファッションの隆盛について、マリー・クワントやヴィヴィアン・ウエストウッドを例に見ていく。</p> <p>10. 1980年代①： 1980年代における三宅一生、山本耀司、川久保玲をはじめとする日本人デザイナーによる新しい価値観とパリ・モードについて。</p> <p>11. 1980年代②： 日本人デザイナーにより提案された新たな価値観を、映像資料をもとに読み解く。</p> <p>12. 1990年代①： ベルギー出身のデザイナー、マルタン・マルジェラ、アントワープ6を中心に、各国のモード学校の活動について。</p> <p>13. 1990年代②： 90年代以降顕著となる、アートとファッションの関係性について読み取る。</p> <p>14. 2000年代： 東京コレクションを中心に、他国からも注目を集める日本の様々なスタイルの独自性について考え、自分たちの身近に存在するファッションに目を向けてみる。</p> <p>15. これからのファッション： エコ、ユニバーサルファッション、毛皮の問題など、現在ファッションが取り組むことを求められる 問題について考える。</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：授業計画を参考に、教科書に目を通す。 授業後学習：授業で学んだ内容について、時代背景を踏まえながら、要点をまとめる。						
授業方法	講義						

評価基準と 評価方法	レポート(70%)、小レポート(30%)
教科書	深井晃子著 『ファッションの世紀 共振する20世紀のファッションとアート』 平凡社
参考書	深井晃子編著 『世界服飾史』 美術出版社

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションデザイン実習I						
担当教員	戸田 賀志子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	衣服の製作に必要とされる基礎的な知識と技術を身につける						
授業の概要	繊維製品を取り扱う上で必要となる基礎的な知識を学ぶ。あわせて作品を製作するための技術として手縫い、ミシン縫いの基礎を習得する。また、衣服の構成（立体）を理解するために二部式衣服の上衣（ブラウス）、下衣（スカート）の製図方法も学習する。その後、テーマに応じた作品の製作実習を通じ、知識と技術をより確実なものとする。学びの仕上げとして、各自が授業中に製作した作品や写真を添付した実習ノートを作成する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服製作に必要な基礎的技術、製作方法を習得することができる。 ・作品製作実習を通じて、計画性を伴う課題への取り組み方（分析力、自己管理能力）、創造性の発揮の仕方（創造力、思考力）を身につけることができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、縫い方の基礎1 手縫い 2. 縫い方の基礎2 ミシン縫い、スカートの製図 3. 胴部原型の製図（文化式） 4. ブラウスの製図 5. ブラウス製作1 型紙配置、裁断、しるしつけ、仮縫い 6. ブラウス製作2 補正、本縫い（ダーツ、身頃縫い合わせ、縫い代の整理） 7. ブラウス製作3 本縫い（衿づくり、芯地つけ） 8. ブラウス製作4 本縫い（袖づくり、裾のしまつ） 9. ブラウス製作5 衿つけ 10. ブラウス製作6 袖つけ、ボタンホール、ボタンつけ 11. スカート製作1 型紙配置、裁断、しるしつけ、仮縫い 12. スカート製作2 補正、表スカート本縫い 13. スカート製作3 裏スカート裁断、しるしつけ、本縫い 14. スカート製作4 表スカートファスナーつけ、表スカートと裏スカートとじ合せ 15. スカート製作5 ベルト作り、ベルトつけ、裾あげ、カギホックつけ、ループつけ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	次回の授業までに、課題と実習ノートを仕上げること。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	提出物（提出期限を守っているか）60%、授業への参加度（積極的に授業に参加し、課題に取り組んでいるか）40%						
教科書	授業内容に即したプリントを配布する。						
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションデザイン実習II						
担当教員	井上 裕之						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	衣服構成の理解、製作技法の習得						
授業の概要	ファッションデザイン実習IIでは、平面製図を用いたワンピースの製図法と縫製方法について学ぶ。パターンメイキングの基礎とデザインに応じたパターンの展開法を学び、ファッションデザイン実習IIIで学ぶ内容に繋げる。設定されたテーマに応じ、各自でデザインをおこない、オリジナルデザインのワンピースの制作をおこなう。						
到達目標	1. 認知的領域:知識・理解 ①デザインに応じたワンピースの平面製図法で設計できる。 ②ワンピースのデザイン、設計、型紙作成、裁断、縫製、仕上げの一連の工程を理解し、自分の体型に合ったワンピースを製作できる。 ③作成したワンピースのコンセプト、デザインについて、写真、文章を用いて説明できる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、ワンピースのデザイン解説、テーマ設定 2. 「デザイン①」：資料集め。ワンピースのデザイン。 3. 「デザイン②」：ワンピースのデザイン決定。 4. 「製図①」：前後身頃の製図。 5. 「製図②」：袖、衿の製図。 6. 「製図③」：見返し等、製図仕上げ。 7. 「トワル①」：トワルの裁断、印つけ。 8. 「トワル②」：トワル縫製。 9. 「トワル③」：トワル縫製仕上げ。試着。 10. 「裁断、印つけ」：本布の裁断、印つけ。 11. 「縫製①」：本布、前後身頃縫製。 12. 「縫製②」：本布、裏地前後身頃縫製。 13. 「縫製③」：本布、ファスナー、袖縫製。 14. 「縫製④」：本布、衿縫製。裾上げ。仕上げ。 15. 発表、まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後学習：次の授業までに課題を仕上げること。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	作品提出（ワンピース）100%						
教科書	○ファッションデザイン実習II 文化出版局、「誌上・パターン塾 vol.1トップ編」ISBN978-4-579-07342-9						
参考書	佐藤貴美枝 『アイテム別部分縫い集vol.2 ブラウス&ワンピース編』 文化出版局 2006年						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションデザイン実習III						
担当教員	井上 裕之						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜1~2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	デザインから衣服設計、縫製までの衣服製作工程の理解と製作技法の習得						
授業の概要	ファッションデザイン実習IIIでは、ジャケット制作、パンツの縫製、写真から製図をおこすデザインコピー、立体裁断の基本的な手法を学び、ファッションデザイン実習I・IIを総括し、「デザイン特別演習」や「卒業研究」へ繋がる衣装製作の土台作りを行う。						
到達目標	<p>1. 認知的領域：知識・理解</p> <p>①ジャケットを平面製図法で設計し、縫製までおこなえる。</p> <p>②パンツの縫製手法を理解できる。</p> <p>③衣服の写真からデザインを理解し、製図におこすことができる。</p> <p>④立体裁断を用いて、シャツワンピースの制作ができる。</p>						
授業計画	<p>1. オリエンテーション、ジャケット製図「身頃①」：前後身頃の製図。</p> <p>2. ジャケット製図「身頃②」：衿、袖の製図。</p> <p>3. ジャケット「裁断、印つけ①」：本布の裁断、印つけ。</p> <p>4. ジャケット「裁断、印つけ②」：裏布の裁断、印つけ。</p> <p>5. ジャケット「縫製①」：身頃の縫製。</p> <p>6. ジャケット「縫製②」：衿ぐりの縫製。</p> <p>7. ジャケット「縫製③」：裏身頃の縫製。</p> <p>8. ジャケット「縫製④」：袖の縫製。</p> <p>9. ジャケット「縫製⑤」：袖つけ。仕上げ。</p> <p>10. パンツ：パンツの縫製。</p> <p>11. デザインコピー①：製図。</p> <p>12. デザインコピー②：タオル（半身）の制作。</p> <p>13. 立体裁断法①：シャツワンピース、前身頃の制作。</p> <p>14. 立体裁断法②：シャツワンピース、後ろ身頃、袖の制作。</p> <p>15. 立体裁断法③：シャツワンピース、衿の制作、まとめ。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後学習：次の授業までに課題を仕上げること。						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	作品提出（ジャケット50%、デザインコピー20%、立体裁断30%）						
教科書							
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションビジネス演習I						
担当教員	高田 敏代						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッション市場の調査分析						
授業の概要	ファッションビジネス演習I、II、IIIでは、ファッション産業における商品企画・生産・販売の流れについて、関連する具体的な職種や実務を想定した演習を通じて理解を深める。演習Iでは消費者や市場の動向を的確に捉える「マーケティング」手法について、市場調査や情報収集の具体的な事例を体験する。またそれらの調査結果や情報、および「ライフスタイル」などの要因を基礎に、消費者のターゲットを定めたファッション予測や分析を行いマップ表現を制作することで、的確な販売戦略、商品企画に結びつけることを目的とする。主としてマーケティング。						
到達目標	ファッション市場の状況を調査し分析する事によってその特徴を知る						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ファッション業界の構造 生産から流通小売りまでの仕組みや構造とそこに関わる専門家について解説します 2. アパレル業界の最新市場（春夏） 小売市場全般とレディース・メンズ・キッズウエア市場の動向を解説します 3. アパレル業界の最新市場（春夏） ファッション雑貨・インナーウエア・テキスタイル市場の動向を解説します 4. 日本市場の顧客世代分析 現代女性の世代分析を基にその生活スタイルと消費志向の特徴を分析し解説します 5. 百貨店のブランド分析I 百貨店の売り場をリサーチしブランドが狙う年代と商品テイストの違いを調査する 6. 百貨店のブランド分析II 調査した内容をマトリックスに分析しブランドのポジショニングマップを作成する 7. 百貨店のブランド分析III I IIの調査結果を分かりやすくマップに仕上げ、グループごとにその内容を発表する 8. ファッション着装調査I グループに分かれて着装調査のテーマを決め、どのように実施するか計画を立てる 9. ファッション着装調査II 設定したテーマ（色、素材、スタイル、デザイン等）で今シーズンの着装を調査する 10. ファッション着装調査III IIで調査したファッション着装のデータを基に結果を分析しマップにまとめる 11. ファッション着装調査IV IIIで分析しまとめたファッション着装調査の内容結果をグループごとに発表する 12. ライフスタイル調査I 生活スタイルを調査する方法（アンケート、面談調査）決め調査シートを作成する 13. ライフスタイル調査II グループに分かれて調査世代を絞り込み生活スタイルの特徴を知る調査を実施する 14. ライフスタイル調査III Iの調査シートと面談で行ったIIの調査結果を基に生活スタイルの特徴を分析する 15. ライフスタイル調査IV グループごとに生活スタイル調査の分析結果を発表する。前期の演習内容のまとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	ファッション市場（百貨店、専門店、量販店）の顧客や取り扱い商品の調査						
授業方法	テキストや具体的な参考事例を基に学び、グループに分かれてマーケットリサーチを実際に体験する（学外実習）。そしてマーケットリサーチによって得た情報を基に商品開発のベースとなるコンセプトマップを作成する。						
評価基準と評価方法	消費者や市場の調査報告書および商品開発のためのコンセプトマップ（レポート、成果物）で評価します。						
教科書	オリジナルテキスト						

参考書	織研新聞、様々なファッション雑誌
-----	------------------

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションビジネス演習I						
担当教員	高田 敏代						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッション市場の調査分析						
授業の概要	ファッションビジネス演習I、II、IIIでは、ファッション産業における商品企画・生産・販売の流れについて、関連する具体的な職種や実務を想定した演習を通じて理解を深める。演習Iでは消費者や市場の動向を的確に捉える「マーケティング」手法について、市場調査や情報収集の具体的な事例を体験する。またそれらの調査結果や情報、および「ライフスタイル」などの要因を基礎に、消費者のターゲットを定めたファッション予測や分析を行いマップ表現を制作することで、的確な販売戦略、商品企画に結びつけることを目的とする。主としてマーケティング。						
到達目標	ファッション市場の状況を調査し分析する事によってその特徴を知る						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ファッション業界の構造 生産から流通小売りまでの仕組みや構造とそこに関わる専門家について解説します 2. アパレル業界の最新市場（春夏） 小売市場全般とレディース・メンズ・キッズウエア市場の動向を解説します 3. アパレル業界の最新市場（春夏） ファッション雑貨・インナーウエア・テキスタイル市場の動向を解説します 4. 日本市場の顧客世代分析 現代女性の世代分析を基にその生活スタイルと消費志向の特徴を分析し解説します 5. 百貨店のブランド分析I 百貨店の売り場をリサーチしブランドが狙う年代と商品テイストの違いを調査する 6. 百貨店のブランド分析II 調査した内容をマトリックスに分析しブランドのポジショニングマップを作成する 7. 百貨店のブランド分析III I IIの調査結果を分かりやすくマップに仕上げ、グループごとにその内容を発表する 8. ファッション着装調査I グループに分かれて着装調査のテーマを決め、どのように実施するか計画を立てる 9. ファッション着装調査II 設定したテーマ（色、素材、スタイル、デザイン等）で今シーズンの着装を調査する 10. ファッション着装調査III IIで調査したファッション着装のデータを基に結果を分析しマップにまとめる 11. ファッション着装調査IV IIIで分析しまとめたファッション着装調査の内容結果をグループごとに発表する 12. ライフスタイル調査I 生活スタイルを調査する方法（アンケート、面談調査）決め調査シートを作成する 13. ライフスタイル調査II グループに分かれて調査世代を絞り込み生活スタイルの特徴を知る調査を実施する 14. ライフスタイル調査III Iの調査シートと面談で行ったIIの調査結果を基に生活スタイルの特徴を分析する 15. ライフスタイル調査IV グループごとに生活スタイル調査の分析結果を発表する。前期の演習内容のまとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	ファッション市場（百貨店、専門店、量販店）の顧客や取り扱い商品の調査						
授業方法	テキストや具体的な参考事例を基に学び、グループに分かれてマーケットリサーチを実際に体験する（学外実習）。そしてマーケットリサーチによって得た情報を基に商品開発のベースとなるコンセプトマップを作成する。						
評価基準と評価方法	消費者や市場の調査報告書および商品開発のためのコンセプトマップ（レポート、成果物）で評価します。						
教科書	オリジナルテキスト						

参考書	織研新聞、様々なファッション雑誌
-----	------------------

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションビジネス演習II						
担当教員	高田 敏代						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	商品開発及び商品販売の為のコンセプト立案（ブランディング）						
授業の概要	ファッションビジネス演習II 演習IIでは演習Iの分析・予測から、具体的な商品企画のステップであるターゲット、情報、コンセプト、コーディネート、デザイン、プロモーションなどの各企画段階をシュミレーションすることで、「マーチャダイジング」の役割と方法について理解する。また、それに伴うライフステージ・サイクル、シーズンサイクル、ファッションマインド、テストレベルなどの要因についても理解しながら、変化の速いファッション業界に置いて、如何に消費者に的確に訴求できる商品を生産できるかという手法を修得することを目的とする。主としてマーチャダイジング。						
到達目標	対象マーケットを設定し、ブランドの構築をする。 ターゲット及びライフスタイル分析と商品企画コンセプトの立案。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. アパレル業界の最新市場（秋冬） 小売市場全般とレディス・メンズ・キッズウエア市場の動向を解説します 2. アパレル業界の最新市場（秋冬） ファッション雑貨・インナーウエア・テキスタイル等の動向を解説します 3. 商品企画Ⅰ ターゲットの設定 誰のための商品企画をするのかを設定する（性別、年齢、ライフスタイル、価値観等） 4. 商品企画Ⅱ ライフスタイル分析 ターゲットが365日どのような生活スタイルを持っているのかを分析する 5. 商品企画Ⅲ ライフスタイル分析 ターゲットの365日のライフスタイルを雑誌切り抜きでマップに表現する 6. 商品企画Ⅳ 商品イメージの分析 商品化したい商品（ファッション関連商品）の市場や商品の情報を集める 7. 商品企画Ⅴ 商品イメージの分析 商品化したい商品のイメージを具体的に雑誌切り抜きでマップに表現する 8. 商品企画Ⅵ 商品展開計画の作成 どのチャンネルでどのように販売するのか（価格、サイズ等）を決める 9. マップ作成Ⅰ コンセプトマップ コンセプトマップを作成する基本テクニック（画面づくり、構成、文字） 10. マップ作成Ⅱ コンセプトマップ PCでマップをまとめるテクニック（マップをつくるパソコンの基本操作） 11. マップ作成Ⅲ コンセプトマップ PCでマップをまとめるテクニック（スキャン、切り抜き、張付け、文字） 12. マップ作成Ⅳ コンセプトマップ I～Vの内容をプレゼンテーション用にビジュアルマップに仕上げる 13. マップ作成Ⅴ コンセプトマップ I～Vの内容をプレゼンテーション用にビジュアルマップに仕上げる 14. プレゼンテーションⅠ プレゼンテーションの仕方の解説（分りやすく話して伝える、マップを活用する） 15. プレゼンテーションⅡ 各自、作成した商品企画マップを使ってプレゼンテーションする（企画書提出） 						
授業外における学習（準備学習の内容）	対象ターゲット（アンケート）及びファッション市場の調査（マーケットリサーチ）						
授業方法	様々な事例を参考にブランドコンセプトマップを個別に作成する。（マンツーマン対応）						
評価基準と評価方法	最終成果物（オリジナルマップ）で評価する。						
教科書	オリジナルテキスト						

参考書	織研新聞、様々なファッション雑誌
-----	------------------

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションビジネス演習II						
担当教員	高田 敏代						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	商品開発及び商品販売の為のコンセプト立案（ブランディング）						
授業の概要	ファッションビジネス演習II 演習IIでは演習Iの分析・予測から、具体的な商品企画のステップであるターゲット、情報、コンセプト、コーディネート、デザイン、プロモーションなどの各企画段階をシュミレーションすることで、「マーチャндаイジング」の役割と方法について理解する。また、それに伴うライフステージ・サイクル、シーズンサイクル、ファッションマインド、テストレベルなどの要因に関する理解しながら、変化の速いファッション業界に置いて、如何に消費者に的確に訴求できる商品を生産できるかという手法を修得することを目的とする。主としてマーチャндаイジング。						
到達目標	対象マーケットを設定し、ブランドの構築をする。 ターゲット及びライフスタイル分析と商品企画コンセプトの立案。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. アパレル業界の最新市場（秋冬） 小売市場全般とレディース・メンズ・キッズウエア市場の動向を解説します 2. アパレル業界の最新市場（秋冬） ファッション雑貨・インナーウエア・テキスタイル等の動向を解説します 3. 商品企画I ターゲットの設定 誰のための商品企画をするのかを設定する（性別、年齢、ライフスタイル、価値観等） 4. 商品企画II ライフスタイル分析 ターゲットが365日どのような生活スタイルを持っているのかを分析する 5. 商品企画III ライフスタイル分析 ターゲットの365日のライフスタイルを雑誌切り抜きでマップに表現する 6. 商品企画IV 商品イメージの分析 商品化したい商品（ファッション関連商品）の市場や商品の情報を集める 7. 商品企画V 商品イメージの分析 商品化したい商品のイメージを具体的に雑誌切り抜きでマップに表現する 8. 商品企画VI 商品展開計画の作成 どのチャンネルでどのように販売するのか（価格、サイズ等）を決める 9. マップ作成I コンセプトマップ コンセプトマップを作成する基本テクニック（画面づくり、構成、文字） 10. マップ作成II コンセプトマップ PCでマップをまとめるテクニック（マップをつくるパソコンの基本操作） 11. マップ作成III コンセプトマップ PCでマップをまとめるテクニック（スキャン、切り抜き、張付け、文字） 12. マップ作成IV コンセプトマップ I～Vの内容をプレゼンテーション用にビジュアルマップに仕上げる 13. マップ作成V コンセプトマップ I～Vの内容をプレゼンテーション用にビジュアルマップに仕上げる 14. プレゼンテーションI プレゼンテーションの仕方の解説（分りやすく話して伝える、マップを活用する） 15. プレゼンテーションII 各自、作成した商品企画マップを使ってプレゼンテーションする（企画書提出） 						
授業外における学習（準備学習の内容）	対象ターゲット（アンケート）及びファッション市場の調査（マーケットリサーチ）						
授業方法	様々な事例を参考にブランドコンセプトマップを個別に作成する。（マンツーマン対応）						
評価基準と評価方法	最終成果物（オリジナルマップ）で評価する。						
教科書	オリジナルテキスト						

参考書	織研新聞、様々なファッション雑誌
-----	------------------

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションビジネス演習III						
担当教員	高田 敏代						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッション商品を販売する小売業における知識とスキルの習得						
授業の概要	演習Ⅲでは演習Ⅰ、Ⅱの商品企画までのプロセスを踏まえ、ファッション商品が店頭でどのように販売されるか、その販売促進の手法であるヴィジュアル・プレゼンテーション (VP)、ヴィジュアルマーチャンダイジング (VMD) の事例を具体的に学ぶ。売り場におけるPOP広告、顧客管理とダイレクトメール、売り場のレイアウトと演出、サイン・ディスプレイ企画と立案などの演習を通じて、商品企画・構成、コンセプトに応じたファッション商品のための魅力的な売り場づくりの手法を習得することを目的とする。コーディネートとスタイリングディスプレイ。						
到達目標	ファッションコーディネータとしてのスキル ①ファッショントレンド分析 ②ファッション商品販売 売り場作り (陳列と演出) ③小売業のマーチャンダイジングの知識						
授業計画	<p>1～3 ファッション市場の現状を知る 最新ファッション市場のトレンドを分析する インターナショナルデザイナーコレクションをもとにトレンド分析をする</p> <p>4～6 12ヶ月のマーチャンダイジング計画に就いて学び、シーズン計画書を作成する 小売業における品揃え計画書の作成 52週MD (マーチャンダイジング)</p> <p>7～8 DM、カタログ作成の知識を学び、設定した小売業のDM、POPを作成する</p> <p>9 ヴィジュアルプレゼンテーションⅠ 商品陳列の手法 (商品の並べ方の基本とカラー陳列)</p> <p>10 ヴィジュアルプレゼンテーションⅡ 商品演出の手法 (ボディを使ったコーディネート提案)</p> <p>11 ヴィジュアルプレゼンテーションⅢ 売り場作りと売り場運営の基本、販売促進のための知識 什器のレイアウトと導線、照明、サイン計画など</p> <p>12 ファッション商品の販売知識Ⅰ パーソナルアドバイス コンサルテーション販売 販売テクニック・個人に似合う色とデザインを知る</p> <p>13 ファッション商品の販売知識Ⅱ ファッションコミュニケーション (ファッション心理を学ぶ) パーソナリティを支援する服、パーソナリティを映し出す服</p> <p>14 ファッション販売実習 接客コミュニケーション 販売用語とコミュニケーションスキル</p> <p>15 ファッション販売実習 ロールプレイ 接客実習 いい接客と悪い接客の実践と評価</p>						
授業外における学習 (準備学習の内容)	ファッション市場の調査 (トレンド、売り場作り)						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	課題レポートと最終課題作品の評価						
教科書	オリジナルテキスト (各項目でプリントして渡します) ファッションコミュニケーション 東方出版 著者 高田敏代 ※デザイン心理学でも同じ教科書を使用します。						
参考書	各自で事前に買購入して頂く書籍は特になし、随時適切な資料や書籍を紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションビジネス論Ⅰ						
担当教員	石田原 弘						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッション産業、アパレル産業の研究						
授業の概要	アパレル産業を中心とするファッション産業をハウジングやレジャー産業などまで視野に入れた広い意味での生活産業と位置づけ、その現状を、繊維素材、流通販売、企画広告宣伝などの関連業界の動向を含め、広い角度から概観する。 また、ブランド、マーケティング、マーチャンダイジングなどの基本概念から、企画・生産・流通・消費のプロセスまでを理解し、消費生活における流行、ファッション性の意味を位置づける。 本論はファッションビジネス論Ⅱと併せて同演習ⅠⅡⅢにおける実践的なビジネス体験への導入とする。						
到達目標	ファッションという市場を消費者という立場ではなく、生産者・販売者の立場から見るができるようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ファッションビジネスとは 2. ファッションビジネスのマーケティング① 「3C4P」 3. ファッションビジネスのマーケティング② 「AIDMAの法則」 4. アパレル産業、繊維産業の構造 5. アパレル産業の流通 6. アパレルメーカーの変遷と現状① 「垂直統合」 7. アパレルメーカーの変遷と現状② 「百貨店との関係」 8. SPAの変遷と現状 9. ファストファッションの変遷と現状 10. ファッション小売り産業の変遷と現状 11. 百貨店の変遷と現状① 「日本初のデパートメントストア」 12. 百貨店の変遷と現状② 「勝ち組と負け組の経営統合」 13. 量販店、SCの変遷と現状 14. 専門店の変遷と現状 15. アウトレットの変遷と現状 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前は特に準備の必要はないが、授業後には、学習した内容を実際の市場で検証してみることに。						
授業方法	主として講義、						
評価基準と評価方法	課題レポートの提出（60%）および、出席状況（40%）						
教科書	特になし。 必要であればプリントを配布。						
参考書	特になし。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションビジネス論II						
担当教員	石田原 弘						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッション産業、アパレル産業の研究						
授業の概要	ファッションビジネス論 I に続き、デザイナーをはじめとする専門職種の業務の実際、マーケティングやライフスタイル情報の収集、マーチャライジングの企画方法、ファッションコーディネートとスタイリング、ディスプレイなどファッションビジネスを支える実務に関する知識を体系的に習得する。また、デザインの果たす役割、消費社会とライフスタイル、技術革新や環境問題などの要因も考慮し、消費者、生活者の視点から創造的なライフスタイルを提案できるファッションビジネスの在り方を探る。						
到達目標	ファッションという市場を消費者という立場ではなく、生産者・販売者の立場から見るができるようになる。						
授業計画	1. 昨今のファッションビジネス① 「人口ピラミッド」 2. 昨今のファッションビジネス② 「プロダクトアウトとマーケットイン」 3. 昨今のファッションビジネス③ 「トップ・オブ・ザ・ピラミッドとノームコア」 4. 昨今のファッションビジネス④ 「ファッションの空間的な拡がり」 5. 昨今のファッションビジネス⑤ 「垂直統合と水平統合」 6. 昨今のファッションビジネス⑥ 「平等と公平」 7. ファッションビジネスの計数知識 ① 「Plan Do See Check」 8. ファッションビジネスの計数知識 ② 「売上、仕入、粗利益」 9. ファッションビジネスの計数知識 ③ 「在庫」 10. ファッションビジネスの計数知識 ④ 「経費、営業利益」 11. ファッションビジネスの計数知識 ⑤ 「店の計数管理」 12. ファッションビジネスの広告宣伝 ① 「マスメディア」 13. ファッションビジネスの広告宣伝 ② 「マーケティングコミュニケーション」 14. 質疑応答及び試験 15. ファッションビジネスの変遷と現状						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前は特に準備の必要はないが、授業後には、学習した内容を実際の市場で検証してみる。						
授業方法	主として講義、また、学外研修としてアパレルメーカー、物流会社、ファッション美術館等の見学を実施する可能性もあります。また、10月の週末に学外でのファッションショー等の実施の可能性もあります。この場合、モデルやスタッフとして全員参加とし、次回の講義との振替となります。（実施会場での現地集合、現地解散、交通費は学生負担）						
評価基準と評価方法	試験（1回）60%および、出席状況 40%						
教科書	特になし。 必要であればプリントを配布。						
参考書	特になし。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションブランド論						
担当教員	平芳 裕子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	ファッションブランドの歴史と文化的役割について学ぶ						
授業の概要	現代ファッションにおけるブランドの影響力は大きく、憧れの商品を手に入れることは消費者の夢でもある。この講義では代表的なファッションブランドを取り上げ、ブランド形成の歴史とデザイナー個人が果たす役割、ブランドの独自性と永続性、商品企画とメディア戦略、ブランドイメージの意味について考える。また、日本人のブランド嗜好や現代ファッションにおけるブランドの役割を考慮に入れながら、文化産業としてのブランドの象徴性や物語性について考察する。						
到達目標	ファッションブランドの歴史に関する知識を習得することができる。 ブランド企業におけるファッションブランドの特性や成立過程について説明することができる。 ファッションブランドが社会において果たしてきた文化的役割に対する理解を深めることができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) ガイダンス (授業の目的、概要、進行に関する説明) 2) ファッションブランドとは何か 3) ポール・ポワレ: ファッションブランドの成立 4) シャネル (1): ガブリエル・シャネルの生涯とデザイン 5) シャネル (2): シャネルという神話 6) シャネル (3): 名称としての「シャネル・スーツ」 7) シャネル (4): シャネルとオートクチュール 8) シャネル (5): カール・ラガーフェルドのシャネル 9) エルメス (1): 19世紀パリと馬車の文化 10) エルメス (2): 馬具からファッションへ 11) エルメス (3): エルメスの商品デザインと制作 12) ルイ・ヴィトン (1) 19世紀パリと鉄道 13) ルイ・ヴィトン (2) トランクからファッションへ 14) ルイ・ヴィトン (3) LVMHのブランド展開 15) まとめと試験 						
授業外における学習 (準備学習の内容)	授業ノート、配布プリントを用いて復習し、学習の定着をはかること。 授業中に紹介する参考書を用いて、授業内容に対する見識を広げること。						
授業方法	講義。DVDやスライド資料を使用する。						
評価基準と評価方法	授業中の小レポート (50%) と期末テスト (50%) を実施する。						
教科書	教科書は指定しないが、適宜プリントを配布する。						
参考書	山田登世子『ブランドの世紀』マガジンハウス, 2000年 深井晃子編『ファッションブランドベスト101』新書館, 2001年 その他の参考書を授業中に指示する。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ファッションメディア演習						
担当教員	中村 茂						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	「ファッション・グラフィック・コミュニケーションとエディトリアル・デザイン」						
授業の概要	商品自体とは別にファッション業界から消費者へのコミュニケーションは様々なメディアを通じて行われている。ファッション写真、イメージ映像から、コレクションの展示、ファッションショーに至るまで、メディアを利用した多様なファッションイメージ表現の現状を踏まえ、優れた表現手法の分析・検討を通じて、オリジナルな発想に基づく写真・映像表現を提案する。また、そうした表現を素材に、特定のブランドを想定したDM、ポスター、雑誌広告などのメディア企画やデザインを試みる。						
到達目標	ブランドイメージを伝えるグラフィック・デザインの必要性と特徴が理解できる。またファッション関連テーマのパンフレット構成の基礎となるエディトリアル・デザインができる。						
授業計画	1. 09/25 オリエンテーション — 「ファッションメディア」の分類と現状— 2. 10/02 ブランドプロモーションツールの種類（カタログ、DM、ショップカードなど）とデザイン 3. 10/16 ブランドロゴとタイポグラフィ— 4. 10/23 仮想ブランドのロゴ制作 5. 10/30 エディトリアルデザインの基礎 — ページレイアウトとタイポグラフィ— 6. 11/06 イラストレーターによる冊子（リーフレット・パンフレット）の基礎 7. 11/13 雑誌スタイルの見開きページレイアウトデザイン 8. 11/20 ブランドプロモーションツール制作 (1) 対象ブランド選択・情報収集 9. 11/27 " (2) 3つ折りリーフレット（A4縦）構成プラン 10. 12/04 " (3) レイアウト詳細デザイン 11. 12/11 パンフレット（14頁B5サイズ）制作 (1) 個人別テーマ・ページ構成 14. 01/22 " (2) 見開きページレイアウト 15. 01/29 " (3) 表紙デザイン・印刷製本 教員の連絡先 s-naka [at] shoin.ac.jp						
授業外における学習（準備学習の内容）	ファッション雑誌、カタログなどの媒体における魅力的なブランドイメージのデザインを普段から注意深く観察する。						
授業方法	演習・実技						
評価基準と評価方法	平常点（段階的なスキル習得には出席が前提。欠席の場合は減点）30%、成果物70%						
教科書	特に無し。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ボディファッション論						
担当教員	徳山 孝子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	身体装飾、身体変形の領域を社会現象とともに学び、現代ファッションの意味を考える。						
授業の概要	現代のファッションは、衣服やアクセサリーを含む服飾という範囲を超え、スポーツウエアや下着などはもちろん、より身体に密着した領域であるヘアスタイル、化粧などの美容、ピアス、タトゥーなどの身体装飾・身体変形の領域にまで拡張し、様々な社会現象として注目を集めている。身体そのものを基盤とするようなこうした現象をボディファッションと捉え、その歴史を多様な民俗的な習慣にまでさかのぼり、その精神的・文化的な背景とともに現代ファッションに及ぼす意味について考える。						
到達目標	1) 人間はなぜ衣服を着るのかについて説明できる。 2) 身体加工の意味を述べることができる。 3) 身体装飾の意味を説明することができる。 4) 衣服の社会性を列挙することができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（課題テーマ、方針・進め方の説明） 2. 人間はなぜ衣服を着るのか？ 3. 「ファッションドリーム①」のビデオを見て、衣服の意味を考える。 4. 衣服の始まりと役割 5. 身体加工①なぜピアスをつけるのか、現象を考える。 6. 身体加工②「ファッションドリーム②」のビデオを見て、身体加工の現象を読み解く。 7. 身体加工③頭、体の部位の加工をコルセットを例に説明する。 8. 身体加工④「ブランド・フェラガモ」のビデオを見て、足の加工を纏足などの例に説明する。 9. 身体装飾①化粧をする意味を説明する。 10. 身体装飾②ボディーペインティング、TATOOをする意味を説明する。 11. 身体装飾③身体を飾る現象を読み解く 12. 衣服の社会性①制服の意味を考える 13. 衣服の社会性②モード化する社会を流行から読み解く 14. ジャポニズムを例に洋服と着物の違いから体型を説明する 15. 究極の身体美とは何かをまとめる 						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習は、授業内で説明する。 授業後学習は、学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。						
授業方法	プリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める。						
評価基準と評価方法	レポート100%						
教科書	教科書としては、特に用いないが、プリントなどを使用する。						
参考書	バーナード・ルドフスキー著『みっともない人体』（鹿島出版会） 鷺田清一著『ファッションという装置』（河合ブックレット17） ジョアン・フィンケルシュライン著、成実弘至訳『ファッションの文化社会学』（せりか書房）						

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	モダンアート実習						
担当教員	川嶋 守彦						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	アートから学ぶ、イメージング方法の研究とその実践						
授業の概要	<p>アートやデザインは言葉や言語を介さずに自らのイメージの持つ力で他者とのコミュニケーションの可能性を示すものであり、個人の交わす日々の会話やジェスチャーと同じ表現の一形態ですが、とてもシンプルで強い印象を人に与えるものです。</p> <p>では、そのアートやデザインはどのような思考によって表現されているのか。その表現の核となるイメージを見出し展開する具体的な表現方法を実制作を通して学びます。簡単なデッサンから始め、基礎的な絵画技法を各テーマと共に習得してゆき、最終課題の自由制作へ向けて授業は進んでいきます。</p> <p>当授業は主に絵画やスケッチ制作を基本としていますが、着想の仕方や構想の展開は絵画だけで成されるものではありません。履修者それぞれに合った表現形態の可能性を模索します。各回に設定されたテーマはそのための補助線となります。当授業ではモダンアートの難解さはありません。手を通しての学び、つまり体験する美術に主眼を置いています。</p>						
到達目標	<p>基礎的なデッサンや着彩技法を習得することが出来る。</p> <p>また、実制作を通じた個別の発想力、技術の確立はそれぞれの履修者にとって、今後の多彩な表現におけるヒントとなり、かつクリエイティブな力を育成することが出来る。</p>						
授業計画	<p>基礎技術の習得</p> <p>第1回 ガイダンス（授業内容の説明）</p> <p>第2回 石膏デッサン（簡単な幾何模型を用いたデッサン）</p> <p>第3回 石膏デッサン</p> <p>第4回 石膏をモチーフとした着彩</p> <p>第5回 静物をモチーフとした着彩（身の回りの物をモチーフとした絵画制作）</p> <p>イメージング技術の研究</p> <p>第6回 タッチと色彩（色彩とタッチによる絵画制作）</p> <p>第7回 10のイメージカード制作（10パターンのイメージを生かしたカードの制作）</p> <p>第8回 アートを観賞する（美術施設へのアート見学）</p> <p>第9回 ことばから（4つの名詞をイメージの核にしたスケッチ制作）</p> <p>第10回 身体性の表現（退屈な身体、繰り返すイメージ）</p> <p>第11回 カメラによるイメージハンティング（各自のテーマに沿った被写体の撮影）</p> <p>第12回 空想家具（3点のデザイン画制作）</p> <p>第13回 自由制作の構想（各自がテーマを見つけ出し具体化の構想スケッチ制作）</p> <p>第14回 自由制作（自らが見つけたテーマと素材で制作）</p> <p>第15回 自由制作（自らが見つけたテーマと素材で制作とその講評）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>普段何気なくみている物や現象に注視すること。</p> <p>思わぬところに制作時のアイデアやヒントが隠れています。これらを授業内容とリンクさせることにより豊でクリエイティブな表現が可能となります。</p>						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	出題テーマに対する理解、応用、発想力30%、技術力30%、熱心さ(受講姿勢)40%で評価します。						
教科書							
参考書							

科目区分	ファッション・ハウジングデザイン学科専門教育科目						
科目名	ライフスタイル論						
担当教員	徳山 孝子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	生活文化を軸としてライフスタイルを考える。						
授業の概要	ファッションおよびハウジングデザインは個人や家族の生活様式、ライフスタイルと密接な関係にある。戦後の経済発展とライフスタイルの多様化・個性化、モノからこころへの価値観の変化とライフスタイル、レジャー・スポーツと衣食住、生活創造産業とライフスタイル・マーケティング、少子化・高齢化時代のライフスタイル、健康福祉とライフスタイル、エコロジーや省資源・省エネルギーとライフスタイルなどの観点からライフスタイルについて考える。						
到達目標	1) 私のライフスタイルが説明できる。 2) 図表を読み取り、ファミリーライフサイクルの図が作れる。 3) ライフスタイルのファッション計画が作れる。 4) ライフスタイルに合わせたコーディネートが説明できる。						
授業計画	1. オリエンテーション 課題テーマ、方針・進め方の説明 2. ライフスタイルとは何か？ 3. ライフスタイル①：TPOと購買行動 4. ライフスタイル②：パーソナルカラー 5. ライフスタイル③：ワードローブチェック 6. 家族周期と私のライフスタイル 7. 家庭生活と家族Ⅰ ー家庭と家族のあり方の変化ー 8. 家庭生活と家族Ⅱ ー女性のライフスタイルの変化ー 9. ライフデザイン（生活設計）とその考え方 10. 世代によって異なるライフデザイン 11. 生活時間の管理・労働・余暇 12. 世代別ライフスタイル分析 13. 雑誌から読み取るライフスタイル 14. ライフスタイルとファッション計画 15. ライフスタイルに合わせたコーディネート、最後に試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習は、授業内で説明する。 授業後学習は、学んだ内容を整理し、要点をまとめる。理解できなかった内容は、次の授業で質問する。授業中にできなかった課題は完成させる。						
授業方法	講義と演習。プリントを配布する。そのプリントに添って講義する中で、画像を使って確認をしながら進める。						
評価基準と評価方法	定期試験50%、提出物50%						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						